昭和61年度　神戸市埋蔵文化財年報

1989

神戸市教育委員会

巻首図版

胡籙金具（舞子古墳群毘沙門１号墳出土）

陰刻花文灰釉陶器（上池遺跡出土）

昭和61年度　神戸市埋蔵文化財年報

1989

神戸市教育委員会

序

神戸市教育委員会では、本年度も文化財の保護・啓発・調査事業を意欲的に進めてまいりました。

埋蔵文化財関係ではここ数年、インナーシティの再生のための都市再開発事業や、交通網の整備などの開発の増加に伴う、緊急発掘調査の件数が年々増大しております。このような状況に対し、年々学芸員を増員し、調査体制の充実を図ってまいりました。

本書は、昭和61年度に実施した発掘調査の概要を記したもので、市内で発見された「祖先の遺産」の記録です。市内の遺跡や、その出土遺物を通じて、神戸の歴史を知って頂ければ幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり、御協力を賜りました関係各位に対し、深く感謝をいたします。

平成元年３月

神戸市教育長　　緒　方　　学

例　　言

1．本書は、神戸市教育委員会が昭和61年度に実施した埋蔵文化財事業の概要である。事業に関わる発掘調査は、神戸市文化財専門委員の指導を得て神戸市教育委員会が実施した。

調査関係者組織表

神戸市文化財専門委員（埋蔵文化財部会委員）

野地　脩左	神戸大学名誉教授	
小林　行雄	京都大学名誉教授	
檀上　重光	神戸新聞社監査役	神戸市立博物館副館長
宮本長二郎	奈良国立文化財研究所	

教育委員会事務局

教育長	山本　治郎				
社会教育部長	金治　　勉				
文化財課長	増川　修三				
埋蔵文化財係長	奥田　哲通				
事務担当　学芸員	口野　博史				
〃	丹治　康明				
調査担当　学芸員	宮本　郁雄		調査担当	学芸員	池野　素子
〃	丸山　　潔			〃	西岡　誠司
〃	西岡　巧次			〃	谷　　正俊
〃	渡辺　伸行			〃	山本　雅和
〃	菅本　宏明			〃	安田　　滋
〃	千種　　浩	（保存処理）		〃	前田　佳久
〃	黒田　恭正				須藤　　宏

2．本書に掲載した位置図は、神戸市立中学校教育研究会社会科研究部編集（神戸市スポーツ教育公社発行）の５万分の１神戸市全図を使用した。

3．本書は、埋蔵文化財発掘調査一覧表に示した各担当者が執筆して作成した。

4．表紙写真は、舞子古墳群毘沙門１号墳出土の須恵器器台（表）、同出土装飾壺片（荷物を担ぐ人）である。

目　　次

序
例　言
Ⅰ．昭和61年度事業概要……1
昭和61年度埋蔵文化財発掘調査一覧表……6
昭和61年度神戸市埋蔵文化財調査地位置図……12

Ⅱ．昭和61年度の発掘調査……19
1．西神ニュータウン内遺跡……19
西神第10地点遺跡……19
西神第11地点遺跡……22
西神第12地点遺跡……30
西神第56・57地点遺跡……39
西神第65地点遺跡……45
2．神出・田井遺跡……51
3．新内古墳……63
4．出合遺跡……67
5．上池遺跡……83
6．押部遺跡……91
7．如意寺塔頭址・栃木遺跡……97
8．養田遺跡……111
9．天王山５号墳……117
10．狐塚古墳……123
11．五色塚古墳……129
12．舞子古墳群毘沙門１号墳……133
13．長田神社境内遺跡……145
14．神楽遺跡 ― 第４次 ― ……149
15．雪御所遺跡……155
16．湊川遺跡……161
17．楠・荒田町遺跡……167
18．日暮遺跡……173
19．西求女塚古墳……181

20．郡家遺跡…… 187
城の前地区第17次調査…… 188
城の前地区第18次調査…… 193
城の前地区第19次調査…… 196
城の前地区第20次調査…… 198
城の前地区第21次調査…… 201
城の前地区第22次調査…… 205
城の前地区第23次調査…… 209
下山田地区第１次調査…… 217
21．住吉宮町遺跡 ― 第４次 ― …… 221
22．山田・中遺跡…… 231
23．北神第47地点遺跡…… 245
24．宅原遺跡（有井地区）…… 249
25．宅原遺跡（内垣地区）…… 285
26．定塚古墳群…… 295
27．竜ヶ谷遺跡…… 305

Ⅲ．昭和61年度の保存科学処理…… 313

Ⅳ．サヌカイトの流通から見た弥生時代摂播国境地域の交流関係
（藁科哲夫・丸山潔・東村武信）…… 319

挿　図　目　次

巻首図版 胡籙金具（舞子古墳群毘沙門１号墳）（上）
灰釉陶器（上池遺跡）（下）
fig．1　第10・11・12地点遺跡位置図……19
fig．2　調査地全景（南から）〔写真〕……20
fig．3　集石墓と蔵骨器〔写真〕……21
fig．4　集石墓〔写真〕……21
fig．5　蔵骨器〔写真〕……21
fig．6　第11地点全景（南から）〔写真〕…22
fig．7　第11地点遺構全体平面図……22
fig．8　ＳＴ03平面・断面図……23
fig．9　出土土器実測図……23
fig．10　調査地東半部〔写真〕……24
fig．11　ＳＴ03〔写真〕……24
fig．12　第11－２・３地点平面図……25
fig．13　ＳＴ01平面・断面図……26
fig．14　土器埋納坑平面・断面図……27
fig．15　古墳全景（東から）〔写真〕……27
fig．16　ＳＴ01平面・断面図……28
fig．17　ＳＴ01（東から）〔写真〕……28
fig．18　土器埋納坑〔写真〕……29
fig．19　第11－２・３地点出土須恵器……29
fig．20　第12-1地点全景（西から）〔写真〕…30
fig．21　第12－１地点平面図……31
fig．22　第12－２地点遺構平面図……32
fig．23　ＳＫ01平面・断面図……33
fig．24　第12-2地点全景（南から）〔写真〕…34
fig．25　ＳＫ01〔写真〕……34

fig. 26　紡錘車……35
fig. 27　ＳＫ01出土須恵器実測図……35
fig. 28　ＳＫ01遺物出土状況〔写真〕……35
fig. 29　第12-3地点全景(南から)〔写真〕…36
fig. 30　第12-3地点遺構平面図……37
fig. 31　第12-3地点墳頂部須恵器出土状況〔写真〕……38
fig. 32　第12－３地点出土須恵器実測図…38
fig. 33　第56・57地点遺跡位置図……39
fig. 34　第56・57地点遠景(東から)〔写真〕40
fig. 35　調査地全景（西から)〔写真〕……40
fig. 36　第56・57地点遺跡遺構平面図……41
fig. 37　ＳＸ01・ＳＫ01〔写真〕……42
fig. 38　ＳＸ02・ＳＫ02〔写真〕……42
fig. 39　ＳＸ01・ＳＫ01平面・断面図……43
fig. 40　ＳＸ02・ＳＫ02平面・断面図……43
fig. 41　ＳＸ01・02（東から)〔写真〕……44
fig. 42　第65地点遠景（西から)〔写真〕…45
fig. 43　調査地全景（西から)〔写真〕……45
fig. 44　調査地遺構平面図……46
fig. 45　ＳＴ01平面・断面図……47
fig. 46　調査地北半（北から)〔写真〕……48
fig. 47　ＳＴ01土器棺出土状況〔写真〕…48
fig. 48　ＳＫ02（南から)〔写真〕……48
fig. 49　ＳＤ01～03〔写真〕……49
fig. 50　ＳＤ01土器出土状況〔写真〕……49
ffg. 51　出土弥生土器実測図……50
fig. 52　調査地位置図……51
fig. 53　包含層石鏃実測図……51
fig. 54　調査地遺構平面図……52
fig. 55　ＳＢ01〔写真〕……53
fig. 56　調査地南半遺構平面図……53
fig. 57　土坑群全景〔写真〕……54
fig. 58　土坑群〔写真〕……55
fig. 59　土坑群〔写真〕……55
fig. 60　ＳＫ46〔写真〕……55
fig. 61　ＳＫ45〔写真〕……56
fig. 62　ＳＫ112・113〔写真〕……56
fig. 63　木製鋤（ＳＫ112)……57
fig. 64　ＳＫ112鋤出土状況〔写真〕……57
fig. 65　ＳＫ45平面・断面図……58
fig. 66　ＳＫ112・113平面・断面図……58
fig. 67　土坑出土須恵器……59
fig. 68　土坑出土須恵器……60
fig. 69　土坑出土須恵器・瓦拓影……60
fig. 70　ＳＫ1003平面・断面図……61
fig. 71　ＳＫ1001遺物出土状況〔写真〕…62
fig. 72　ＳＫ1003〔写真〕……62
fig. 73　調査地位置図……63
fig. 74　５トレンチ平面図……64
fig. 75　５トレンチ〔写真〕……64
fig. 76　新内古墳平面図……65
fig. 77　出土埴輪実測図……65
fig. 78　新内古墳全景（南から)〔写真〕…66
fig. 79　調査地位置図……67
fig. 80　第１遺構面平面図……68
fig. 81　第１遺構面全景（北から)〔写真〕…69
fig. 82　ＳＤ06獣足跡〔写真〕……69
fig. 83　第２遺構面平面図……70
fig. 84　ＳＢ02柱穴断面図……71
fig. 85　ＳＢ02柱穴礎板出土状況〔写真〕…71
fig. 86　ＳＢ02柱穴礎板出土状況〔写真〕…71
fig. 87　ＳＢ02平面・断面図……72
fig. 88　ＳＢ01（北から)〔写真〕……72
fig. 89　ＳＢ02（東から)〔写真〕……72
fig. 90　ＳＢ03（南から)〔写真〕……73
fig. 91　ＳＢ04・05（北から)〔写真〕……73
fig. 92　ＳＢ01・03・04・05平面図……74
fig. 93　ＳＤ08遺物出土状況平面・断面図75
fig. 94　ＳＤ08出土須恵器実測図……75
fig. 95　第２遺構面全景（北から)〔写真〕76
fig. 96　ＳＤ07・16（南から)〔写真〕……76
fig. 97　ＳＤ08遺物出土状況〔写真〕……76
fig. 98　第３遺構面遠景（南から)〔写真〕77
fig. 99　第３遺構面全景（北から)〔写真〕77
fig.100　第３遺構面平面図……77
fig.101　南土器群平面・断面図……79
fig.102　北・中央土器群平面・断面図……80
fig.103　土器群（西から)〔写真〕……81
fig.104　南土器群（北から)〔写真〕……81
fig.105　中央土器群（西から)〔写真〕……81
fig.106　土器群出土土器実測図……82
fig.107　調査区位置図……83
fig.108　調査地位置図……83
fig.109　第Ⅰ遺構面平面図……84
fig.110　第Ⅱ遺構面平面図……84
fig.111　ＳＢ01平面図……84
fig.112　ＳＸ02平面・断面図……85
fig.113　ＳＢ01〔写真〕……86
fig.114　ＳＸ02〔写真〕……86
fig.115　包含層・ＳＸ02出土土器実測図…87
fig.116　ＳＸ02出土土器実測図……88
fig.117　第２調査区平面図……89
fig.118　第２調査区全景〔写真〕……89

fig.119　ＳＸ02出土灰釉陶器〔写真〕……90
fig.120　ＳＸ02出土須恵器・土師器〔写真〕……90
fig.121　調査地位置図……91
fig.122　Ａ地区・Ⅰトレンチ出土遺物実測図……92
fig.123　Ⅲトレンチ平面図……93
fig.124　Ⅰトレンチ〔写真〕……93
fig.125　Ⅲトレンチ南半部〔写真〕……93
fig.126　Ⅲトレンチ（南から）〔写真〕……94
fig.127　Ⅲトレンチ弥生時代溝（北から）〔写真〕……94
fig.128　弥生時代溝断面〔写真〕……94
fig.129　Ⅲ・Ⅳトレンチ出土土器実測図…95
fig.130　Ⅳトレンチ（南から）〔写真〕……96
fig.131　Ⅴトレンチ（南から）〔写真〕……96
fig.132　Ⅴトレンチ焼土坑〔写真〕……96
fig.133　如意寺塔頭址調査地位置図……97
fig.134　第１トレンチ平面図……98
fig.135　第２トレンチａ地区出土土器実測図……99
fig.136　第２トレンチａ区全景〔写真〕…99
fig.137　第２トレンチａ区ＳＤ04～08〔写真〕……99
fig.138　第２トレンチａ・ｂ区遺構平面図……100
fig.139　第２トレンチｂ区全景〔写真〕　101
fig.140　ＳＫ02・03平面図……102
fig.141　ＳＫ02・03〔写真〕……102
fig.142　第２トレンチｂ区出土土器実測図……103
fig.143　第２トレンチｃ区石敷遺構〔写真〕……103
fig.144　第２トレンチｃ区平面図……104
fig.145　第２トレンチｄ区平面図……104
fig.146　第２トレンチｄ区全景〔写真〕　104
fig.147　ｄ区ＳＸ03出土土器実測図……104
fig.148　第３トレンチ遺構平面図……105
fig.149　ＳＸ04平面・断面図……105
fig.150　ＳＸ04断面〔写真〕……106
fig.151　ＳＥ01断面〔写真〕……106
fig.152　ＳＥ01平面・断面図……107
fig.153　ＳＥ01出土木製舟形実測図……107
fig.154　第３トレンチＳＥ01出土土器実測図……108
fig.155　第４トレンチ調査地位置図……108
fig.156　第４トレンチ中世遺構平面図…109
fig.157　第４トレンチ10～11区中世遺構〔写真〕……109
fig.158　第４トレンチ13～15区中世遺構〔写真〕……109
fig.159　第４トレンチ旧河道上層出土土器実測図……110
fig.160　調査地位置図……111
fig.161　１トレンチ５～６区平面図……112
fig.162　１トレンチＳＤ01とピット〔写真〕……112
fig.163　ＳＫ01〔写真〕……112
fig.164　３トレンチＳＫ01〔写真〕……113
fig.165　ＳＫ01平面図……113
fig.166　３トレンチ平面図……114
fig.167　３トレンチ全景〔写真〕……114
fig.168　ＳＤ01～03〔写真〕……114
fig.169　調査地全景〔写真〕……115
fig.170　出土土器実測図……116
fig.171　調査地位置図……117
fig.172　墳丘実測図……118
fig.173　墳丘全景〔写真〕……119
fig.174　中央埋葬施設〔写真〕……119
fig.175　中央埋葬施設断面図……120
fig.176　埋葬施設平面図……120
fig.177　盗掘によりあらわれた中央埋葬施設断面〔写真〕……121
fig.178　中央埋葬施設西半棺床面検出状況〔写真〕……121
fig.179　中央埋葬施設東半鉄剣出土状況〔写真〕……121
fig.180　東埋葬施設掘形〔写真〕……122
fig.181　出土土器実測図……122
fig.182　調査地位置図……123
fig.183　トレンチ位置図……124
fig.184　トレンチ平面図……125
fig.185　狐塚古墳と調査地〔写真〕……126
fig.186　第１トレンチ〔写真〕……126
fig.187　第１トレンチ狐塚古墳外堀〔写真〕……127
fig.188　第１トレンチ弥生時代溝およびピット検出状況〔写真〕……127
fig.189　第２トレンチ全景〔写真〕……127
fig.190　第２トレンチ狐塚古墳外堀〔写真〕……128
fig.191　第３トレンチ全景〔写真〕……128
fig.192　調査地位置図……129
fig.193　トレンチ・遺構全体図……130

fig.194　トレンチ平面図…… 131
fig.195　第２トレンチ溝〔写真〕…… 132
fig.196　第３トレンチ溝〔写真〕…… 132
fig.197　第５トレンチ溝〔写真〕…… 132
fig.198　第２・３・５トレンチ〔写真〕 132
fig.199　舞子古墳群位置図…… 133
fig.200　調査地全景（南から)〔写真〕… 134
fig.201　中央土坑出土弥生土器…… 135
fig.202　調査地遺構平面図…… 135
fig.203　ＳＢ01（南から)〔写真〕…… 136
fig.204　ＳＢ01平面図…… 136
fig.205　ＳＢ01中央土坑平面・断面図… 136
fig.206　毘沙門１号墳平面図…… 137
fig.207　玄室床面遺物出土状況…… 138
fig.208　埋葬施設全景〔写真〕…… 139
fig.209　周溝内須恵器出土状況〔写真〕 139
fig.210　埋葬施設近景（南から)〔写真〕 140
fig.211　玄室床面円礫〔写真〕…… 140
fig.212　埋葬施設掘形全景および弥生時代住居址（南から)〔写真〕…… 140
fig.213　荷を担ぐ人（須恵器）実測図… 141
fig.214　玄室床面出土須恵器実測図…… 141
fig.215　周溝出土須恵器実測図…… 142
fig.216　玄室床面出土遺物実測図…… 143
fig.217　胡籙金具出土状況〔写真〕…… 143
fig.218　金環出土状況〔写真〕…… 143
fig.219　古墳出土須恵器〔写真〕…… 144
fig.220　調査地位置図…… 145
fig.221　Ⅰトレンチ〔写真〕…… 146
fig.222　Ⅱトレンチ〔写真〕…… 146
fig.223　調査地遺構平面図…… 147
fig.224　調査地全景〔写真〕…… 148
fig.225　中央炉内土器出土状況〔写真〕 148
fig.226　調査地位置図…… 149
fig.227　調査地東半部（北から)〔写真〕 149
fig.228　調査地西半部（北から)〔写真〕 149
fig.229　調査地遺構平面図…… 150
fig.230　ＳＥ01出土滑石製品実測図…… 151
fig.231　ＳＥ01〔写真〕…… 151
fig.232　ＳＥ01平面図…… 151
fig.233　調査地西半南〔写真〕…… 152
fig.234　調査地東半南（ＳＢ01)〔写真〕 152
fig.235　調査地西半北（西から)〔写真〕 153
fig.236　調査地西半北（西から)〔写真〕 153
fig.237　ＳＥ01土器出土状況〔写真〕… 153
fig.238　出土土器実測図…… 154
fig.239　調査地位置図…… 155
fig.240　調査地北半下層全景〔写真〕… 155
fig.241　調査地平面図…… 156
fig.242　石垣１平面・立面図…… 157
fig.243　石垣２全景〔写真〕…… 158
fig.244　石垣１近景〔写真〕…… 158
fig.245　石列全景〔写真〕…… 158
fig.246　ＳＸ01・ＳＸ02断面図…… 159
fig.247　ＳＸ01〔写真〕…… 159
fig.248　ＳＸ01出土土器…… 160
fig.249　調査地位置図…… 161
fig.250　調査地遺構平面図…… 162
fig.251　調査地東半部（西から)〔写真〕 163
fig.252　掘立柱建物１（北から)〔写真〕 165
fig.253　掘立柱建物２（南から)〔写真〕 165
fig.254　竪穴住居１　（南から)〔写真〕 165
fig.255　竪穴住居２　（東から)〔写真〕 166
fig.256　竪穴住居６　（西から)〔写真〕 166
fig.257　調査地位置図…… 167
fig.258　調査地遠景〔写真〕…… 167
fig.259　調査地遺構平面図…… 168
fig.260　方形周溝墓全景〔写真〕…… 170
fig.261　出土土器実測図…… 171
fig.262　ＳＤ04土器出土状況〔写真〕… 172
fig.263　ＳＤ05土器出土状況〔写真〕… 172
fig.264　調査地位置図…… 173
fig.265　古墳時代遺構平面図…… 174
fig.266　古墳時代遺構面全景〔写真〕… 175
fig.267　ＳＢ01・02〔写真〕…… 176
fig.268　ＳＸ01〔写真〕…… 176
fig.269　平安～江戸時代遺構平面図…… 177
fig.270　平安時代遺構面全景〔写真〕… 178
fig.271　掘立柱建物群（西から)〔写真〕 178
fig.272　掘立柱建物（北から)〔写真〕… 178
fig.273　地鎮遺構甕出土状況〔写真〕… 179
fig.274　地鎮遺構土師器皿出土状況〔写真〕…… 179
fig.275　銅 鏃…… 180
fig.276　延喜通宝拓影 …… 180
fig.277　出土土器実測図…… 180
fig.278　調査地位置図…… 181
fig.279　トレンチ位置図…… 182
fig.280　第５トレンチ・11トレンチ平面図…… 183
fig.281　第４トレンチｂ地区〔写真〕… 184
fig.282　第５トレンチ〔写真〕…… 184
fig.283　第７トレンチａ地区〔写真〕… 184
fig.284　第７トレンチａ地区平面・断面図

…… 185
fig.285 第11トレンチ〔写真〕…… 186
fig.286 調査地位置図…… 187
fig.287 第１次遺構面全景〔写真〕…… 188
fig.288 第１遺構面柱穴群平面図…… 189
fig.289 第１遺構面住居址平面図…… 189
fig.290 ＳＢ01・02・03（北から）〔写真〕
…… 190
fig.291 ＳＢ02床面土器出土状況〔写真〕190
fig.292 第２遺構面平面図…… 191
fig.293 ＳＢ05（北から）〔写真〕…… 192
fig.294 ＳＢ04（西から）〔写真〕…… 192
fig.295 調査地全景〔写真〕…… 193
fig.296 ＳＸ01〔写真〕…… 194
fig.297 ＳＤ01〔写真〕…… 194
fig.298 調査地遺構平面図…… 194
fig.299 出土遺物実測図…… 195
fig.300 調査地全景（北から）〔写真〕… 196
fig.301 調査地遺構平面図…… 196
fig.302 出土土器実測図…… 197
fig.303 ＳＢ01（西から）〔写真〕…… 197
fig.304 ＳＢ01平面図…… 197
fig.305 調査地全景（北から）〔写真〕… 198
fig.306 調査地平面図…… 198
fig.307 流路南壁断面〔写真〕…… 199
fig.308 流路内出土土器実測図…… 199
fig.309 流路内出土土器実測図…… 200
fig.310 調査地全景〔写真〕…… 201
fig.311 上層掘立柱建物〔写真〕…… 202
fig.312 ＳＢ05〔写真〕…… 202
fig.313 調査地遺構平面図…… 202
fig.314 ＳＢ04〔写真〕…… 203
fig.315 ＳＢ05土器出土状況〔写真〕… 203
fig.316 出土土器実測図…… 204
fig.317 調査地全景（北から）〔写真〕… 206
fig.318 調査地北半部（南から）〔写真〕‥206
fig.319 調査地南半部（北から）〔写真〕 206
fig.320 調査地遺構平面図…… 206
fig.321 ＳＢ02（西から）〔写真〕…… 207
fig.322 出土土器実測図…… 208
fig.323 調査地全景（西から）〔写真〕… 209
fig.324 ＳＸ01〔写真〕…… 210
fig.325 ＳＸ01〔写真〕…… 210
fig.326 ＳＸ01平面・断面図…… 210
fig.327 ＳＢ05（南から）〔写真〕…… 211
fig.328 ＳＢ06（北から）〔写真〕…… 211
fig.329 ＳＢ02・03・04（西から）〔写真〕211
fig.330 調査地遺構平面図…… 211
fig.331 ＳＢ01〔写真〕…… 213
fig.332 ＳＢ04〔写真〕…… 213
fig.333 ＳＢ02竈と煙道〔写真〕…… 213
fig.334 ＳＢ03〔写真〕…… 214
fig.335 ＳＢ03竈内土器出土状況〔写真〕214
fig.336 同完掘状況〔写真〕…… 214
fig.337 出土土器実測図…… 216
fig.338 調査地全景（東から）〔写真〕… 217
fig.339 調査地遺構平面図…… 218
fig.340 掘立柱建物柱穴断面図…… 219
fig.341 ＳＢ01（東から）〔写真〕…… 219
fig.342 出土土器実測図…… 220
fig.343 調査地位置図…… 221
fig.344 調査地地区割設定図…… 222
fig.345 Ⅰ期遺構面全景（南から）〔写真〕222
fig.346 Ⅰ期遺構平面図…… 223
fig.347 Ⅱ期遺構面〔写真〕…… 224
fig.348 ＳＴ01・02平面・断面図…… 225
fig.349 ＳＴ01〔写真〕…… 225
fig.350 ＳＴ02〔写真〕…… 225
fig.351 Ⅱ期遺構平面図…… 226
fig.352 ＳＴ01〔写真〕…… 227
fig.353 ＳＴ02〔写真〕…… 227
fig.354 Ⅰ期・Ⅱ期出土遺物実測図…… 227
fig.355 Ⅲ期遺構面（ＳＤ01）〔写真〕… 228
fig.356 Ⅲ期遺構面（ＳＸ03）〔写真〕…… 228
fig.357 Ⅲ期遺構平面図…… 229
fig.358 Ⅲ期出土遺物実測図…… 230
fig.359 調査地位置図…… 231
fig.360 中央部遺構平面図…… 232
fig.361 東半部遺構平面図…… 233
fig.362 西半部遺構平面図…… 234
fig.363 調査地全景（東から）〔写真〕… 234
fig.364 ＳＢ01・08・09（西から）〔写真〕234
fig.365 ＳＢ01炭化材出土状況平面図… 235
fig.366 ＳＢ01（東から）〔写真〕…… 236
fig.367 ＳＢ01（西から）〔写真〕…… 236
fig.368 ＳＢ01土器出土状況〔写真〕… 237
fig.369 ＳＢ01出土土器実測図…… 237
fig.370 ＳＢ05平面・断面図…… 238
fig.371 調査地東半部（ＳＢ05）〔写真〕 238
fig.372 ＳＸ01〔写真〕…… 238
fig.373 ＳＢ09（東から）〔写真〕…… 239
fig.374 ＳＢ09竈〔写真〕…… 239
fig.375 ＳＢ09平面図…… 240
fig.376 出土土器実測図…… 240

fig.377　ＳＢ06平面・断面図…… 241
fig.378　ＳＢ04平面・断面図…… 242
fig.379　出土土器実測図…… 242
fig.380　調査地東半部（ＳＢ06)〔写真〕 243
fig.381　ＳＢ04〔写真〕…… 243
fig.382　包含層出土土器実測図…… 244
fig.383　調査地位置図…… 245
fig.384　調査地全景（南から)〔写真〕… 245
fig.385　調査地平面図…… 246
fig.386　ＳＴ03〔写真〕…… 247
fig.387　ＳＴ05〔写真〕…… 247
fig.388　ＳＴ10～12〔写真〕…… 247
fig.389　調査地遠景（東から)〔写真〕… 249
fig.390　調査地位置図…… 250
fig.391　第１トレンチ平面図…… 251
fig.392　第１トレンチ全景〔写真〕…… 251
fig.393　ＳＢ01〔写真〕…… 251
fig.394　第２トレンチ東西〔写真〕…… 252
fig.395　ＳＤ01〔写真〕…… 252
fig.396　第２トレンチ平面図…… 252
fig.397　第３トレンチ東西区平面図…… 253
fig.398　ＳＢ01平面図…… 254
fig.399　ＳＢ02平面図…… 254
fig.400　第３トレンチ東半部（西から）〔写真〕…… 255
fig.401　ＳＢ01〔写真〕…… 255
fig.402　ＳＢ02〔写真〕…… 255
fig.403　第３トレンチ（南北区)〔写真〕 256
fig.404　ＳＢ04〔写真〕…… 256
fig.405　ＳＢ04遺物出土状況〔写真〕… 256
fig.406　ＳＢ05平面図…… 257
fig.407　ＳＤ06出土土器実測図…… 258
fig.408　３トレンチ住居址出土土器実測図…… 259
fig.409　ＳＢ05土器出土状況〔写真〕… 259
fig.410　ＳＢ03土器出土状況〔写真〕… 259
fig.411　ＳＢ05遺物出土状況〔写真〕… 260
fig.412　ＳＢ05〔写真〕…… 260
fig.413　ＳＤ06土器出土状況〔写真〕… 260
fig.414　第４トレンチ平面図…… 261
fig.415　第５トレンチ平面図…… 262
fig.416　第４トレンチ全景（東から)〔写真〕…… 263
fig.417　第４トレンチＳＢ13〔写真〕… 263
fig.418　第５トレンチ北半部（北から）〔写真〕…… 263
fig.419　第５トレンチ中央部（北から）〔写真〕…… 263
fig.420　第６トレンチ土坑群〔写真〕… 264
fig.421　ＳＢ01〔写真〕…… 264
fig.422　各トレンチ出土土器実測図…… 265
fig.423　第８トレンチ平面図…… 266
fig.424　第６・10・11トレンチ平面図… 267
fig.425　第８トレンチ〔写真〕…… 268
fig.426　第11トレンチＳＢ01炭化層検出状況〔写真〕…… 268
fig.427　第11トレンチＳＢ01〔写真〕… 268
fig.428　第12トレンチ平面図…… 269
fig.429　第12トレンチ北半部〔写真〕… 269
fig.430　ＳＸ01〔写真〕…… 269
fig.431　ＳＫ01平面・断面図…… 270
fig.432　ＳＫ01遺物出土状況〔写真〕… 270
fig.433　第12トレンチＳＫ02・ＳＤ01平面図…… 271
fig.434　第12トレンチ出土土器実測図… 272
fig.435　ＳＫ02・ＳＤ01〔写真〕…… 273
fig.436　ＳＫ02〔写真〕…… 273
fig.437　ＳＫ02〔写真〕…… 274
fig.438　ＳＫ02〔写真〕…… 274
fig.439　ＳＴ01〔写真〕…… 274
fig.440　第Ⅰ地区西半部〔写真〕…… 275
fig.441　ＳＢ01〔写真〕…… 275
fig.442　第Ⅰ地区遺構平面図…… 275
fig.443　第Ⅱ地区全景〔写真〕…… 276
fig.444　第Ⅱ地区平面図…… 276
fig.445　第Ⅱ地区落込み出土土器実測図 277
fig.446　落込み内土器出土状況〔写真〕 277
fig.447　第Ⅱ地区ＳＫ01出土土器…… 278
fig.448　ＳＫ01土器出土状況〔写真〕… 278
fig.449　第Ⅲ地区平面図…… 279
fig.450　第Ⅲ地区全景〔写真〕…… 280
fig.451　第Ⅲ地区全景（南から)〔写真〕 280
fig.452　竪穴住居〔写真〕…… 280
fig.453　ＳＢ02〔写真〕…… 281
fig.454　ＳＢ01〔写真〕…… 281
fig.455　ＳＢ01竈土器出土状況〔写真〕 281
fig.456　ＳＢ01竈完掘状況〔写真〕…… 282
fig.457　落込み内土器群01出土状況〔写真〕…… 282
fig.458　第Ⅲ地区ＳＢ01出土土器実測図 282
fig.459　第Ⅲ地区土器群01出土土器実測図…… 283
fig.460　調査地位置図…… 285
fig.461　調査地全景（北から)〔写真〕… 286

fig.462　調査地全景（南から）〔写真〕… 286
fig.463　調査地遺構平面図…… 286
fig.464　ＳＢ01〔写真〕…… 287
fig.465　ＳＢ01平面・断面図…… 288
fig.466　ＳＢ01中央土坑上層土器出土状況〔写真〕…… 289
fig.467　ＳＢ01中央土坑および床面炭出土状況〔写真〕…… 289
fig.468　ＳＢ01柱穴断割り礎板出土状況〔写真〕…… 289
fig.469　ＳＢ02平面図…… 290
fig.470　ＳＢ02炭化材出土状況〔写真〕 290
fig.471　ＳＢ02完掘状況〔写真〕…… 290
fig.472　ＳＢ03遺物出土状況平面図…… 291
fig.473　ＳＢ03遺物出土状況〔写真〕… 291
fig.474　ＳＢ03完掘状況〔写真〕…… 291
fig.475　ＳＢ04〔写真〕…… 292
fig.476　ＳＫ07遺物出土状況〔写真〕… 292
fig.477　ＳＢ01・ＳＤ02〔写真〕…… 293
fig.478　ＳＤ06遺物出土状況〔写真〕… 293
fig.479　ＳＤ04・05〔写真〕…… 293
fig.480　出土遺物実測図…… 294
fig.481　ＳＢ01復元状況〔写真〕…… 294
fig.482　調査地位置図…… 295
fig.483　定塚古墳群調査地平面図…… 296
fig.484　１号墳埋葬施設実測図…… 297
fig.485　１・２号墳全景〔写真〕…… 297
fig.486　１号墳全景〔写真〕…… 298
fig.487　１号墳２号壺棺墓〔写真〕…… 298
fig.488　１号墳１号壺棺墓〔写真〕…… 298
fig.489　第１次埋葬施設平面・断面図… 299
fig.490　第２次埋葬施設平面・断面図… 299
fig.491　第１次埋葬施設〔写真〕…… 300
fig.492　第２次埋葬施設〔写真〕…… 300
fig.493　掘形内出土土器実測図…… 301
fig.494　掘形内供献土器出土状況〔写真〕301
fig.495　２号墳割竹形木棺（東から）〔写真〕…… 302
fig.496　２号墳棺内鉄器出土状況〔写真〕302
fig.497　２号墳壺棺墓〔写真〕…… 302
fig.498　３号墳全景〔写真〕…… 303
fig.499　調査地位置図…… 305
fig.500　調査地遺構平面図…… 306
fig.501　調査地全景〔写真〕…… 307
fig.502　ＳＢ01〔写真〕…… 308
fig.503　ＳＢ02〔写真〕…… 308
fig.504　ＳＢ03〔写真〕…… 308
fig.505　土坑平面・断面図…… 309
fig.506　ＳＫ01〔写真〕…… 310
fig.507　ＳＫ02〔写真〕…… 310
fig.508　ＳＫ03〔写真〕…… 310
fig.509　土器群土器出土状況〔写真〕… 311
fig.510　土器群出土土器実測図…… 311
fig.511　宅原遺跡宮之元地区断面土層転写〔写真〕…… 313
fig.512　同左土層転写パネル展示〔写真〕 313
fig.513　天王山５号墳断面土層転写樹脂塗布〔写真〕…… 314
fig.514　同左完成状況〔写真〕…… 314
fig.515　西求女塚古墳土層転写前処理〔写真〕…… 314
fig.516　同左転写用樹脂塗布〔写真〕…… 314
fig.517　同左２次塗布〔写真〕…… 315
fig.518　同左割り付ライン記入〔写真〕… 315
fig.519　同上剝がし取る〔写真〕…… 315
fig.520　同左搬出保管のため折りたたむ〔写真〕…… 315
fig.521　天王山５号墳割竹形木棺外面型取り〔写真〕…… 316
fig.522　同左完掘状況型取り離型準備〔写真〕…… 316
fig.523　郡家城の前23次ウレタン吹き付け〔写真〕…… 316
fig.524　同左ウレタン充塡〔写真〕…… 316
fig.525　宅原遺跡宮之元地区園池遺構〔写真〕…… 317
fig.526　同左離型のために和紙を貼る〔写真〕…… 317
fig.527　同上離型状況〔写真〕…… 317
fig.528　同左埋め戻し後のコンクリート打ち〔写真〕…… 317
fig.529　天王山５号墳鉄剣取り上げ〔写真〕…… 318
fig.530　宅原遺跡出土馬下顎骨〔写真〕… 318
fig.531　宅原遺跡出土木製面〔写真〕…… 318
fig.532　同左Ｘ線透過写真〔写真〕…… 318
fig.533　サヌカイトの原産地…… 321
fig.534　遺跡位置図…… 326
fig.535　石器石材の産地別搬入量(1)…… 333
fig.536　石器石材の産地別搬入量(2)…… 334
fig.537　明石川流域主要弥生遺跡…… 337

Ⅰ．昭和61年度事業概要

1．普及啓発事業

史跡五色塚古墳の公開

史跡五色塚古墳（垂水区五色山４丁目）は、復元整備された前方後円墳として、年間を通じ、無料公開をしている。昭和61年度は小・中学校等の団体22,610名、個人22,108名、計44,718名の見学者があった。

文化財保護強調月間の催し

大歳山遺跡公園（垂水区西舞子４丁目）では、11月１日から11月７日までの間、復元竪穴住居の内部の公開とともに、古代人の生活の一部を実際に体験できるよう、火おこし、脱穀等を行った。

「地下に眠る神戸の遺跡展Ⅳ」

例年、11月１日から30日までは、市立旧考古館において最近の発掘資料を広く市民の方々に知っていただくために、特別展示「地下に眠る神戸の歴史展」を行っている。４回目の展示会となった今回の展示では、市内各地の土器や石器を縄文時代から中世までの年代順にならべ、身近にある遺跡に対する理解を深めていただくように展示した。

「鏡・剣・玉展」の開催

昨年度、史跡五色塚古墳の復元整備10周年の記念行事として「市内の埴輪展」を実施し好評であったため、今回は市内の古墳から出土した「鏡・剣・玉」を集め展示をした。

地域活動への参加

市内各地の公民館では、様々な地域活動が行われているが、各地域の歴史を地元の方々に知って頂くことを目的に、周辺の遺跡の出土遺物や写真パネルの展示会を開催している。今年度は西区玉津南公民館において「上池遺跡展」と題し、昭和60年度調査の上池遺跡の出土遺物の展示を行った。

現地説明会の開催

発掘調査の状況や成果を早く市民の方々に知って頂くために、下記のとおり現地説明会を開催し、多くの見学者の参加を得た。

番号	遺　跡　名	開催年月日
1	北神ニュータウン内第９地点遺跡	昭和61年４月20日
2	舞子古墳群毘沙門１号墳	昭和61年６月22日
3	神出・田井遺跡	昭和61年８月10日
4	山田・中遺跡	昭和61年８月24日
5	日暮遺跡	昭和61年11月23日
6	宅原遺跡・定塚古墳	昭和61年12月７日

刊行物

昭和61年度の埋蔵文化財関係の刊行物は以下の６点である。

１．	昭和59年度埋蔵文化財年報	領価1,800円
２．	昭和60年度遺跡現地説明会資料	領価　500円
３．	オキダ古墳群発掘調査報告書	領価　800円
４．	森北町遺跡発掘調査報告書	領価　500円
５．	神戸市埋蔵文化財分布地図（改定版）	領価1,200円
６．	地下に眠る神戸の歴史展　Ⅳ	領価　100円

２．文化財保護事業

史跡「五色塚古墳」整備懇談会の発足

昭和58・60年度の２回の調査で五色塚外堤周溝の存在が確認された市営五色山住宅の跡地の有効な利用をはかり、保存整備事業案を策定するために、史跡「五色塚古墳」整備懇談会が発足した。

史跡「五色塚古墳」整備懇談会委員

田中　琢	奈良国立文化財研究所
小林行雄	神戸市文化財専門委員
檀上重光	神戸市文化財専門委員
宮本長二郎	神戸市文化財専門委員
松下　勝	兵庫県教育委員会社会教育・文化財課

３．文化財調査事業

当市における埋蔵文化財の発掘調査件数は年々増加の傾向にあるが、今年度は67件となり、前年度比で18件と急激な増加である。

また、開発計画の際に提出される遺跡分布調査依頼件数305件（前年度比28件増）、それに基づく試掘調査件数も150件（前年度比43件増）と急増している。

これらを地域別に見ると、昨年度と同様に市街地での試掘調査がほぼ全体の2/3を占めているが、西区での試掘件数の増加が顕著である。

昭和61年度埋蔵文化財試掘調査件数

地区	件数	備考
市街地東部	59	東灘区(35)、灘区(14)、中央区(10)
市街地西部	39	兵庫区(12)、長田区(6)、須磨区(7)、垂水区(14)
西区	39	
北区	13	
合計	150	

緊急発掘調査の地区別では、市街地29件、西区25件、北区13件である。このうち、兵庫県教育委員会および民間の遺跡調査会の行った11件以外は当教育委員会が調査を実施した。

発掘調査一覧表（事業別）

番号	事業名	遺跡名	所在地	調査主体	調査面積	調査期間	内容
1	ニュータウン建設	西神ニュータウン内遺跡	西区押部谷町・平野町・櫨谷町	神戸市教育委員会	15,680㎡	61.5.7～62.3.31	８遺跡の発掘調査 弥生時代～中世
2	〃	北神ニュータウン内遺跡	北区長尾町	〃	2,620㎡	61.9.9～62.3.31	中近世山城　確認調査 中世火葬墓　12基
3	小学校改築工事	神出・田井遺跡	西区神出町	〃	1,950㎡	61.5.12～8.10	鎌倉時代　粘土採掘坑 掘立柱建物
4	〃	雪御所遺跡	兵庫区雪御所町	〃	1,600㎡	62.1.12～2.25	近世　石垣・土坑
5	道路建設	出合遺跡	西区平野町	〃	2,400㎡	61.11.6～62.3.19	弥生時代　溝 中世　掘立柱建物・溝
6	〃	山田・中遺跡	北区山田町	〃	2,700㎡	61.6.5～9.10	弥生～古墳時代　竪穴住居
7	〃	山田・原野遺跡	北区山田町	〃	320㎡	62.2.23～3.30	遺構確認されず
8	〃	宅原遺跡（内垣地区） 定塚古墳群	北区長尾町	〃	3,350㎡	61.8.11～62.1.7	弥生時代　竪穴住居 古墳時代初頭　方墳
9	〃	竜ヶ谷遺跡 上小名田遺跡	北区長尾町 八多町	〃	1,221㎡	61.4.21～8.1 61.12.15～12.24	縄文時代　石器製作址 平安時代　掘立柱建物
10	市営住宅建設	上池遺跡	西区玉津町	〃	183㎡	61.7.11～8.11	平安時代　掘立柱建物 土坑
11	〃	日暮遺跡	中央区日暮通	〃	730㎡	61.10.20～62.1.20	古墳時代　竪穴住居 平安時代　掘立柱建物
12	区画整理事業	狐塚古墳	垂水区狩口台	〃	319㎡	62.1.13～2.9	古墳の周溝
13	〃	郡家遺跡	東灘区御影町	〃	1,340㎡	61.6.6～8.27 62.1.8～2.24	城ノ前第18・20～23次 上山田第１次調査
14	都市再開発事業	長田神社境内遺跡	長田区長田町	〃	700㎡	62.2.2～3.31	弥生時代　竪穴住居 掘立柱建物
15	ハーバーランド建設事業	ハーバーランド	中央区東川崎町	〃	950㎡	61.12.2～12.20 62.2.25～3.28	近世　畑
16	児童センター建設	ハーバーランド	〃	〃	400㎡	61.5.26～6.2	近世　井戸
17	墓園建設事業	鍋谷池遺跡	西区平野町	〃	1,320㎡	61.8.13～10.14	弥生時代　集落址　古墳　平安時代　墓址
18	墳丘整理の資料を得る確認調査	西求女塚古墳	灘区都通	〃	170㎡	62.3.3～3.31	葺石
19	盗掘の応急手当てのため	天王山５号墳	西区伊川谷町	〃	500㎡	61.12.23～62.2.20 62.3.23～3.31	長方墳・石棺・割竹形木棺
20	圃場整備事業（文化庁補助）	新内古墳（神出・東遺跡）	西区神出町	〃	2,740㎡	61.5.8～6.10 61.12.9～62.3.31	古墳後期　古墳・埴輪 鎌倉時代　溝・ピット
21	〃	押部遺跡	西区押部谷町	〃	350㎡	61.11.5～11.14	遺構確認されず
22	〃	如意寺塔頭址・栃木遺跡	西区櫨谷町	〃	430㎡	61.10.24～11.27	弥生時代　土坑 如意寺塔頭址
23	〃	櫨谷中遺跡	〃	〃	68㎡	61.12.23～12.25	中世　ピット
24	〃	前開遺跡	西区伊川谷町	〃	120㎡	61.7.23～7.28 62.1.27～1.28	文化財確認されず
25	〃	養田遺跡	西区押部谷町	〃	180㎡	61.11.10～11.25	鎌倉時代　溝・土坑・ピット
26	〃	宮前遺跡	西区平野町	〃	36㎡	61.10.27	文化財確認されず
27	〃	塩田遺跡・平田遺跡	北区道場町	〃	570㎡	61.5.12～6.17	弥生時代　溝 鎌倉時代　土坑
28	〃	川北遺跡	〃	〃	196㎡	61.10.21～10.24	近世　ピット
29	〃	宅原遺跡（有井地区）	北区長尾町	〃	1,800㎡	61.5.21～7.13	古墳時代　竪穴住居 鎌倉時代　掘立柱建物
30	圃場整備事業（農政補助）	押部遺跡	西区押部谷町	〃	1,088㎡	61.11.17～12.6	弥生時代　溝

発掘調査一覧表（事業別）

番号	事業名	遺跡名	所在地	調査主体	調査期間	調査期間	内容
31	圃場整備事業（農政補助）	如意寺塔頭址・栃木遺跡	西区櫨谷町	神戸市教育委員会	1,100㎡	61.11.28～62.1.22 62.2.4～2.25	弥生時代　土坑 如意寺塔頭址
32	〃	櫨谷中遺跡	〃	〃	20㎡	61.12.23	遺物包含層（須恵器）
33	〃	前開遺跡	西区伊川谷町	〃	700㎡	62.1.27～2.16	近世　溝
34	〃	養田遺跡	西区押部谷町	〃	164㎡	61.11.26～12.9	平安～鎌倉時代　土坑 溝
35	〃	宮前遺跡	西区平野町	〃	44㎡	61.10.28	文化財確認されず
36	〃	塩田遺跡・平田遺跡	北区道場町	〃	1,866㎡	61.6.18～8.13	弥生時代　土坑 鎌倉時代　柱穴
37	〃	川北遺跡	〃	〃	330㎡	61.10.25～62.1.28	文化財確認されず
38	〃	宅原遺跡（有井地区）	北区長尾町	〃	2,690㎡	61.7.14～10.24	古墳時代　竪穴住居 鎌倉時代　掘立柱建物
39	住宅建設	五色塚古墳	垂水区五色山	〃	200㎡	61.8.8～8.27	溝　埴輪片
40	〃	五色塚古墳	〃	〃	240㎡	61.9.30～10.13	〃
41	〃	舞子毘沙門１号墳	垂水区舞子坂	〃	1,000㎡	61.5.12～7.12	古墳時代後期　横穴式 石室
42	〃	湊川遺跡	兵庫区下沢通	〃	450㎡	61.4.1～5.27	古墳時代　竪穴住居 掘立柱建物
43	〃	楠・荒田町遺跡	兵庫区西上橘通	〃	260㎡	61.10.21～12.13	縄文時代　土坑 弥生時代　方形周溝墓
44	〃	ハーバーランド	中央区東川崎町	〃	650㎡	62.2.24～3.28	近世　畑
45	〃	郡家遺跡（下山田１次）	東灘区御影町	〃	190㎡	61.4.30～6.2	平安時代　掘立柱建物
46	店舗・住宅建設	郡家遺跡（城ノ前19次）	〃	〃	130㎡	61.6.13～7.4	古墳時代初頭 竪穴住居
47	〃	郡家遺跡（城ノ前17次）	〃	〃	192㎡	61.6.2～7.10	弥生時代　竪穴住居 古墳時代　竪穴住居
48	〃	住吉宮町遺跡	東灘区住吉宮町	〃	175㎡	61.7.25～8.25	古墳時代　箱式石棺・ 溝　奈良時代　溝
49	倉庫建設	神楽遺跡	長田区神楽町	〃	200㎡	61.10.20～62.3.31	古墳時代　掘立柱建物
50	倉庫建設（文化庁補助）	神楽遺跡	〃	〃	380㎡	61.11.1～62.3.31	古墳時代　掘立柱建物 井戸状遺構
51	宅地造成予定	瓢塚古墳	西区伊川谷町	〃	400㎡	61.12.23～62.1.23	埴輪片
52	〃	申新田遺跡	灘区桜ヶ丘	〃	200㎡	62.3.5～3.18	文化財確認されず
53	電波中継基地建設	金鳥山遺跡	東灘区本山町	〃	206㎡	61.4.14～4.23	文化財確認されず
54	ゴルフ場建設	稲荷神社裏山古墳群	北区道場町	〃	182㎡	61.5.12～5.15	古墳時代後期　円墳 確認調査
55	擁壁工事	居住遺跡	西区玉津町	〃	94㎡	61.4.21～5.1	遺物包含層
56	ガソリンスタンド建設	向井群集墳	西区平野町	〃	250㎡	61.9.21～10.2	文化財確認されず
57	圃場整備事業	神出遺跡群	西区神出町	妙見山麓遺跡調査会	1,750㎡	61.10.20～62.3.31	鎌倉時代　溝　ピット
58	〃	宅原遺跡（宮之元地区）	北区長尾町	〃	2,572㎡	61.8.24～62.3.25	古墳時代　奈良時代 中世　溝　建物址
59	住宅建設	五色塚古墳	垂水区五色山	真野　修	3,316㎡	61.11.6～62.5.20 （62年度継続）	近世～近代　墓址
60	〃	中山手通遺跡	中央区中山手通	中山手通遺跡調査会	1,000㎡	61.3.26～62.4.15 （62年度継続）	古墳時代　中世　土坑 柱穴

発掘調査原因の事業別件数は民間事業20件、公共事業47件で、公共事業が約７割を占める。公共事業のうち、圃場整備事業・道路建設事業等の原因が多くをしめている。民間事業の場合は、そのほとんどが市街地におけるマンション建設や店舗等の工事が調査原因となっている。

上記の緊急発掘調査に要した経費は、４億５千８百万円であった。

保存処理

これらのうち、開発側の協力を得て一部現状保存となったものは８件で、その他は記録保存となった。また、今年度より保存処理業務を開始し、遺物の保存処理および遺構の切り取り保存等の充実をはかった。

４．市内遺跡発掘調査の概要

竜ヶ谷遺跡では縄文時代前半期と考えられる石器製作址が発見され、石鏃等の製品と多くのサヌカイトやチャートの剝片・チップが検出された。

縄文時代

楠・荒田町遺跡では、縄文時代後期後半の土坑が検出され、その中から深鉢や注口土器などが良好な状態で発見された。

弥生時代

また、弥生時代中期の方形周溝墓が発見され、溝の中から供献された多くの土器が出土した。

今年度は弥生時代後期から古墳時代初頭の竪穴住居が各遺跡で多く検出されている。このうち、宅原遺跡（内垣地区）では直径11㍍と県下でも最大級の竪穴住居が発見された。山田・中遺跡でもほぼ同時期の焼失竪穴住居が発見され、炭化した垂木等から上屋構造を知る手掛かりが得られた。

古墳時代

天王山５号墳の調査は、盗掘の応急処理という不幸な原因によるものであったが、４基の主体部の確認など多くの成果が得られた。

新内古墳は上部を削平されて田圃となっていた所からの新発見で、６世紀前半期の古墳が印南丘陵上に分布することが確認された。

毘沙門１号墳は宅地造成で破壊された横穴式石室の調査であったが、県下でも稀な形態のＴ字形の石室が検出され、武具、馬具などの鉄製品やガラス玉、金環などの装身具が出土した。

郡家遺跡（城の前）では、古墳時代後期の特異な煙道部を持つ竈付の竪穴住居が発見された。

歴史時代

宅原遺跡（宮之元地区）では、飛鳥時代の大溝の中から大量の木製品とともに、日本最古の木製の仮面が発見された。法隆寺に残る伎楽面よりも一時代古いもので当時の祭祀の状況を伝える貴重な発見と言える。

郡家遺跡（下山田）では、平安時代の掘立柱建物が発見された。菟原郡衙の推定地内での発見で、当時の建物の分布を知る資料となろう。

日暮遺跡では平安時代の掘立柱建物群が発見され、柱穴に土器や銅銭が納められていた。当時の地鎮祭祀を知る資料となった。

神出・田井遺跡では、平安時代後期の粘土採掘坑が多数発見された。神出古窯址群における、陶土採取の方法をしるす貴重な発見である。

昭和61年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

番　号	遺　跡　名	所　在　地	調 査 主 体	調査面積
1－a	西神第７地点遺跡	西区押部谷町養田	神戸市教育委員会	3,270㎡
1－b	西神第10地点遺跡	〃	〃	1,300㎡
1－c	西神第11地点遺跡	〃	〃	3,700㎡
1－d	西神第12地点遺跡	〃	〃	4,800㎡
1－e	西神第38地点遺跡	西区平野町繁田	〃	160㎡
1－f	西神第56地点遺跡	西区平野町宮前	〃	200㎡
1－g	西神第57地点遺跡	〃	〃	1,600㎡
1－h	西神第65地点遺跡	西区櫨谷町栃木	〃	650㎡
2	神出・田井遺跡	西区神出町田井	〃	1,950㎡
3	新内古墳(神出・東遺跡)	西区神出町東	〃	2,740㎡
4	出 合 遺 跡	西区平野町中津	〃	2,400㎡
5	上 池 遺 跡	西区玉津町上池	〃	183㎡
6	押 部 遺 跡	西区押部谷町押部	〃	1,438㎡
7－a	栃 木 遺 跡	西区櫨谷町栃木	〃	710㎡
7－b	如意寺塔頭址	〃	〃	820㎡
8	養 田 遺 跡	西区押部谷町養田	〃	344㎡
9	天王山５号墳	西区伊川谷町別府	〃	500㎡
10	狐塚 古 墳	垂水区狩口台７丁目	〃	319㎡
11	五色塚古墳	垂水区五色山３丁目	〃	440㎡
12	舞子古墳群毘沙門１号墳	垂水区舞子坂３丁目	〃	1,000㎡
13	長田神社境内遺跡	長田区長田町 １・２丁目	〃	700㎡
14	神 楽 遺 跡	長田区神楽町２丁目	〃	580㎡

調　査　期　間	調査担当者	調　査　内　容	備　考
61.7.2～62.8.1 61.9.24～61.10.20	渡辺　伸行	No.7-1 地点 平安時代末 焼土坑,No.7-2 地点 弥生時代墓址,No7-3,4 地点 遺構確認されず	No7-2 地点 62年度再調査
61.8.18～62.3.25	〃	中世　集石墓・火葬墓	62年度再調査
〃	〃	No.11-1地点　古墳時代木棺墓群，No.11-2地点 古墳時代木棺，No11-3地点　古墳	62年度再調査
〃	〃	No.12-1・2・3地点　古墳	
62.3.26～62.3.31	〃	確認調査　遺物包含層	62年度継続調査
61.5.7～61.6.28	〃	弥生時代　地山整形遺構	
〃	〃	〃	
61.8.4～61.8.12 61.9.16～61.10.31	〃	弥生時代　土器棺・通路	B地区は保存
61.5.12～61.8.10	菅本・安田 須藤	鎌倉時代　粘土採掘坑・掘立柱建物	8/10現地説明会
61.5.8～61.6.10 61.12.9～62.3.31	前田　佳久	古墳時代後期　古墳　埴輪・須恵器 鎌倉時代　ピット・溝	
61.11.6～62.3.19	菅本　宏明 池野　素子	弥生時代後期　溝 中世　掘立柱建物・溝	
61.7.11～61.8.11	前田　佳久	平安時代　掘立柱建物・土坑	
61.11.5～61.12.6	黒田　恭正	弥生時代後期　溝	
61.10.24～62.1.22 62.2.4～62.2.24	安田　　滋	弥生時代　土坑	
〃	〃	如意寺塔頭址	
61.11.10～61.12.9	山本　雅和	平安～鎌倉時代　土坑・溝	
61.12.23～62.2.20 62.3.23～62.3.31	千種　　浩 須藤　　宏	長方墳，石棺・割竹形木棺	
62.1.13～62.2.9	宮本　郁雄	古墳時代後期　古墳の周溝	
61.8.8～61.8.27 61.9.30～61.10.13	丸山　　潔 西岡　巧次	溝　埴輪片	
61.5.12～61.7.12	山本　雅和	古墳後期　T字形横穴式石室 弥生時代後期　住居址	6/22現地説明会
62.2.2～62.3.31	黒田　恭正	縄文時代　土坑 弥生時代　竪穴住居・掘立柱建物	
61.10.20～62.3.31	前田　佳久	古墳時代　掘立柱建物	

昭和61年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

番　号	遺　跡　名	所　在　地	調 査 主 体	調査面積
15	雪御所遺跡	兵庫区雪御所町	神戸市教育委員会	1,600㎡
16	湊 川 遺 跡	兵庫区下沢通	〃	450㎡
17	楠・荒田町遺跡	兵庫区西上橘通２丁目	〃	260㎡
18	日 暮 遺 跡	中央区日暮通１丁目	〃	730㎡
19	西求女塚古墳	灘区都通３丁目	〃	170㎡
20	郡 家 遺 跡	東灘区御影町 御影・郡家	〃	1,852㎡
21	住吉宮町遺跡	東灘区住吉宮町７丁目	〃	175㎡
22	山田・中遺跡	北区山田町中	〃	2,700㎡
23	北神第47地点遺跡	北区長尾町宅原	〃	2,000㎡
24	宅原遺跡（有井地区）	北区長尾町宅原	〃	4,490㎡
25	宅原遺跡（内垣地区）	北区長尾町宅原	〃	2,200㎡
26	定塚古墳群	北区長尾町宅原	〃	1,150㎡
27	竜ヶ谷遺跡	北区長尾町上津	〃	1,000㎡
28	鍋谷池遺跡	西区平野町黒田	〃	1,320㎡
29	居 住 遺 跡	西区玉津町居住	〃	94㎡
30	向井群集墳	西区平野町向井	〃	250㎡
31	瓢 塚 古 墳	西区伊川谷町潤和	〃	400㎡
32	前 開 遺 跡	西区伊川谷町前開	〃	820㎡
33	櫨谷中遺跡	西区櫨谷町長谷	〃	88㎡
34	宮 前 遺 跡	西区平野町宮前	〃	80㎡
35	ハーバーランド	中央区東川崎町	〃	2,000㎡
36	申新田遺跡	灘区桜ヶ丘	〃	200㎡
37	金鳥山遺跡	東灘区本山町北畑	〃	206㎡

調　査　期　間	調査担当者	調　査　内　容	備　考
62.1.12～62.2.25	山本　雅和	近世　石垣　土坑	
61.4.1～61.5.27	西岡　巧次	古墳時代　竪穴住居　掘立柱建物	
61.10.21～61.12.13	丸山　潔	縄文時代後期　土坑，弥生時代前期　貯蔵穴，中期　方形周溝墓，平安時代　建物址	
61.10.20～62.1.20	谷　正俊	古墳時代　竪穴住居　土坑 平安時代　掘立柱建物	11／24現地説明会
62.3.3～62.3.31	西岡　巧次 安田　滋	葺石	
61.6.6～62.2.24	丸山・西岡 黒田・前田	城ノ前地区18～24次調査 弥生時代住居址・古墳時代住居址，下山田地区第1次調査平安時代掘立柱建物，上山田地区第１次調査　遺構確認されず	
61.7.25～61.8.25	山本　雅和	古墳後期　箱式石棺　溝 奈良時代　溝	第４次調査
61.6.5～61.9.10	黒田　恭正 谷　正俊	弥生時代　古墳時代　竪穴住居・掘立柱建物，中世　掘立柱建物	8/24現地説明会
62.2.16～62.3.31	西岡　誠司	中世　火葬墓12基	
61.5.21～61.10.24	丸山・千種 山本・須藤	古墳時代　竪穴住居・掘立柱建物 鎌倉時代　掘立柱建物・土坑	11/１～3文化財展
61.8.11～62.1.7	宮本　郁雄 池野　素子	弥生時代　竪穴住居　溝 縄文時代　土器	12/7現地説明会
61.9.2～61.11.17 61.11.26～61.12.17	西岡　巧次	古墳時代初頭　方墳３基	12/7現地説明会
61.4.21～61.8.1	宮本　郁雄 池野　素子	縄文時代　石器製作址 平安時代　掘立柱建物	
61.8.13～61.10.14	前田　佳久	弥生時代住居址　古墳　確認調査	
61.4.21～61.5.1	黒田　恭正	遺物散布地	
61.9.26～61.10.2	谷　正俊	確認調査	
61.12.23～62.1.23	黒田　恭正	確認調査　埴輪片	
61.7.23～61.7.28 62.1.27～62.2.16	谷　正俊	近世　溝	
61.12.23～61.12.25	安田　滋	中世　ピット	
61.10.27～61.10.28	渡辺　伸行	確認調査	
61.5.26～62.3.28	谷　正俊 須藤　宏	近世　井戸　畑	
62.3.5～62.3.18	山本　雅和	確認調査	
61.4.14～61.4.23	前田　佳久	確認調査	

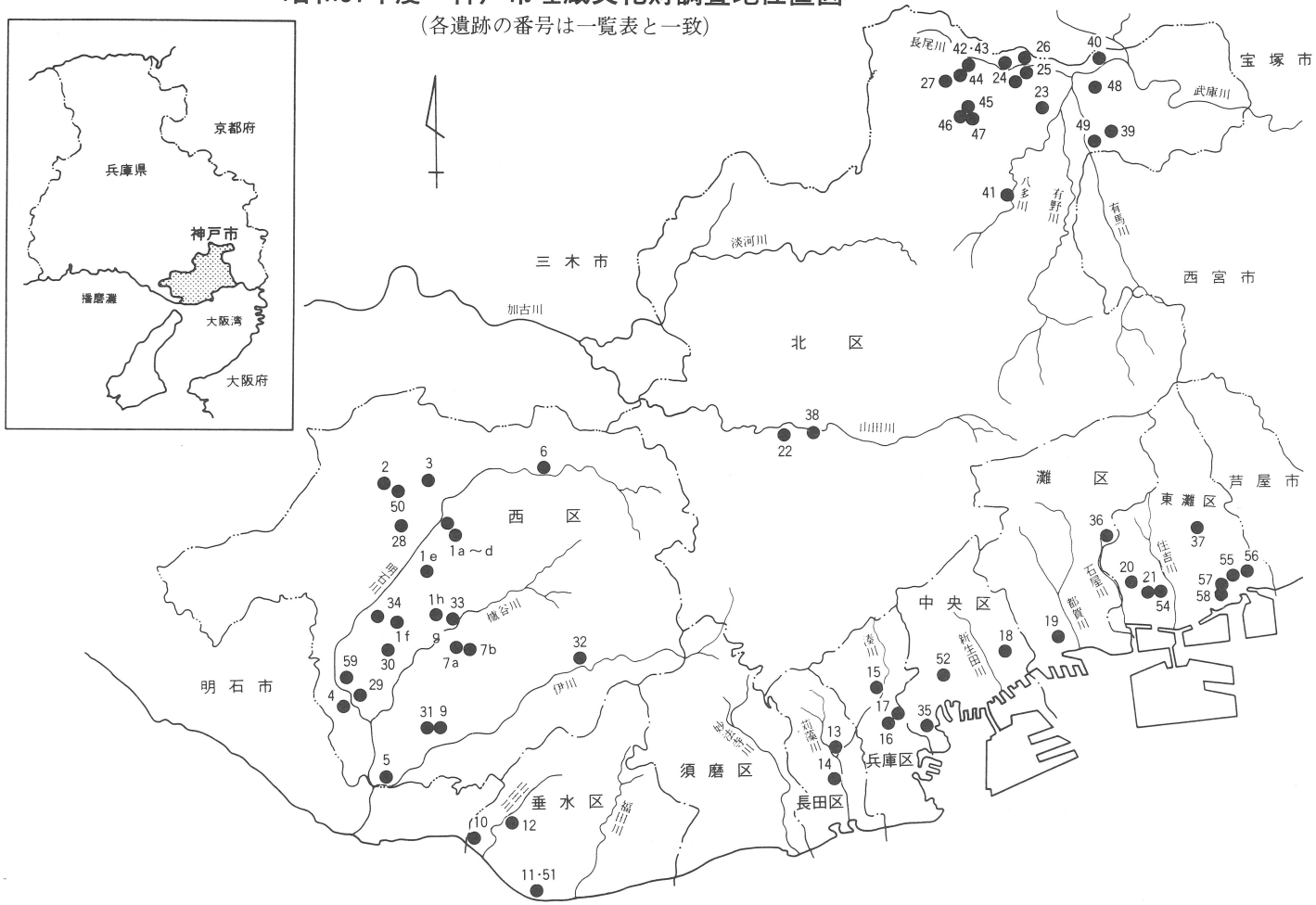
昭和61年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

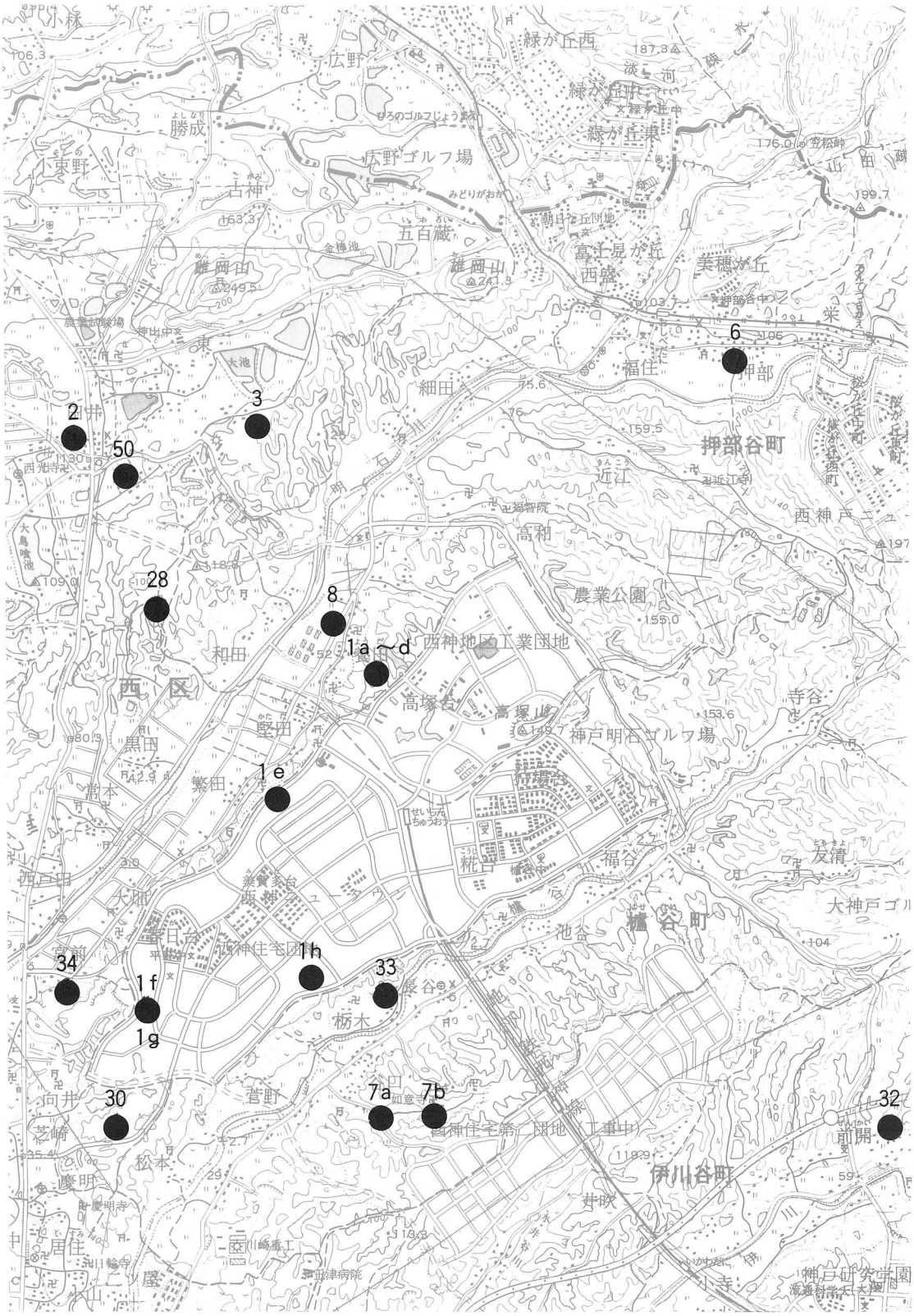
番　号	遺　跡　名	所　在　地	調 査 主 体	調査面積
38	山田・原野遺跡	北区山田町原野	神戸市教育委員会	320㎡
39	稲荷神社裏山古墳群	北区道場町平田	〃	182㎡
40	川 北 遺 跡	北区道場町塩田	〃	526㎡
41	上小名田遺跡	北区八多町上小名田	〃	221㎡
42	北神第20地点遺跡	北区長尾町上津	〃	200㎡
43	北神第21地点遺跡	〃	〃	210㎡
44	北神第22地点遺跡	〃	〃	60㎡
45	北神第23地点遺跡	〃	〃	50㎡
46	北神第24地点遺跡	〃	〃	50㎡
47	北神第25地点遺跡	〃	〃	50㎡
48	塩 田 遺 跡	北区道場町塩田	〃	2,040㎡
49	平 田 遺 跡	北区道場町平田	〃	400㎡
50	神出（南・東）遺跡	西区神出町東・南	妙見山麓遺跡調査会	1,750㎡
51	五色塚古墳	垂水区五色山３丁目	真　野　　修	3,316㎡
52	中山手通遺跡	中央区中山手通４丁目	中山手通遺跡調査会	1,000㎡
53	宅原遺跡（宮之元地区）	北区長尾町宅原	妙見山麓遺跡調査会	2,572㎡
54	住吉宮町遺跡	東灘区住吉本町	兵庫県教育委員会	4,300㎡
55	本庄町遺跡	東灘区本庄町深江	〃	480㎡
56	深江北町遺跡	東灘区深江北町	〃	660㎡
57	小路大町遺跡	東灘区本山南町	〃	1,050㎡
58	北青木遺跡	東灘区北青木	〃	80㎡
59	玉津田中遺跡	西区玉津町田中	〃	13,000㎡

調　査　期　間	調査担当者	調　査　内　容	備　考
62.2.23～62.3.30	谷　正俊	確認調査	
61.5.12～61.5.15	丸山　潔	古墳後期　円墳　確認調査	
61.10.21～62.1.28	菅本　宏明 西岡　誠司	近世遺構	
61.12.15～61.12.24	山本　雅和	平安・鎌倉時代　柱穴　遺物包含層 確認調査	
61.9.26～61.10.15	西岡　誠司	中世～近世山城（茶臼山城）確認調査 礎石建物址	
61.11.6～61.11.7 61.12.9～61.12.22	〃	中世～近世山城（茶臼山城）確認調査 No.20地点と関連遺構	
61.12.23～61.12.24	〃	確認調査　遺構確認されず	
61.9.9～61.9.11	〃	確認調査　遺構確認されず	
61.9.16～61.9.18	〃	確認調査　遺構確認されず	
61.9.24～61.9.25	〃	確認調査　遺構確認されず	
61.5.12～61.8.13	〃	弥生時代中期　土坑　ピット	
61.5.12～61.8.13	〃	鎌倉時代　土坑	
61.10.20～62.3.31	山仲　進	鎌倉時代　溝　ピット	
61.11.6～62.5.20	真野　修	近世墓約800基	62年度継続調査
61.3.16～62.4.15	藤井　直正	古墳時代・中世　柱穴　土坑	62年度継続調査
61.8.4～62.3.25	山仲　進	古墳時代　竪穴住居 奈良時代・中世　掘立柱建物　溝	
62.2.　～62.3.30	岡田　章一 高瀬　一嘉	弥生時代・古墳時代　溝　水田 古墳時代前期　土器棺	
61.5.6～61.6.20	岡田　章一	近世　畔状遺構，中世　水田　土坑 弥生時代　水田，縄文時代　貯蔵穴	6/18現地説明会
61.4.2～61.5.10	山下　史郎 山田　清朝 山上　雅弘	円形周溝墓　11基 土器棺墓　1基	5/10現地説明会
61.4.1～61.4.25	岡田　章一 長谷川　真	近世・中世　水田 古墳時代　水路　杭列　土坑	
60.4.17～60.4.20	小川　良太 山下　史郎	中世　水田	
61.5.2～62.3.30	深井・村上 菱田・篠宮	弥生時代・古墳時代　住居址　墓址 水田　古墳時代　溝，中世　建物址	8/30,12/13 現地説明会

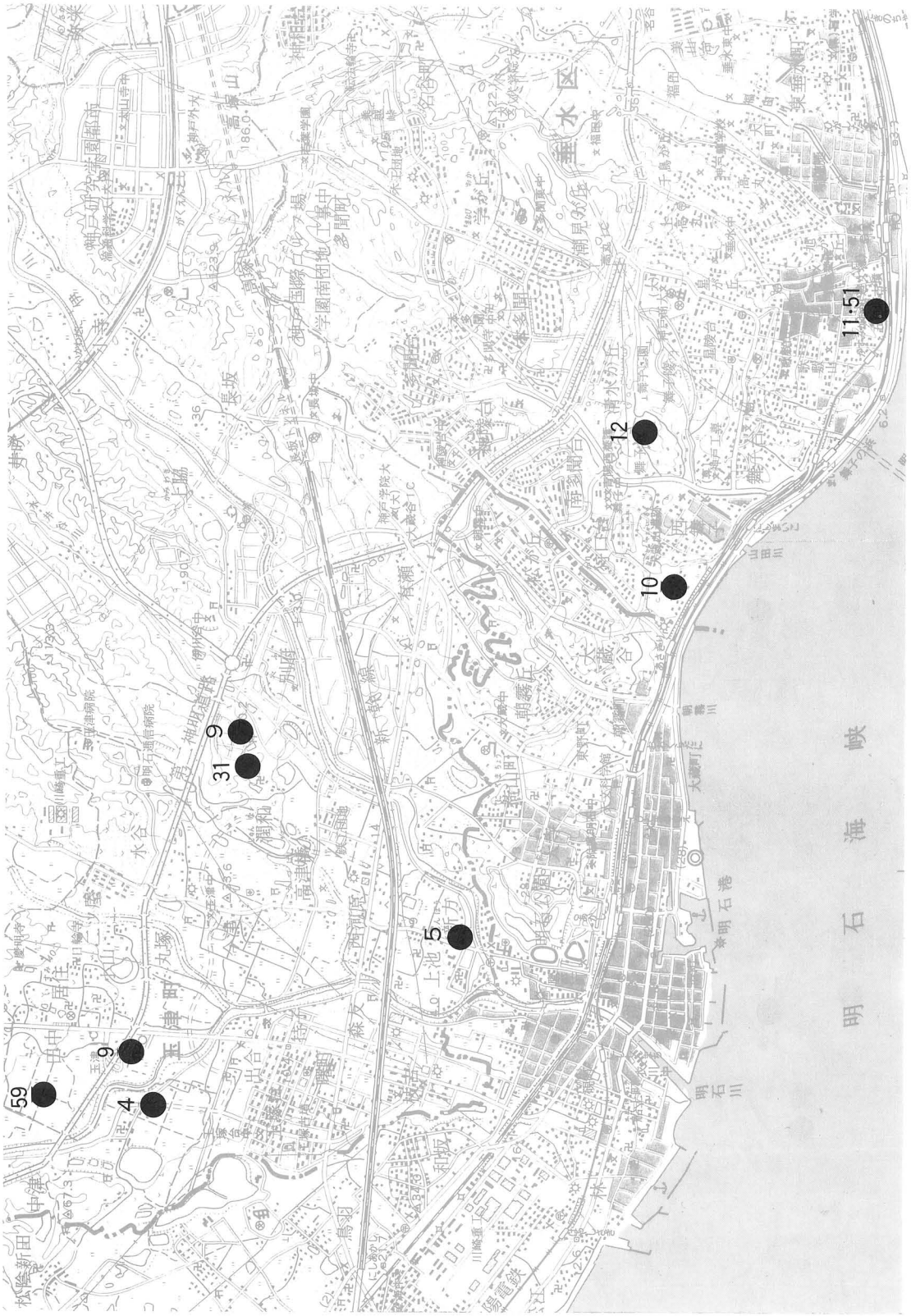
昭和61年度　神戸市埋蔵文化財調査地位置図

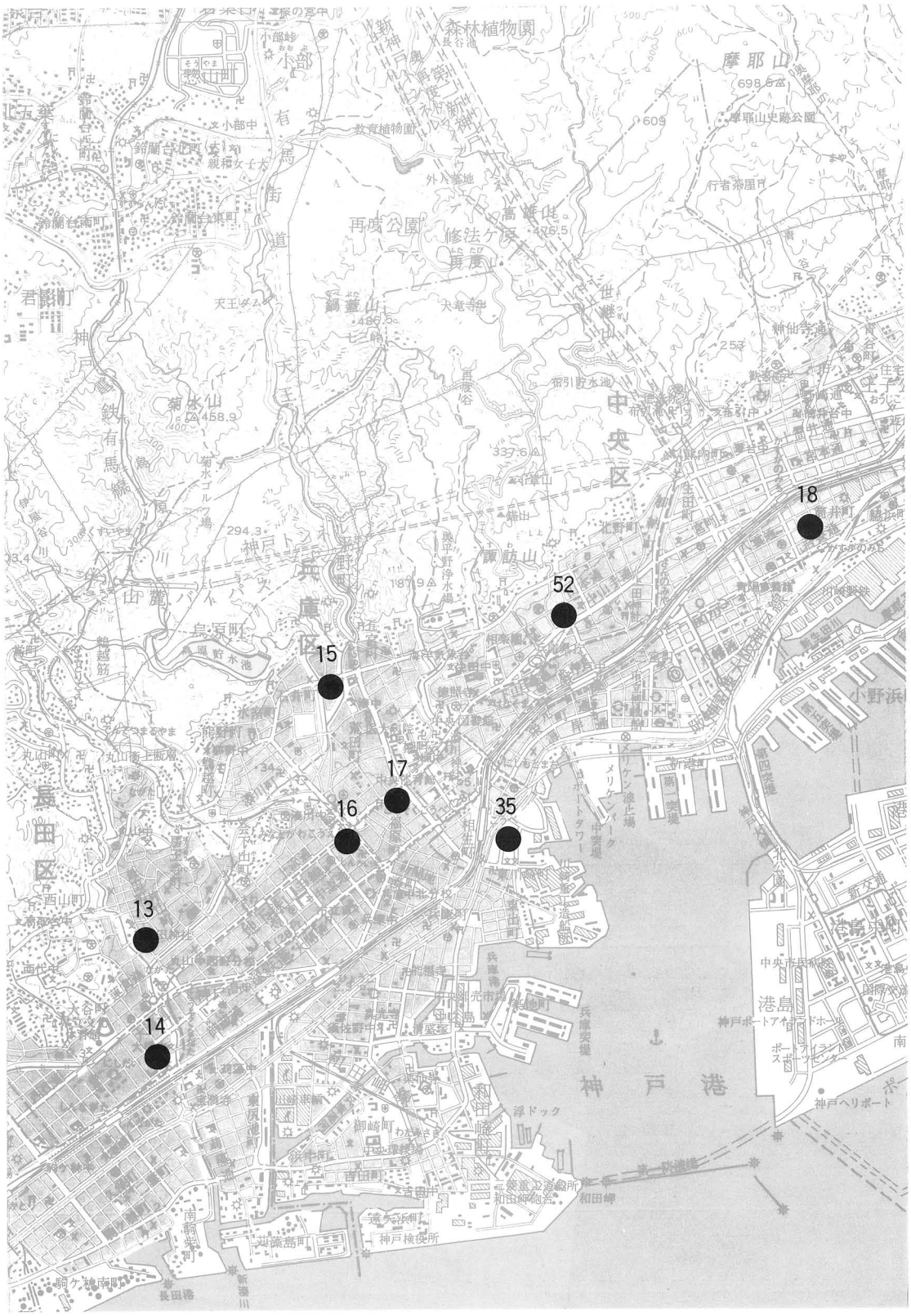
（各遺跡の番号は一覧表と一致）

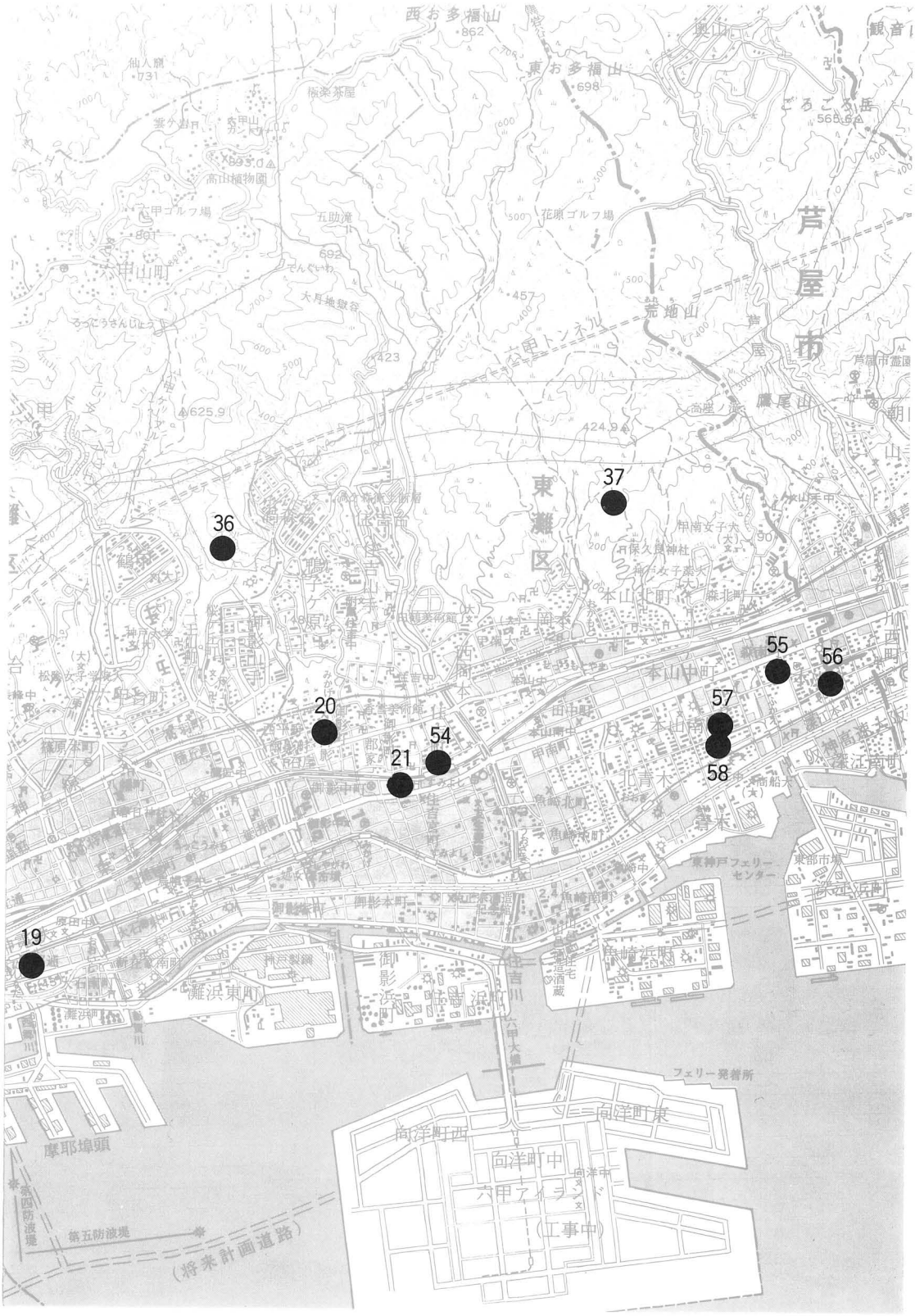




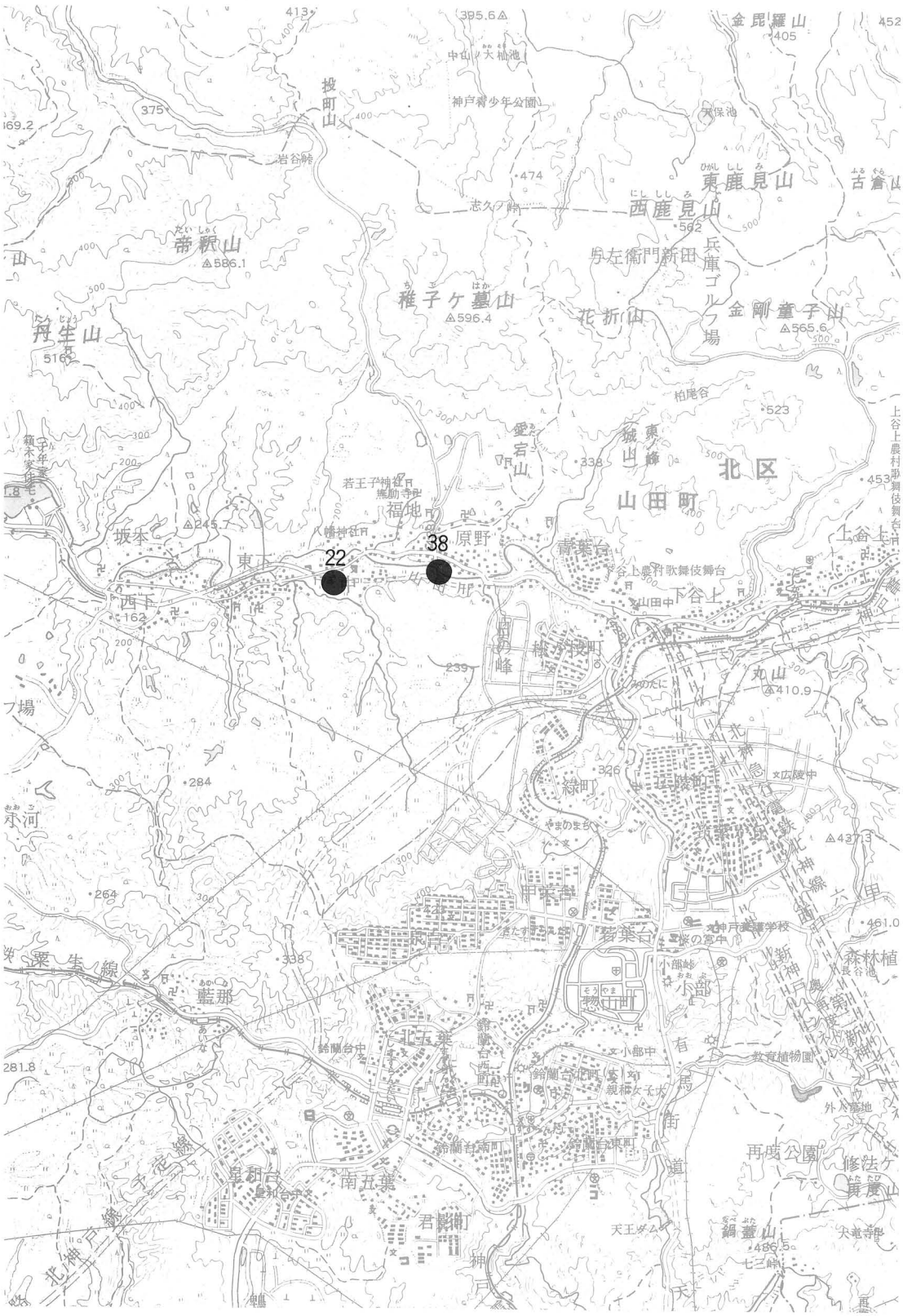
2
3
50
28
8
1a～d
1e
1h
33
34
1f
1g
30
7a
7b
32
6
押部谷町
西区
伊川谷町

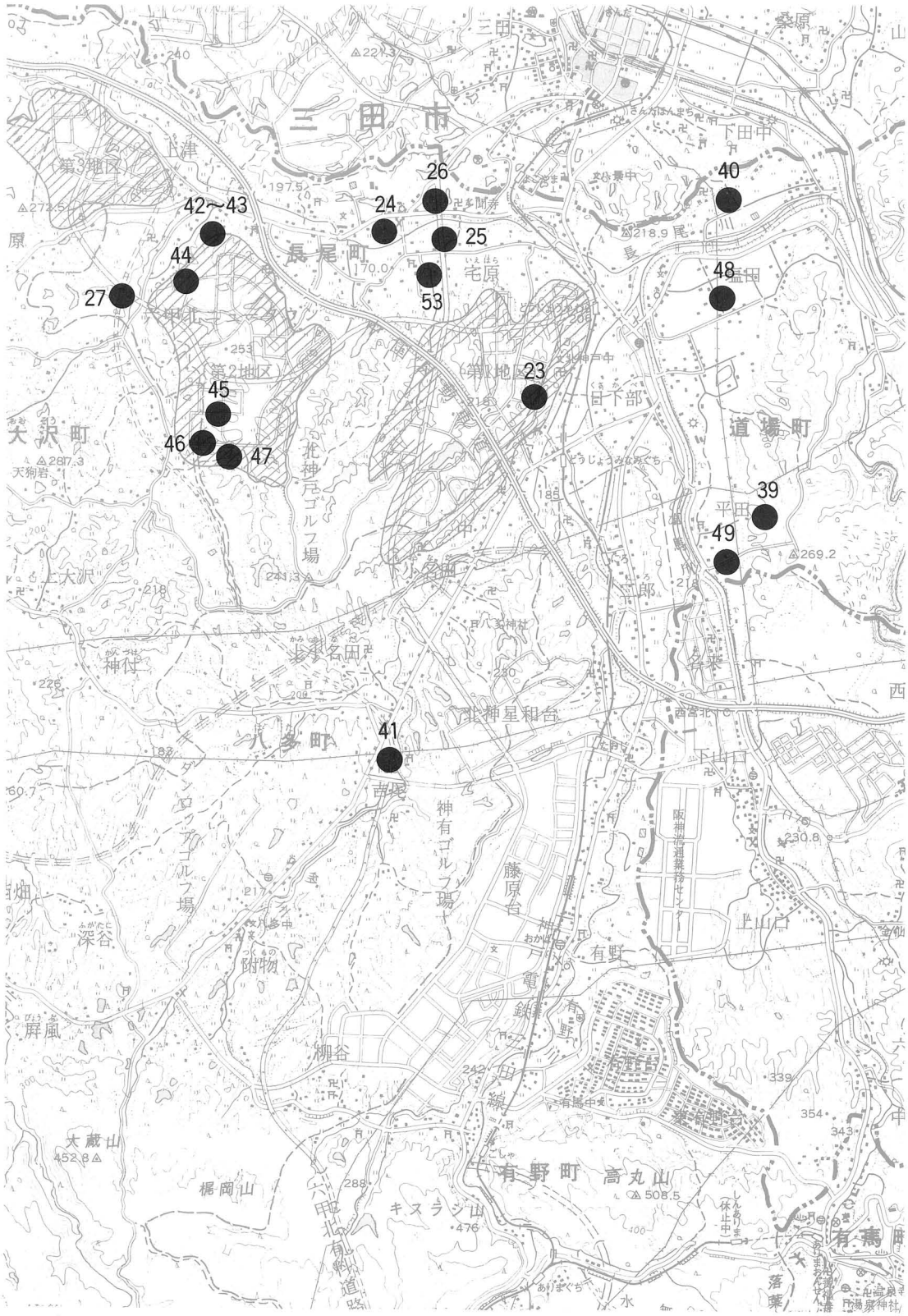

59
9
4
31
9
5
10
12
11·51
明石海峡
明石港
明石川
大蔵谷
上池
長坂


18
52
15
17
16
35
13
14
中央区
兵庫区
長田区
神戸港
港島
摩耶山
再度公園
鍋蓋山
菊水山
鉄有馬線
神戸トンネル
鳥原町
鳥原貯水池
諏訪山
小野浜
神戸ヘリポート
和田岬
浮ドック
神戸検疫所
長田港



西お多福山
東お多福山
芦屋市
荒地山
鷹尾山
東灘区
本山北町
本山中町
本山南町
北青木
東神戸フェリーセンター
東部市場
灘浜東町
御影浜町
住吉浜町
魚崎浜町
六甲大橋
フェリー発着所
向洋町東
向洋町西
向洋町中
六甲アイランド
（工事中）
摩耶埠頭
第四防波堤
第五防波堤
（将来計画道路）
36
37
20
21
54
55
56
57
58
19


22
38
金毘羅山
東鹿見山
西鹿見山
帝釈山
稚子ケ墓山
花折山
金剛童子山
丹生山
北区
山田町
福地
原野
青葉台
坂本
西下
丸山
緑町
若葉台
小部
藍那
北五葉
南五葉
皇和台
君影町
再度公園
鍋蓋山



三田市
長尾町
道場町
八多町
有野町
大沢町
有野台
北神戸ゴルフ場
神有ゴルフ場
阪神流通業務センター
上山口
高丸山
キスラシ山
梶岡山
大蔵山
深谷
屏風
柳谷
附物
藤原台
神付
上大沢
天狗岩
平田
宅原
日下部
温田
下田中
桑原
上津
(第3地区)
(第2地区)
(第1地区)
40
41
42～43
23
24
25
26
27
39
44
45
46
47
48
49
53

Ⅱ．昭和61年度の発掘調査

1．西神（せいしん）ニュータウン内遺跡

昭和61年度の西神ニュータウンおよび関連事業区域内の埋蔵文化財調査は、15件の発掘調査と1件の分布調査を実施した。15件の発掘調査のうち全面発掘調査が11件、試掘確認調査が4件である。総調査面積は15,680㎡に達する。発掘調査のうち、1件は次年度へ継続調査となっている。

したがって、ここでは10件、6遺跡の発掘調査の概要について報告する。なお、このうち5件が次年度に再調査を行う予定である。

西神第10地点遺跡

1．はじめに

西神第10地点遺跡は、西区押部谷町養田に位置し、養田の墓地から北へのびる尾根の先端に立地している。遺跡の標高は88mで、尾根上には賽の神を祭る祠が存在する。

10地点は、当初古墳と考えられており、樹木を伐採した時点でも円墳状のマウンドが観察できた。尾根上に十字のトレンチを設定して調査したところ、表土を除去した時点で、中世土師器片、古墳時代須恵器片と焼土、焼けた骨片、扁平な河原石が発見された。さらに、北側で、古墳の裾を画すと考えられる幅3mの溝が検出された。この試掘調査の結果、10地点は、古墳と中世墓の複合遺跡の可能性が強くなったため、全面調査を実施した。

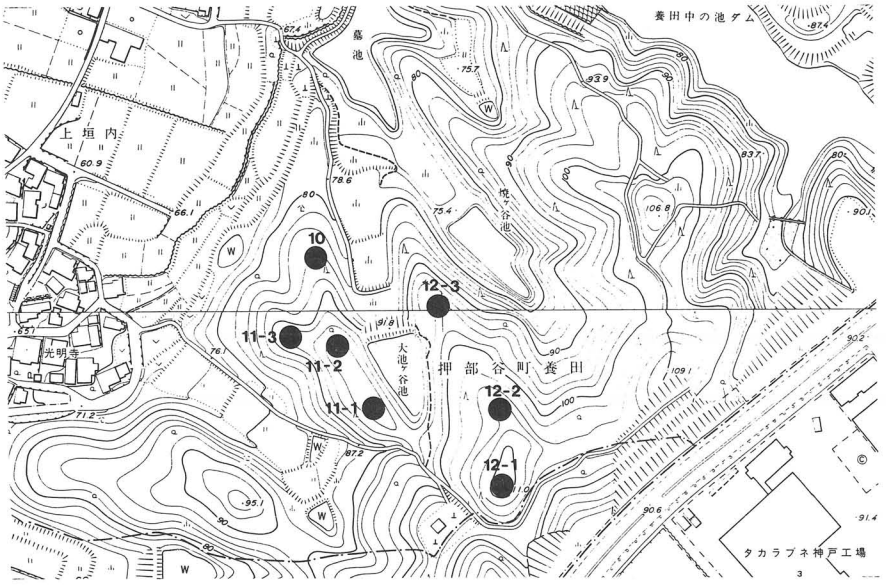


fig. 1
第10・11・12地点
遺跡位置図1：5,000

2．調査の概要

10地点の西側の緩斜面で、扁平な河原石を敷いた集石墓群が南北20m、東西約８ｍの範囲に集中して発見された。集石墓群の間に、須恵器甕、土師器埵、須恵器揑鉢で蓋をした蔵骨器が存在している。蔵骨器１のように、石で囲繞した中に埋納されている例もみられる。蔵骨器２、３のように、蓋がはずれたものは表面に火葬骨が露出している。

集石墓は、石が流れたものもあり、その数を確定しがたいが、少なくとも20基以上存在するものと考えられる。１基当たりの規模は、長さ約１ｍ、幅約0．5mである。集石墓の中には、弧状に石を巡らして区画した中に扁平な河原石を置くものや、立石で方形に区画した中に扁平な河原石を貼りつけるものなどの例がみられる。集石墓及び蔵骨器の年代は、13世紀代と考えられる。なお、この地に、焼土とともに火葬骨が発見される遺構があり、集石墓と一緒にこのような施設を伴わない墓も存在している。

古墳は、径約10mの円墳と考えられる。今回の調査では、北側で周溝の一部を検出したに留まる。出土須恵器から、古墳の築造時期は６世紀初頭と考えられる。

3．まとめ

第10地点遺跡は、今回の調査によって中世集石墓と古墳の複合遺跡であることが判明した。特に集石墓は、西区で初めての発見であり、しかも20基をこす規模の集石墓としては、他にもあまり例を見ない。集石墓に用いられた扁平な石は、明石川の上流、中流では見られないことから、明石川下流、若しくは他の地から運ばれた可能性が強い。

今年度の集石墓の調査は、平面的な検出に留まり、その解明は古墳の調査とともに来年度の調査に委ねられている。

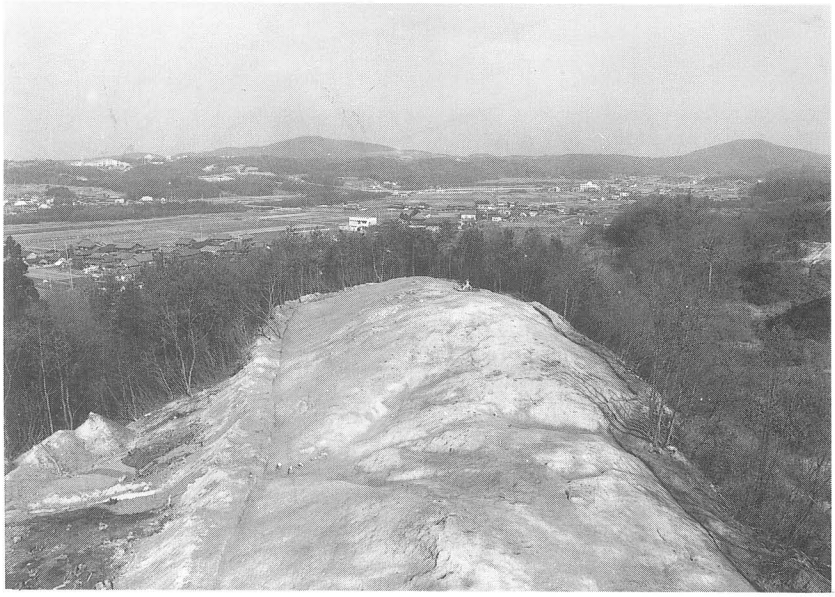


fig.　2
調査地全景（南から）

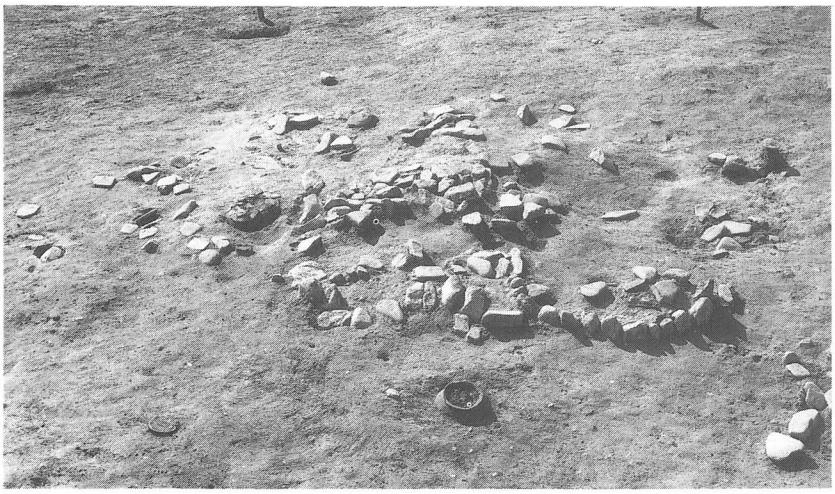


fig.　3
集石墓と蔵骨器

fig.　4　集石墓

fig.　5　蔵骨器

西神第11地点遺跡

1．はじめに

西神第11地点遺跡は、西区押部谷町養田に所在する。12地点から谷一つ隔てて西側を12地点と並行して北へのびる尾根上の先端に位置している。

試掘調査の結果、遺物が出土した地点が３箇所あり、それぞれ11―１、11―２、11―３地点と名づけ、調査を実施した。

2．調査の概要

(1)第11-1地点

第11―１地点は、大池ヶ谷池の西の標高97mのやせ尾根上に立地する。道路や、土取りのため荒されているが、調査の結果、木棺墓３基（ＳＴ01、02、04）、土壙墓２基（ＳＴ03、05）、土坑１基（ＳＫ01）が検出された。

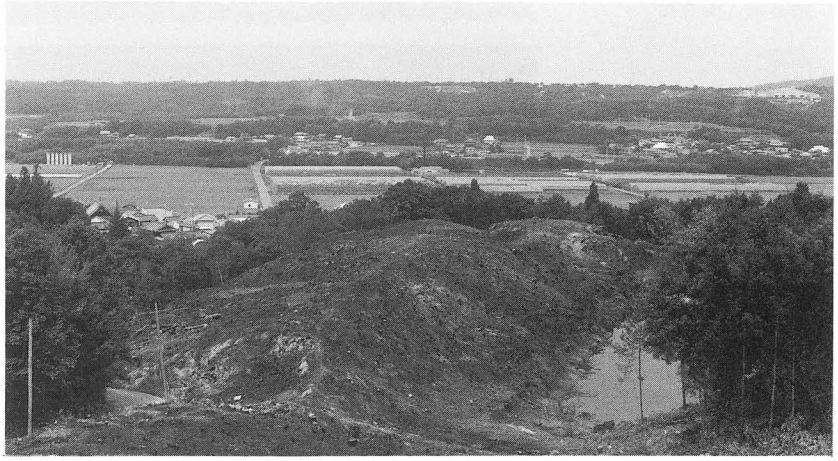


fig. 6
第11地点全景（南から）

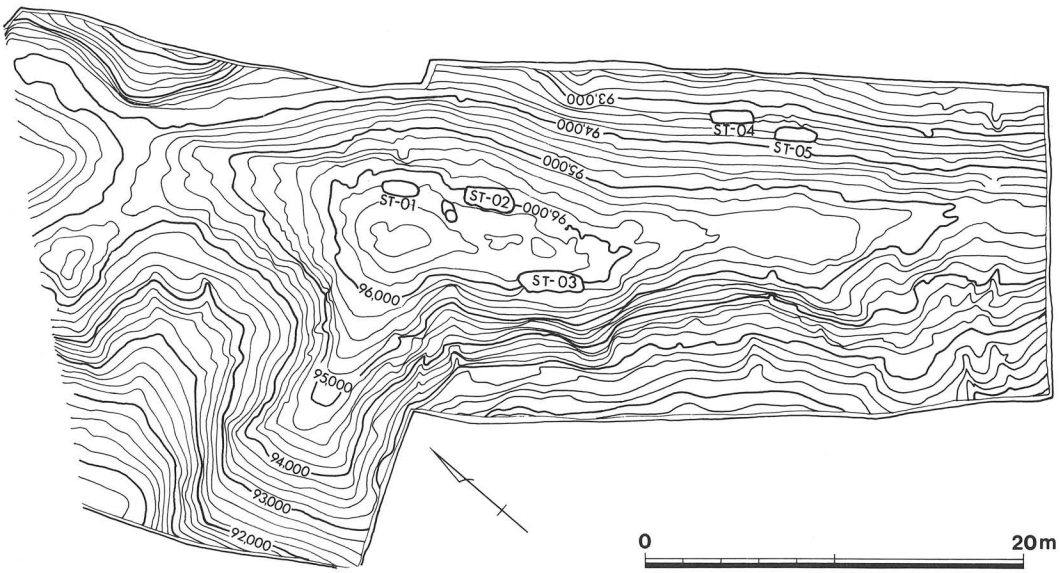


fig. 7　第11地点　遺構全体平面図

ST01　ＳＴ01は、11―１地点の北端で検出された木棺墓である。19.5×0.7 ｍの掘形内に16.5×0.45m の木棺を納めていた。棺の主軸方向は北西である。掘形内及び棺内から遺物は出土しなかったが、掘形上層から須恵器片が出土している。

ST02　ＳＴ01から南2．5m のところに位置する木棺墓である。掘形規模は2．5×1.0 ｍ、棺の大きさは、1.55×0.6 ｍである。棺内埋土は、茶灰色砂質土である。掘形内、棺内から炭が出土したのみで、遺物は出土しなかった。棺の主軸方向は北西である。

ST03　ＳＴ02の西3.5 ｍに位置する。尾根が西側へ傾斜する傾斜変換線付近に作られた土壙墓である。規模は 2.5×0.6 ｍで、埋土は灰色砂質土である。土壙墓内南東端からは、須恵器有蓋高坏、坩、坏身の５点の遺物が出土している。他に遺物は出土しなかった。ＳＴ03の時期は、６世紀初頭である。

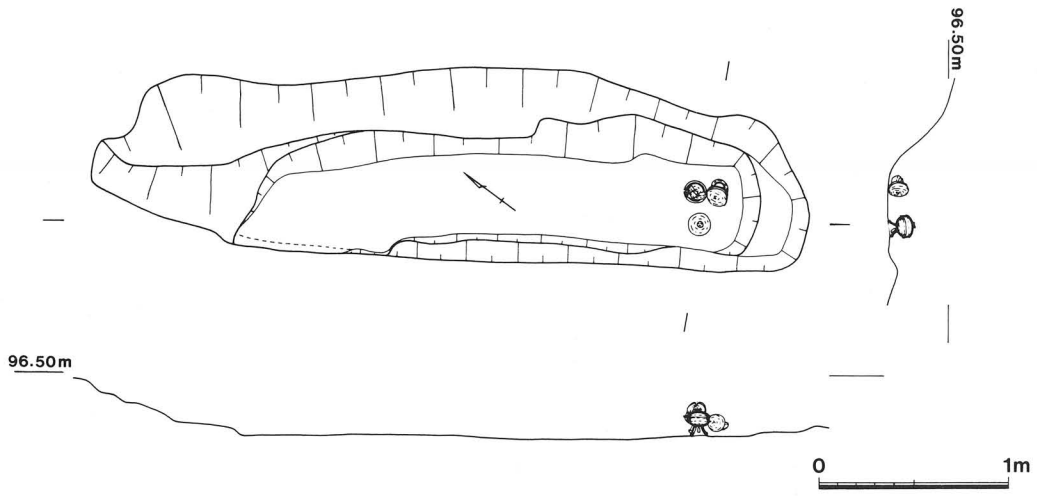


fig.　8　ST03　平面・断面図

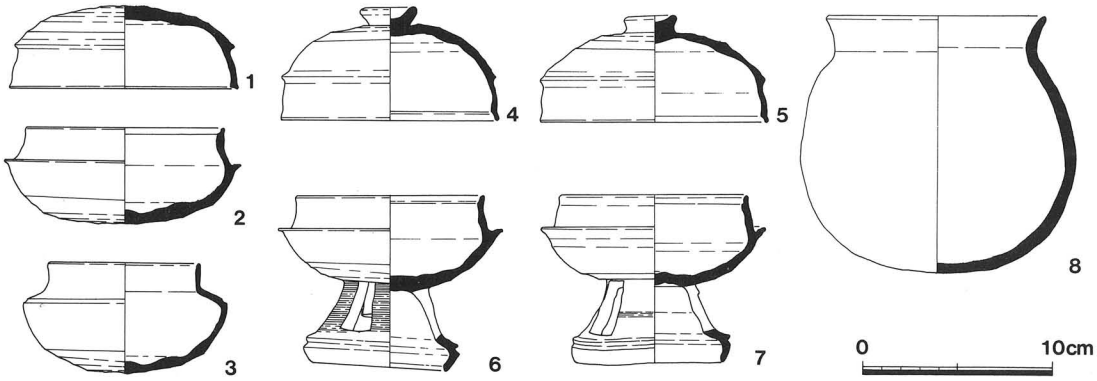


fig.　9　出土土器実測図　　2～7：ST03　8：ST05　1～7：須恵器　8：土師器

ST04　ＳＴ04は、尾根筋より西へ下った斜面上に位置する木棺墓である。掘形規模は、 2.1×0.6 m、棺の大きさは、 1.3×0.4 mである。斜面地のため、僅かに底の部分が検出されたのみである。遺物は、出土しなかった。

ST05　ＳＴ04の南 1.5mに位置する土壙墓である。尾根筋より３m下がった斜面地に位置する。土壙の確認面より35cm上層のところで土師器壺が正立した状態で置かれていた。土壙の規模は、 2.1×0.6 m、深さ0.4mである。土壙墓内からは、緑色凝灰岩製の管玉が９点、ブルーのガラス玉20点が出土した。須恵器が副葬されていないことから、土壙墓の時期は５世紀代に属するものと考えられる。

SK01　11-1地点の調査区の南端付近で検出された径 0.8m、深さ0.4 mの土坑である。土坑内からは遺物は出土しなかった。

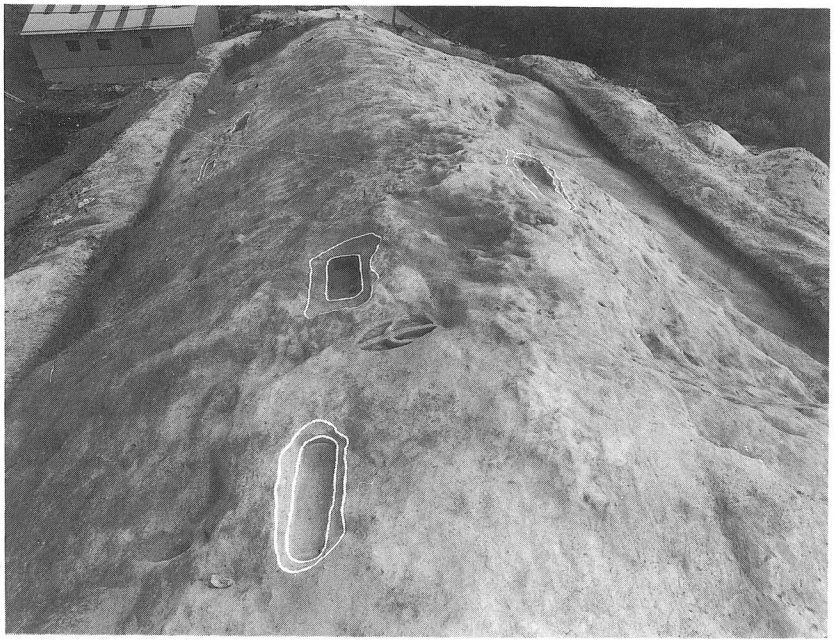


fig.　10 調査地東半部

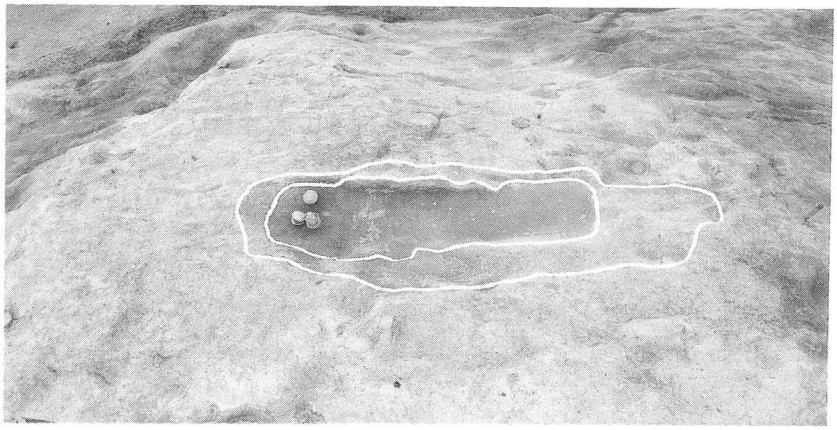


fig.　11　ST03

小　結　第11-1地点は、分布調査の時点で古墳と考えられていたが、調査の結果、尾根が古墳の立地に不向きなやせ尾根であることや、マウンドが存在しないことから古墳とは考えられない。むしろ、木棺墓や土壙墓が集まった集合墓と考えられる。

墓の形成された時期は、5世紀後半～6世紀初頭頃と思われる。古墳時代の墳丘をもたない土壙墓、木棺墓群としては、市内でも数少ない資料の一つである。

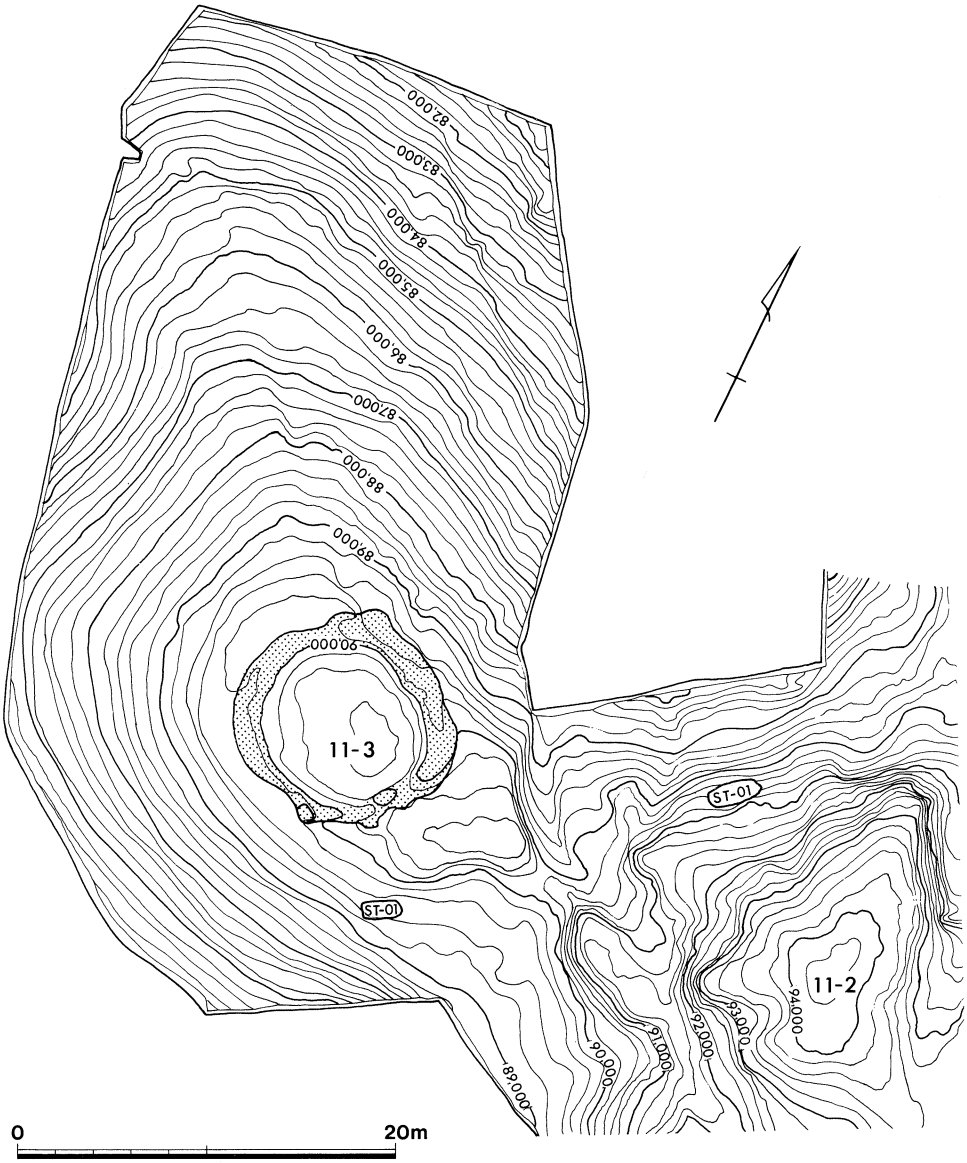


fig. 12　第11－2・3地点平面図

(2)第11-2地点　第11-2地点は、第11-1地点の北40m に位置する。南から伸びる尾根が10地点と11-3地点へ分かれる分岐点に位置する。樹木を伐採したところ、尾根の高まりがみられ、古墳の可能性があったため全面発掘調査を実施した。

ST01　調査の結果、古墳状の隆起と考えられたものは単なる山の隆起部であったが、頂部から５ｍ下がった浅い谷に面した斜面で、東西に主軸をおく割竹形木棺（ＳＴ01）が検出された。 2.8×1.2 ｍの掘形内に 2.0×0.45m の木棺が存在していた。棺底から不明鉄製品が１点出土したのみで、他に遺物は出土しなかった。

ＳＴ01から北へ１ｍ斜面を上がったところで、完形の須恵器坏身、坏蓋が１点ずつ出土した。遺物は流土中にあり、関連する遺構も発見されなかったため、ＳＴ01に伴うものとは考えられない。

出土遺物　11-2地点からは、古墳時代の６世紀初頭と６世紀後半の須恵器や中世の遺物が出土している。但し、中世の遺構は検出されていない。古墳時代の須恵器には、坏身、坏蓋、壺、甕などが見られる。中世の遺物は、須恵器椀・揑鉢、土師器皿・鍋、平瓦片などが出土している。中世の遺物は、鎌倉時代13世紀頃のものと思われる。

小　結　第11-2地点は、当初古墳と考えられていたが、調査の結果、谷に面する斜面地という予想もしなかったところで、割竹形木棺が単独で発見された。割竹形木棺は、斜面を切り込み若干の平地を作った後、納められている。棺内からは、鉄製品が出土したのみで他に遺物は出土しなかったため、時期は、断言できないが、概ね５世紀代に属すると考えられる。

11-2地点からは、この割竹形木棺の他には遺構は発見されなかった。したがって、中世の遺物は、10地点遺跡の集石墓との関連性が考えられる。

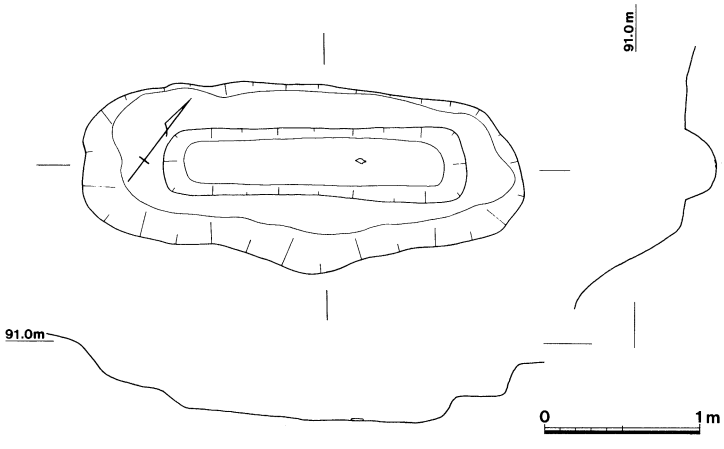


fig. 13
ST01平面・断面図

(3)第11-3地点　第11-3地点は、第11-2地点の西30m に位置し、浅い谷をはさんで第10地点とは対向する位置にあたる。遺跡の標高は91m である。樹木を伐採した時点で低いマウンドが観察された。試掘調査の結果、古墳の裾と考えられるところから須恵器が出土したため、全面調査を実施した。調査の結果、11-3地点からは、径10m の円墳１基と木棺墓１基(ＳＴ01)が発見された。

古　墳　古墳は、直径約10m 、高さ約１m の低平なマウンドをもつ円墳で、深さ0.3 m の溝を巡らしている。溝内からは、須恵器、土師器が出土している。西側の周溝内からは主として土師器が出土し、東側の周溝内からは、須恵器が出土している。南側の周溝内には、周溝をさらに掘り込んで方形の土器埋納坑（長さ 1.2m 、幅0.6 m 、深さ0.4 m）が作られており、中に須恵器坏身、坏蓋がセットで納められていた。このように、周溝の肩を掘りこんで土器埋納坑が作られている例は、玉津町の居住小山遺跡でも知られている。

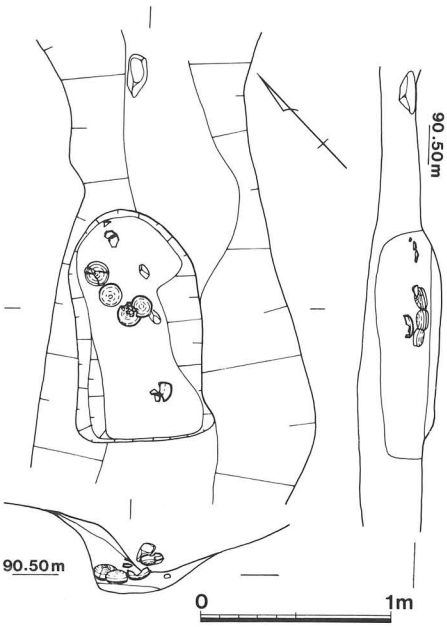


fig. 14　土器埋納坑平面・断面図

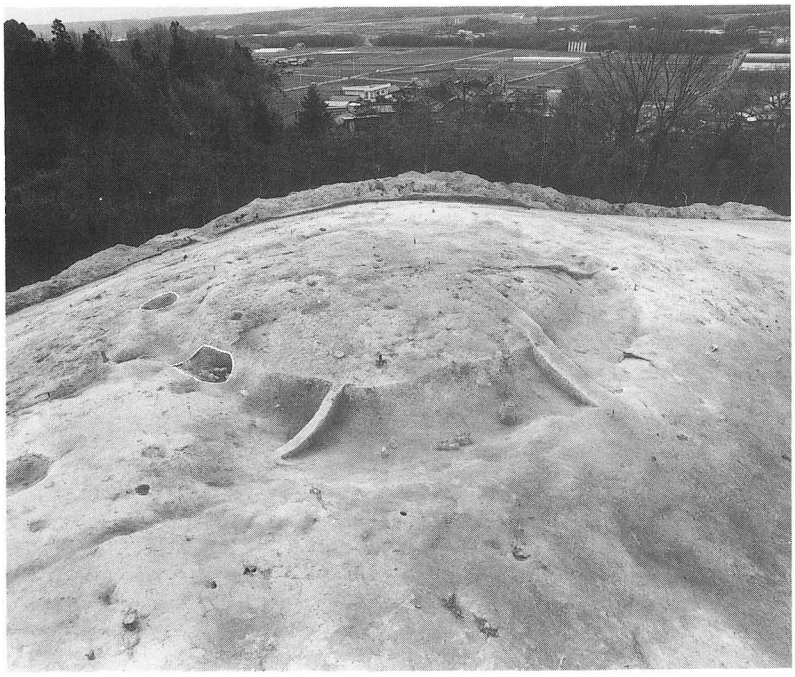


fig. 15 古墳全景（東から）

古墳の墳丘部は、灰と焼土を用いて盛土されているが、主体部はすでに削平されてしまったためか、地山面まで掘り下げても検出されなかった。古墳の築造時期は、土器埋納坑内の土器からみて、５世紀末～６世紀初頭と考えられる。

ST01

ＳＴ01は、古墳の周溝肩から南へ５ｍ離れた緩やかな斜面上に位置する。主軸をほぼ東西にとる木棺墓で、掘形の規模は、２．１×１．９m、棺の規模は１．８×０．５m を測る。掘形の南壁沿いに、須恵器坏蓋２点が副葬されていた。木棺墓の時期は、副葬されていた須恵器からみて６世紀後半と考えられる。

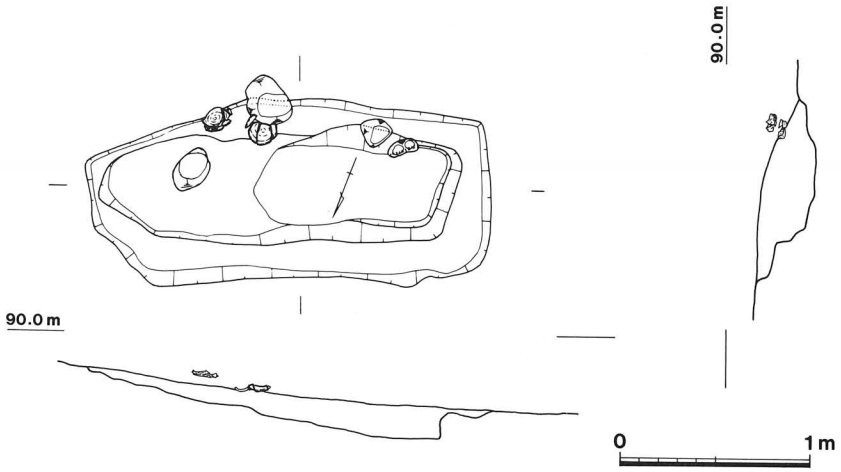


fig. 16
ST01平面・断面図

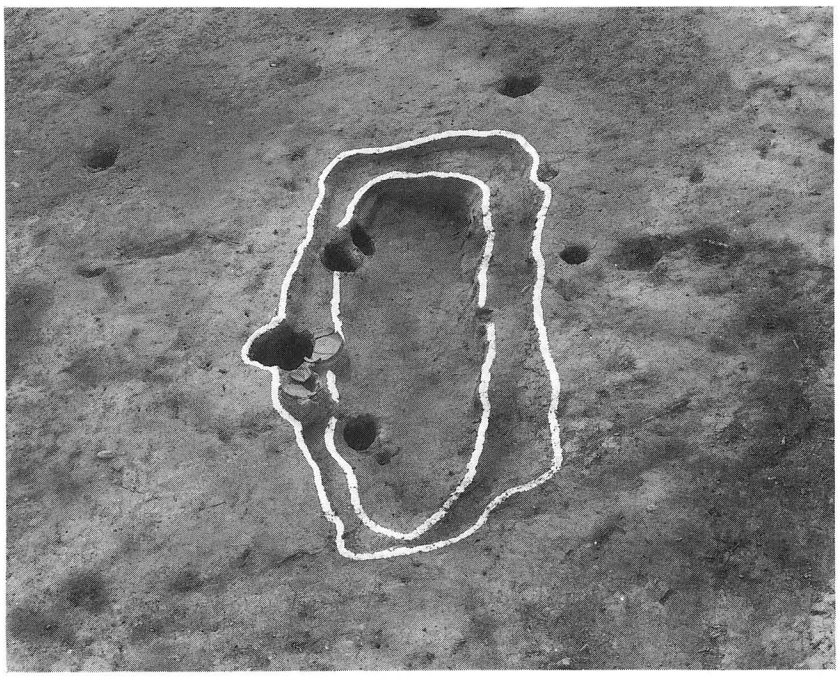


fig. 17 ST01（東から）

fig. 18　土器埋納坑

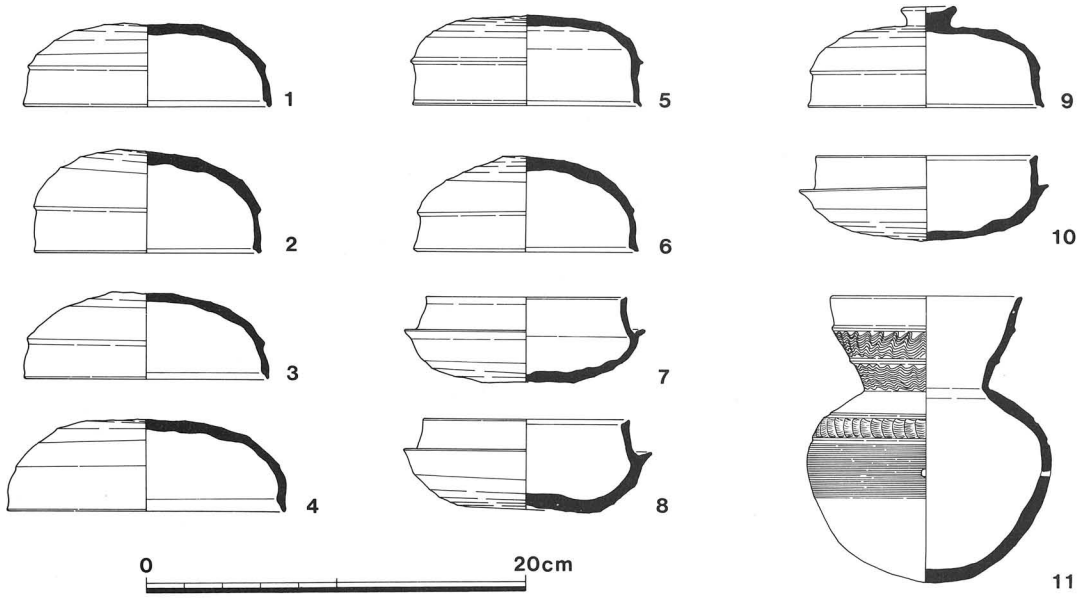


fig. 19　第11―2・3地点出土須恵器　9・10：第11―2地点　他は第11―3地点

出土遺物　11―3地点では、古墳の周溝内、土器埋納坑及びＳＴ01から遺物が出土している。土器埋納坑からは、坏身2、坏蓋4、短頸壺1が出土し、周溝内からは、須恵器坏・高坏・短頸壺、土師器壺などが出土している。古墳の裾からは、中世の土師器皿、椀の破片が出土している。

小　結　第11―3地点では、古墳と木棺墓が発見された。古墳は、5世紀末～6世紀初頭に築造され、6世紀後半になって木棺墓が築かれた。古墳からは埋葬施設は検出されなかったが、幅1.5mの溝を全周させることにより、径10mの墳丘部を区画するなど手のこんだ築き方をしている。

西神第12地点遺跡

1．はじめに

西神第12地点は、西区押部谷町養田に所在する。焼ヶ谷池をはさんで第７地点の西に位置し、標高１１１m を最高所とする南北約２５０m の尾根上に立地する。第12地点から西へのびる尾根上には、かって第18～第20地点の遺跡が存在していた。

分布調査時に第12地点としてマークされていたのは、標高１１１m の最高所付近のみであったが、尾根上にトレンチを設定して調査した結果、さらに２ヵ所の遺跡が確認された。したがってこれらの遺跡を12―１、12―２、12―３地点と名づけ、調査を行った。

2．調査の概要

(1) 第12-1地点

第12―１地点は、分布調査時点で古墳と考えられていたところである。第12地点の中では、最も眺望のよい場所に立地している。樹木伐採後、低い高まりが見られたので、十字に土層観察用の畦を残し掘り下げた。

その結果、墳丘と考えられる低い高まりの北側で、僅かに幅0．8m、長さ３m 程の浅い溝状遺構が検出された。しかし、墳丘部と思われるところは地山まで削平されており、埋葬施設は確認されなかった。墳丘の南側裾部は、灰を混じえた盛土が厚さ0．2m 程残存していた。この南側裾部では東西４m、南北約1．5m の範囲にわたり土師器片や須恵器片が出土した。

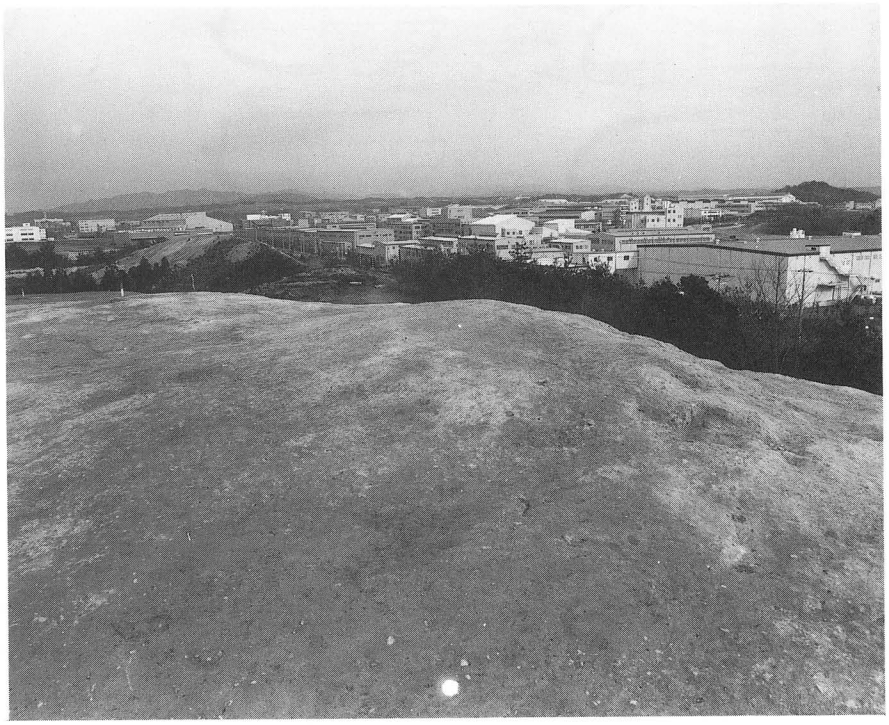


fig. 20
第12―１地点全景
(西から)

墳丘の南西裾から3m程離れたところで、0.9×0.8m、深さ7cmの楕円形の土坑が検出された。中からは、炭以外の遺物は出土していない。

出土遺物　墳丘の西側、南側、東側から須恵器片や土師器片が出土しているが、比較的多く出土したのは、墳丘南側裾部である。

須恵器には、坏蓋、坏身、高坏、甕の破片が出土している。小片のため図化できるものは殆んどない。土師器も小片のため器種は不明である。出土遺物の年代は、須恵器の形式から6世紀初頭前後と考えられる。

小　結　第12—1地点は、すでに削平を蒙り、僅かに高まりを残すのみであるが北側に弧状に巡る溝と南側に散乱する土器の存在から、径約10m程度の円墳と考えられる。埋葬施設は失われているが、南西側に古墳に関連すると思われる炭が入った土坑を伴っている。古墳の築造年代は、出土遺物の時期から6世紀初頭と考えられる。

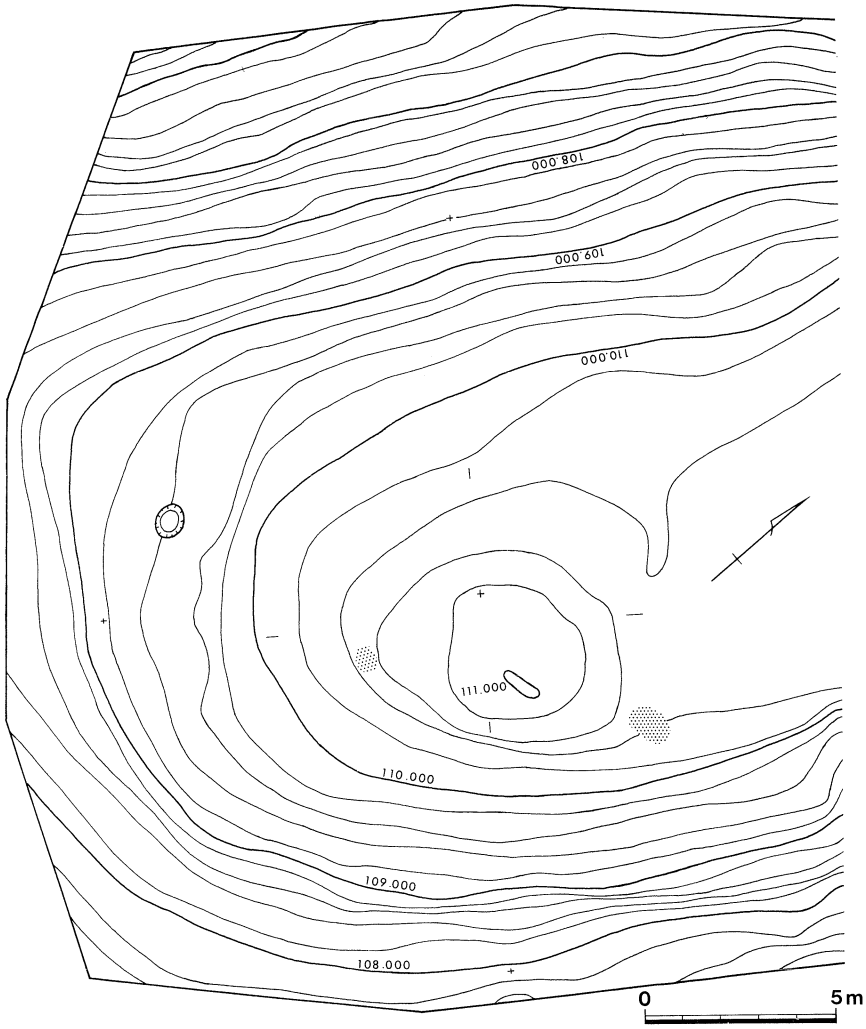


fig. 21
第12—1地点平面図

(2) **第12-2地点**　第12—2地点遺跡は、第12—1地点の北50mに位置する標高約107mの平坦な尾根上に立地している。すでに地山まで削平されていたが、トレンチで土器を埋納した土坑が検出され、遺跡の存在が確認された。

検出された遺構は、土器埋納坑（SK01）とその北側に位置する土坑（SK02）である。

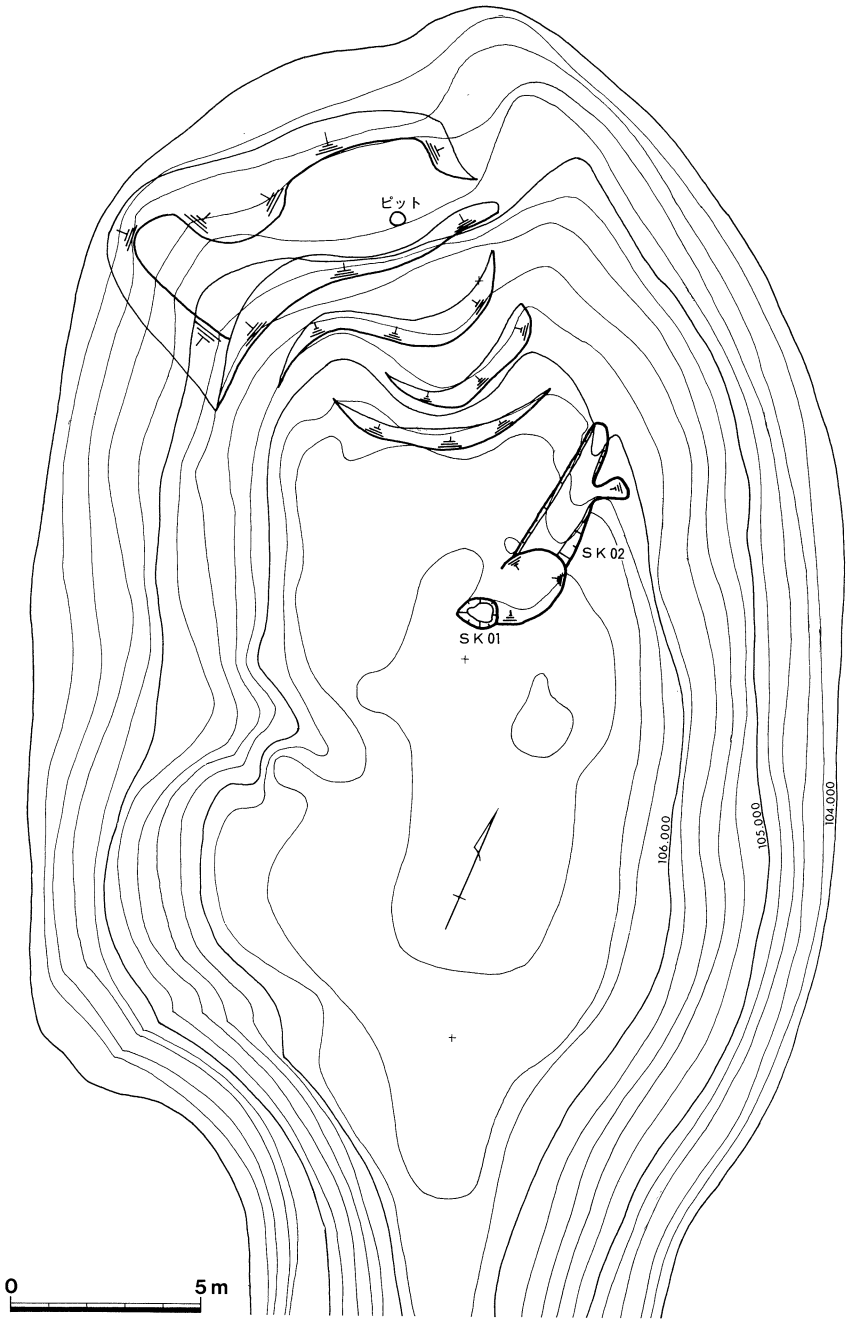


fig. 22
第12—2地点
遺構平面図

SK01　ＳＫ01は、長さ1．0ｍ、幅0．9ｍ、深さ６cmの台形状の土坑で、土坑の西肩よりに須恵器坏身・有蓋高坏、土師器椀、紡錘車等が置かれていた。有蓋高坏は蓋をはずした状態で正立させ、土師器椀も同様に正立した状態でおかれていた。ただし、須恵器坏身は伏せた状態で置かれていた。紡錘車は、須恵器坏身の西側から出土している。土坑内埋土は、地山に近い明褐色粘質土であり、この土坑が作られた後、時を経ずして埋め戻されていることが判明している。

SK02　ＳＫ02は、ＳＫ01の北側に位置する南北４ｍ、東西1．2ｍ、深さ0．2mの長方形の土坑と考えられる。北側と南側が攪乱を受けているため不明な点が多いが、攪乱土の中から須恵器高坏や鉄片が出土している点を考慮すると、埋葬施設の可能性も考えられる。

その他の遺構　第12―２地点の検出遺構として、この他に焼土坑とピットがある。焼土坑は、ＳＫ01の南約20mに位置する１辺1．2×1．0ｍ、深さ0.25mの長方形の土坑である。壁面、底面はよく焼け、中からは炭が出土している。時期は不明である。

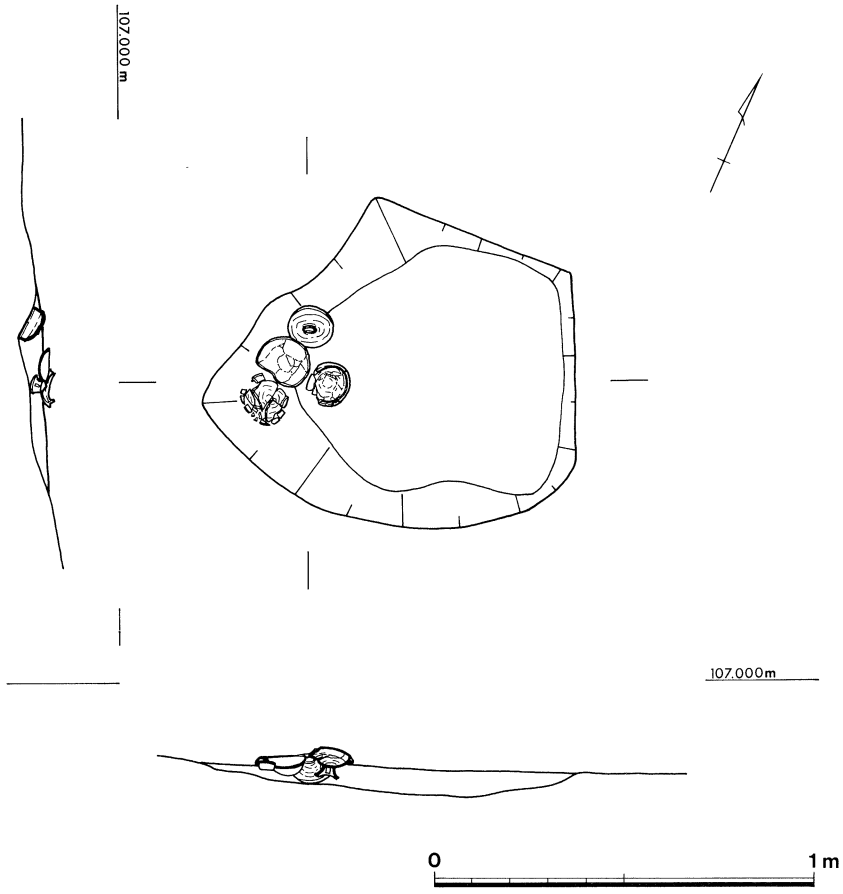


fig.　23
SK 01平面・断面図

ピットは、ＳＫ01の北側10m に位置し、階段状に切り開かれた平坦面に作られている。径0.3ｍ、深さ0.2ｍで、中には蛸壺が納められていた。時期は、近、現代のものと考えられる。この種の壺には臍帯を納めたという伝承がある。

fig. 24
第12―２地点全景
(南から)

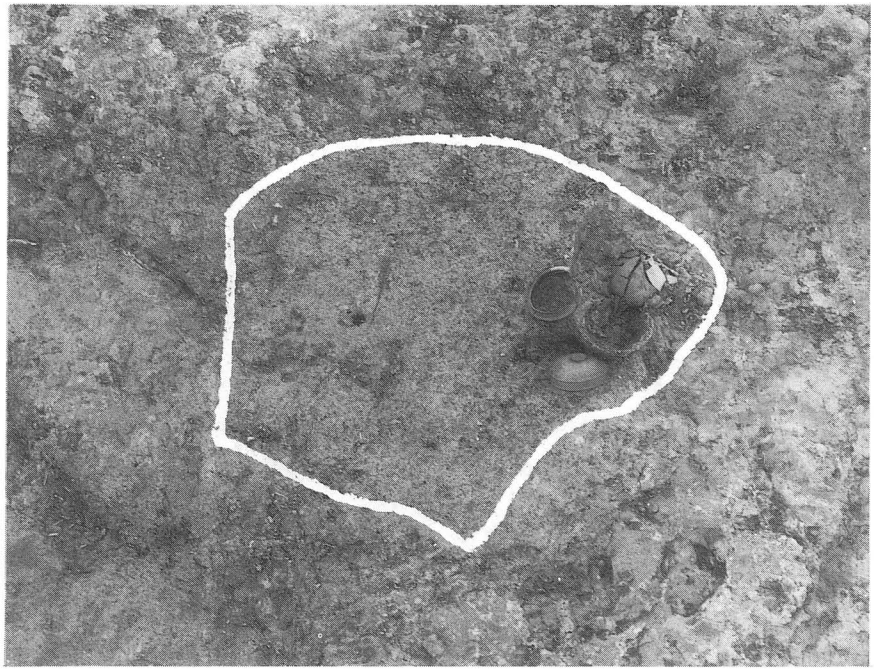


fig. 25 SK 01

出土遺物

遺物はＳＫ01、ＳＫ02及び蛸壺を納めたピット北方の流土中から出土している。その殆んどが須恵器で、須恵器以外の遺物としては、ＳＫ01から出土した土師器埦、紡錘車、ＳＫ02出土の鉄製品のみである。

須恵器には坏身、坏蓋、有蓋高坏、無蓋高坏、甕などの器種がみられる。

紡錘車は、滑石製で断面台形状を呈し、下面には線刻の文様がみられる。

鉄製品は、長さ９cm、幅３cm、厚さ１cmの破片であるがどのような製品の一部になるかは不明である。

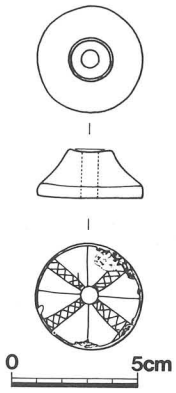


fig. 26 紡錘車

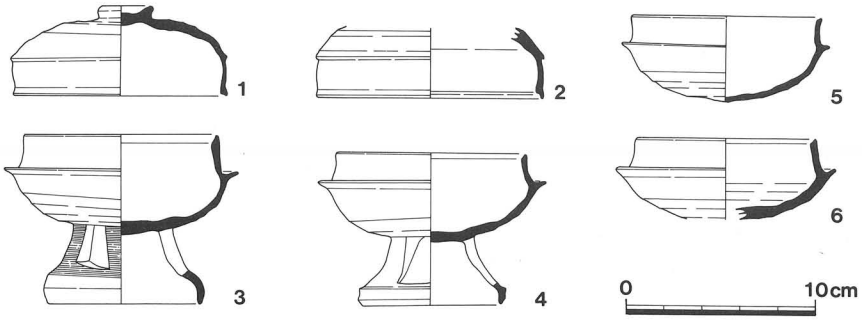


fig. 27 SK01出土須恵器実測図

fig. 28 SK01遺物出土状況

小　結

第12―２地点からは、土師埋納坑ＳＫ01と埋葬施設の可能性も考えられるＳＫ02が検出された。これの年代は、出土須恵器の形式から６世紀初頭と考えられる。すでに、この地点が地山まで削平されているので、果たして墳丘があったかどうかは疑問であるが、古墳時代の埋葬施設が存在した可能性は極めて高い。

(3) 第12-3地点　第12—３地点では、古墳１基とその南側で「コ」字形に巡る溝１条、半円形に巡る溝１条が検出された。「コ」の字形の溝は、１辺約５ｍで、幅０.８ｍ、深さ０.３ｍ、北側が古墳の周溝に切られている。溝内から遺物は出土しなかった。半円形の溝は、径約５ｍで、幅０.８ｍ、深さ０.４ｍ、西側は尾根の斜面で途切れ、全周はしない。溝内から遺物は出土しなかった。遺物が出土しなかったため、この２条の溝の時期を断定はできないが、古墳との切り合い関係や埋土からみて古墳と同時期、若しくはそれ以前と考えられる。

古墳は、径約10ｍ、残存高約１.２ｍの円墳で、南側に幅１.１ｍ、深さ０.３ｍの周溝が尾根を切断するよう巡らされている。北側墳丘裾から、散乱した状態で須恵器が出土している。また、墳頂部表土から、土師器を中側にして入れ子にした状態の須恵器が出土している。

墳丘は、北側裾及び西側裾付近では、地山の上に焼土がみられたが、他では盛土はみられず淡褐色砂質土の地山であった。墳丘内及び墳丘外からは、埋葬施設は発見されなかった。

出土遺物　12—３地点から出土した遺物は、須恵器、土師器である。墳丘上から出土した数点の遺物を除き、殆んどが北側裾からの出土である。須恵器には、坏身、坏蓋、甕、壺などの器種がみられ、土師器は椀が出土している。須恵器の坏身、坏蓋は４セット出土している。

fig. 29
第12—３地点全景
(南から)

小　結　12―3地点は、木棺を埋葬施設とする直径約10mの円墳と考えられるが調査の結果、埋葬施設は検出されなかった。古墳の築造時期は、出土須恵器の形式から6世紀初頭と考えられる。

fig. 30 第12-3地点
遺構平面図

fig. 31 第12-3地点
墳頂部須恵器出土状況

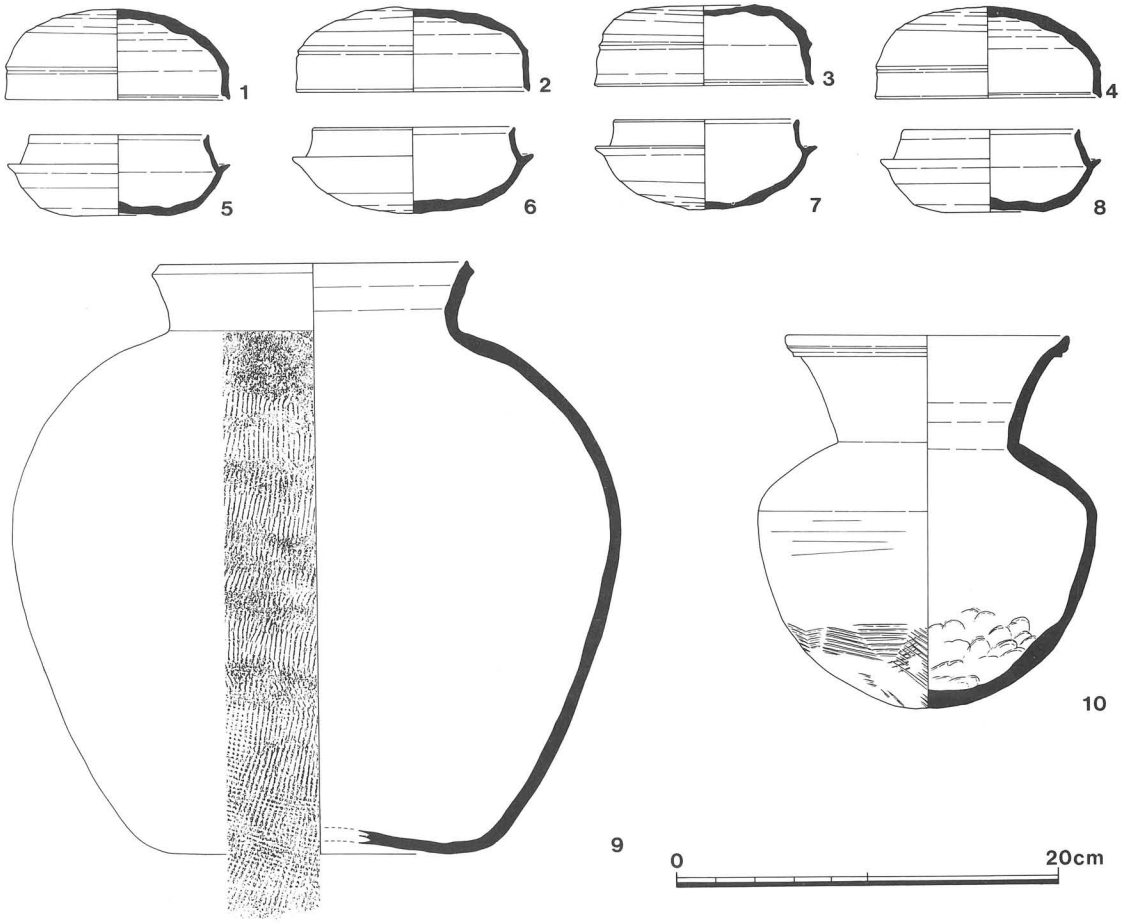


fig. 32 第12—3地点出土須恵器実測図

西神第56・57地点遺跡

1．はじめに

西神第56、57地点遺跡は、明石川中流域左岸、西区平野町宮前に所在する丘陵上に立地している。遺跡の標高は103～107ｍ、明石川付近の現水田面との比高差は60mである。

第57地点から同一尾根上を南へ300ｍ下ったところには西神第59地点遺跡（昭和58年度調査、弥生時代中期墓址）があり、また56地点から北西へ派生する尾根上には西神第55地点遺跡（昭和60年度調査、古墳）が存在する。また北800ｍには西神第50地点遺跡（昭和52～54年度調査、弥生時代集落址）が存在する。

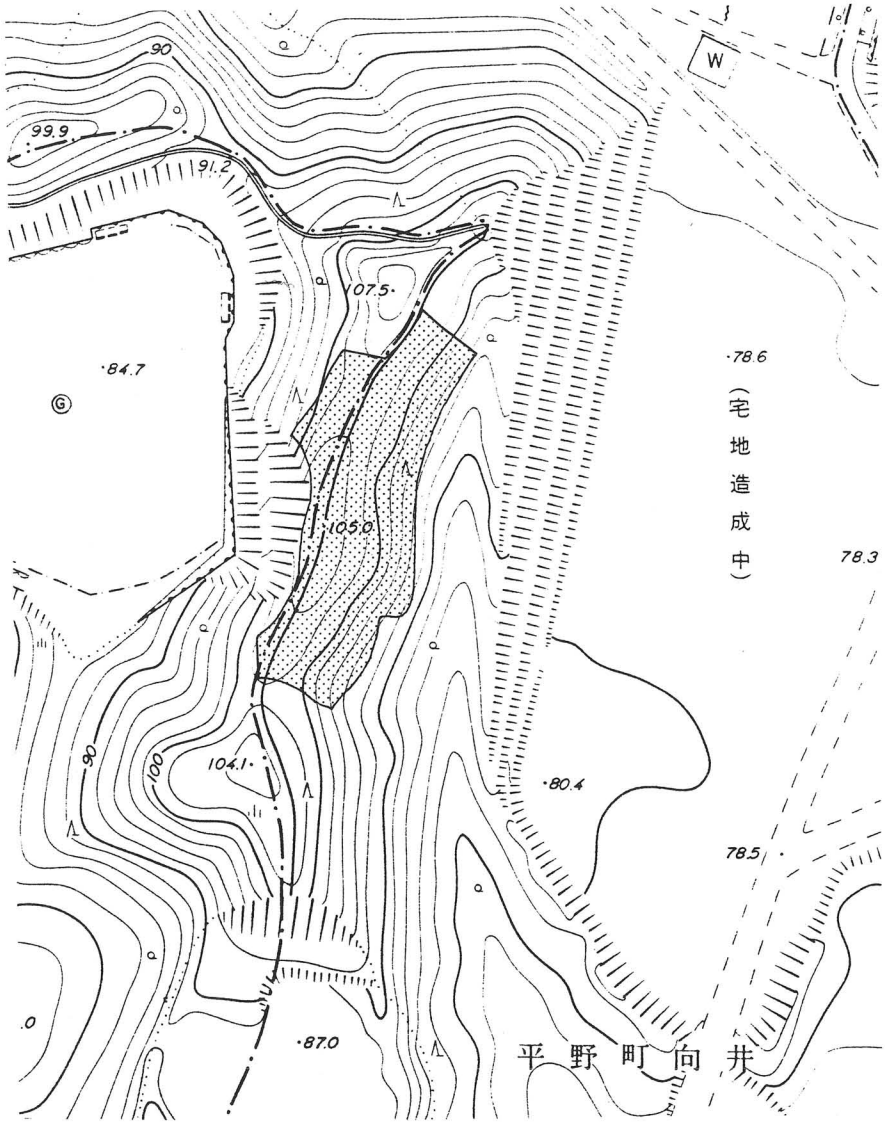


fig. 33
第56・57地点遺跡
位置図 1：2,500

2．調査の概要　第56地点、第57地点は、分布調査の時点で古墳と考えられていた。尾根上及び斜面にトレンチを設定して調査したところ、古墳は確認されなかったが、尾根の鞍部東側で弥生時代の地山整形遺構が検出された。

このため、尾根の鞍部を中心に全面発掘調査を実施した。調査面積は1,800㎡である。

検出遺構　検出された遺構は地山整形遺構２基（ＳＸ01、ＳＸ02）、土坑２基（ＳＸ01、ＳＸ02）、不明遺構１基（ＳＸ03）である。

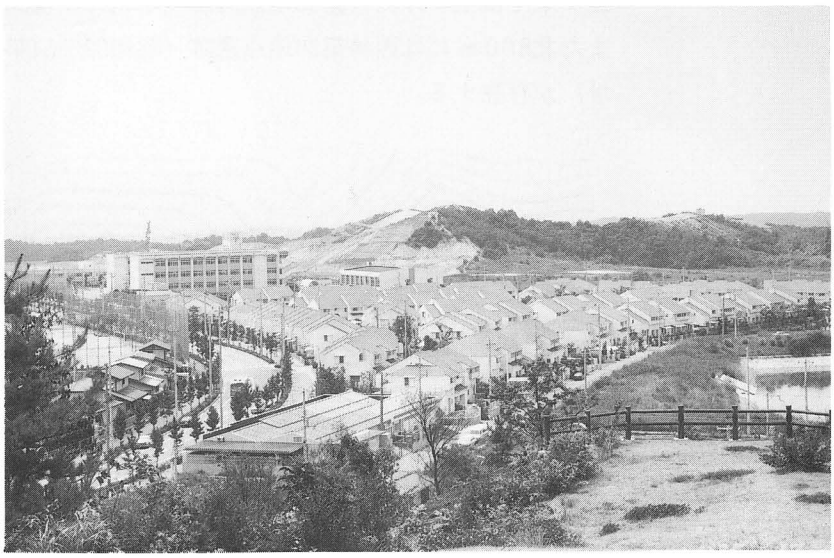


fig. 34
第56・57地点遠景（東から）

fig. 35
調査地全景（西から）

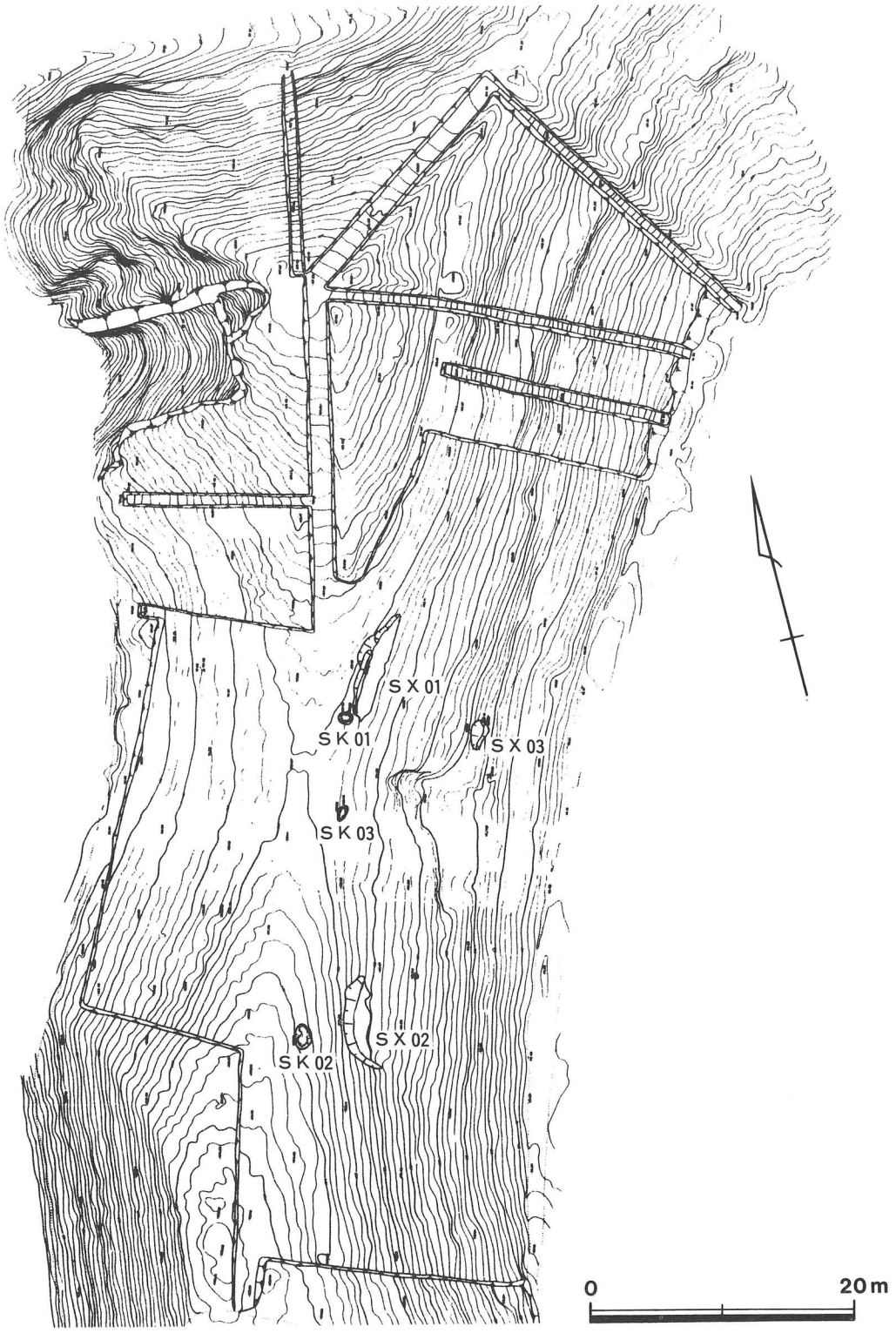


fig. 36　第56・57地点遺跡　遺構平面図

SX01　　ＳＸ01は、尾根筋よりやや東へ下った標高約104ｍ程のところに作られた地山整形遺構である。

長さ８ｍ、幅2.5ｍ、平坦面幅1.5ｍ、平面は三日月形をしており、平坦面上には、幅0.2ｍ、深さ0.04ｍの溝が巡らされている。平坦面上には、柱穴が存在しないため住居址とは考えられない。溝内からは、弥生土器の小片が数点出土したのみで他には遺物は出土していない。

SX02　　ＳＸ02は、ＳＸ01の南20ｍに位置し、ＳＸ01同様尾根筋より東へ下った斜面上の標高103ｍのところに位置する。長さ７ｍ、幅２ｍ、平坦面幅1.２ｍでＳＸ01同様平面三日月形を呈するが、溝は存在しない。埋土から弥生土器が出土している。

fig. 37
SX01・SK01

fig. 38
SX02・SK02

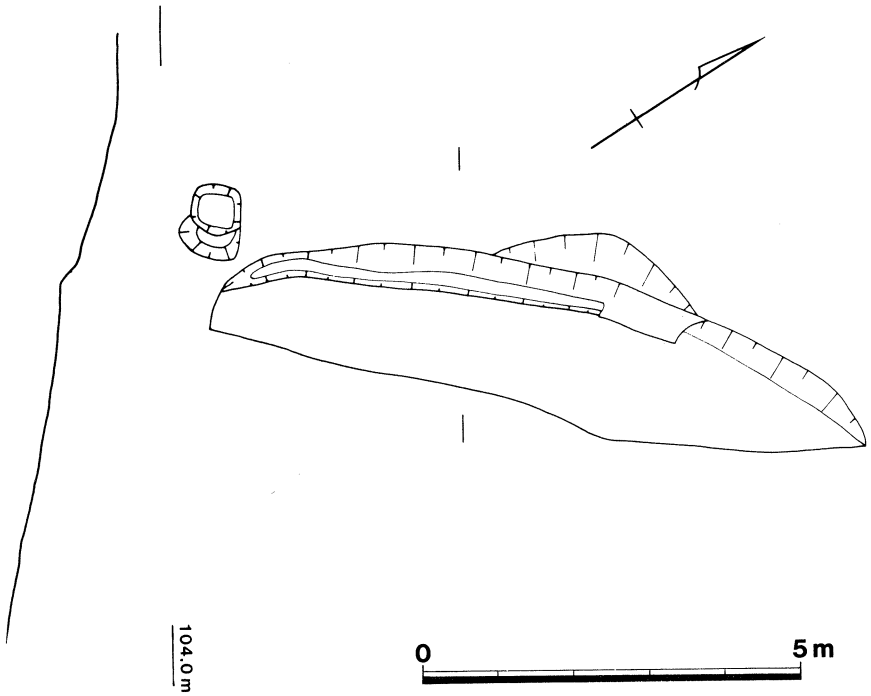


fig. 39
SX01・SK01
平面・断面図

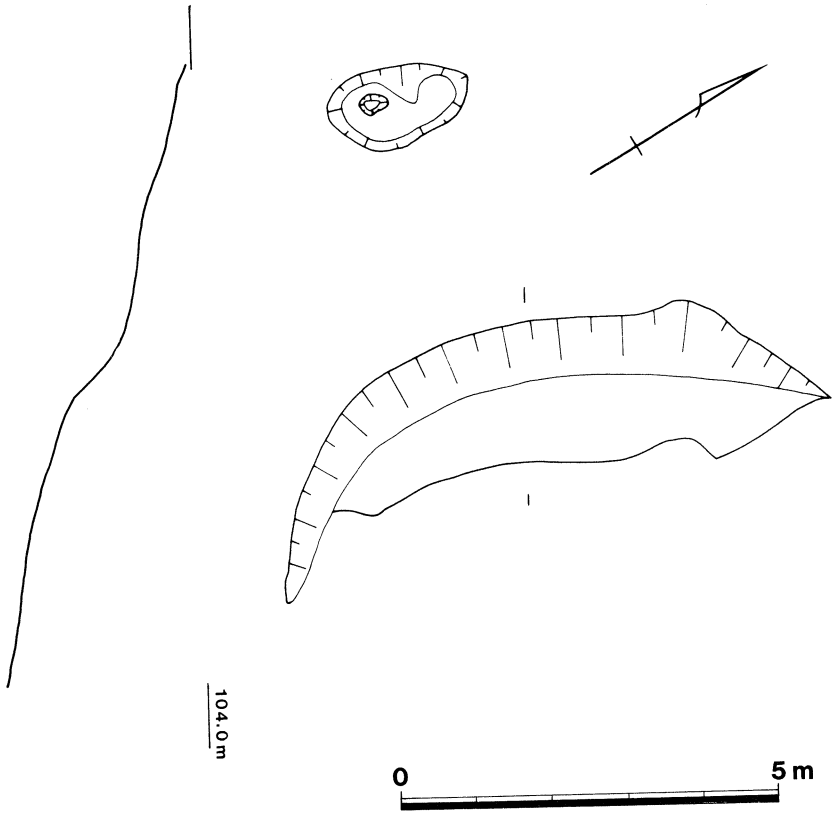


fig. 40
SX02・SK02
平面・断面図

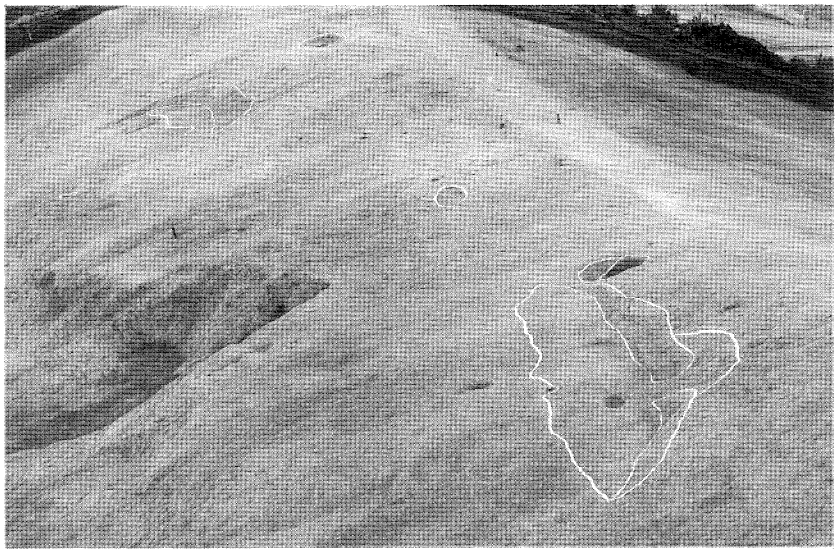


fig. 41
SX01・02（東から）

SK01　ＳＸ01に接して山側に作られた長径１ｍ、短径0.7ｍ、深さ0.3ｍの土坑である。遺物は出土していない。

SK02　ＳＸ02の斜面山側に作られた土坑である。長径1.8ｍ、短径１ｍ、深さ0.1ｍを測る。遺物は出土していない。

SK03　ＳＸ01とＳＸ02との間に位置する土坑（長径1.1ｍ、短径0.6ｍ、深さ0.08ｍ）であるが、埋土から遺物は出土していない。

SX03　ＳＸ01から斜面を東へ下った標高約100ｍのところに位置する遺構で、長さ２ｍ、幅１ｍで尾根をカットし、0.2ｍの平坦面を設けている。用途は不明で、遺物も出土していない。

３．出土遺物

全体で 1,800㎡程の面積を調査したが、遺物の出土量は非常に少なく、弥生土器片、須恵器片が出土しているにすぎない。そのうち、遺構に伴うものは弥生土器小片のみである。

弥生土器は、壺のみで他の器種は出土していない。壺は口縁端部を肥厚させる広口壺で、時期は弥生時代中期中葉（Ⅳ様式）に属する。須恵器は、古墳時代後期の坏の破片が１片出土している。

４．まとめ

西神第56、57地点の調査では、弥生時代中期中葉（約 2,000年前）の地山整形遺構２基とそれに付随すると考えられる土坑が検出された。同一の尾根上を南に下った西神第59地点遺跡では、同時期の墓地が造られており、木棺墓、土壙墓が検出されている。

２基の地山整形遺構と付随する土坑は、墓地を形成した弥生人と密接な関連を有するものと考えられる。地山整形遺構の性格は、遺物の出土量が極めて少ないことから、生活の本拠とは考えにくく、小屋のような付属施設に結びつくものと考える方が妥当であろう。

西神第65地点遺跡

1．はじめに

西神第65地点遺跡は、西区櫨谷町栃木に所在する。櫨谷町菅野から深く入り込んだ菅野谷の最奥部に位置し、谷に面した西側斜面を中心に遺跡が存在している。昭和59年度に、道路によって切断される尾根の発掘調査が実施され、弥生時代の住居址や通路状遺構が検出されている。

昭和59年度調査時のＢ地区、Ｃ地区間の沢に、今回、関西電力の変電所が建設されることになり、建設予定地内の調査を実施した。

調査は、まずトレンチにより遺跡の範囲を確認することから始めたが、トレンチで、土器棺や地山整形遺構の一部が検出されたため、全面調査に切り替えた。調査面積は650㎡である。

fig. 42
第65地点遠景(西から)

fig. 43
調査地全景(西から)

2．調査の概要　調査区はＢ地区の尾根の西側斜面、標高98m～78mの部分である。検出された遺構は、土器棺１基、通路状遺構１条、地山整形遺構１基、土坑５基、ピット４個、溝３条である。

fig. 44　調査地遺構平面図

ST01　土器棺（ＳＴ01）は、尾根の緩斜面に、長径1.4ｍ、短径0.8ｍの掘形を穿ち、その中に甕を身にし、脚部を打ち欠いた高坏で蓋をして横たえた状態で検出された。土器棺の大きさは、長さ0.7ｍ、幅0.4ｍで甕の口を谷へ向けて横たえられている。棺内から遺物は出土しなかった。時期は、弥生時代中期後葉である。

SF01　標高83m から82m へ、尾根の中腹を北から南へ下がる幅0.7～1ｍの通路状遺構が長さ約29m 検出された。ＳＦ01は、昭和59年度に調査したＳＢ04付近から始まり、今年度調査のＳＤ02付近にまで及んでいるものと思われる。

SX01　ＳＸ01は、ＳＦ01の山側に作られた地山整形遺構である。長さ6.5ｍ、幅３ｍで斜面を抉るような形で作られている。埋土から弥生土器片が出土している。どのような目的のために作られた遺構かは不明である。

SK01　標高87m 付近に作られた、径1.5ｍ、深さ0.3ｍの円形の土坑で、内面は赤変してよく焼けている。ただし、埋土から炭は出土していない。

SK02　ＳＴ01の南６ｍの緩斜面上に作られた長さ３ｍ、幅0.8ｍ、深さ0.15mの楕円形の土坑で、埋土から弥生土器片が出土している。

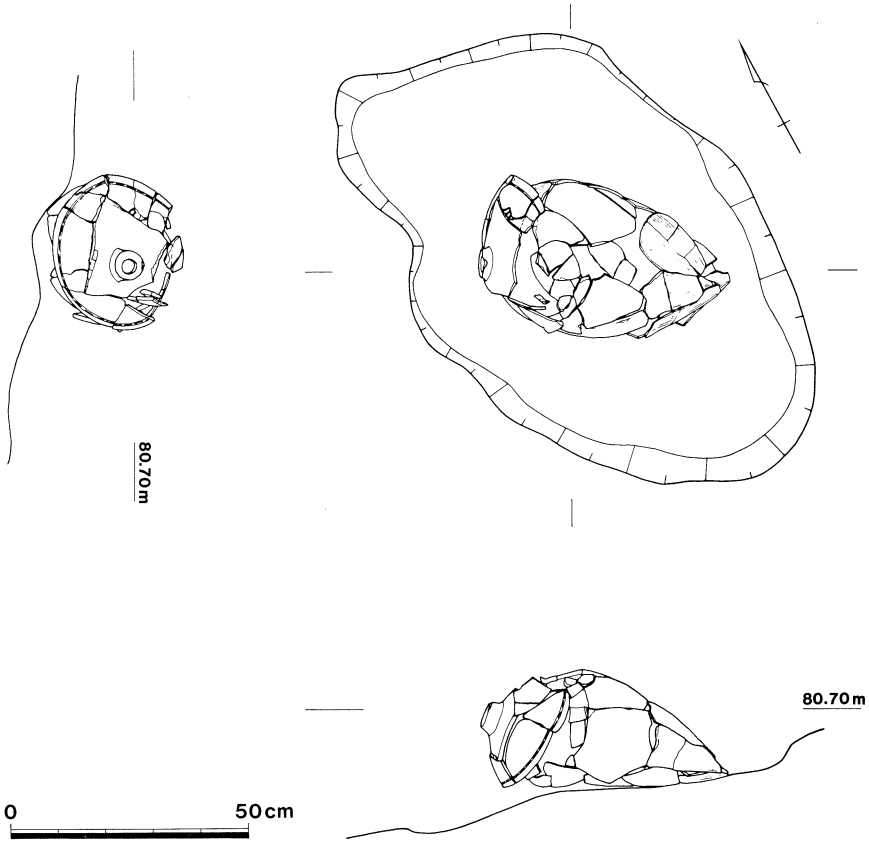


fig. 45
ST01平面・断面図

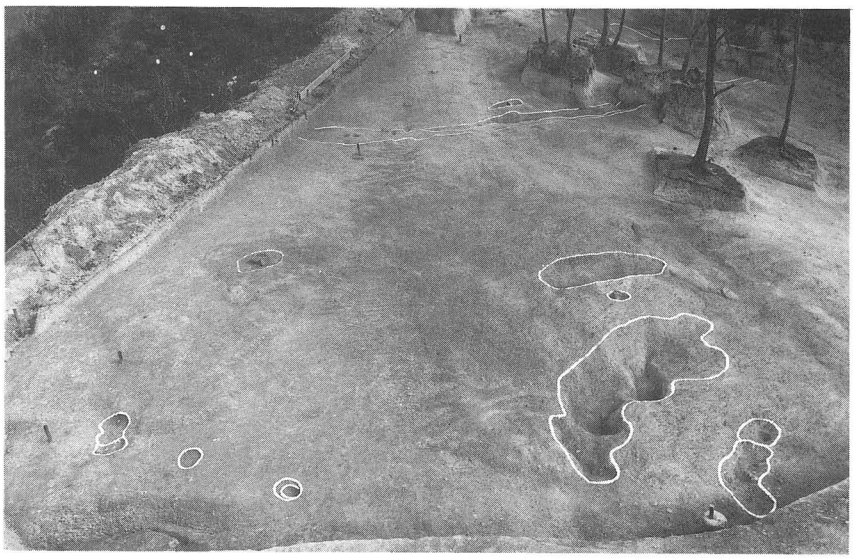


fig. 46
調査地北半(北から)

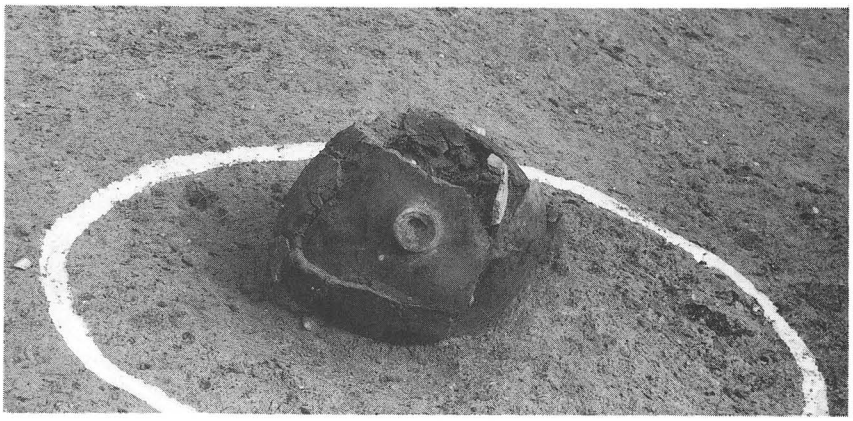


fig. 47 ST01
土器棺出土状況

fig. 48
SK02(南から)

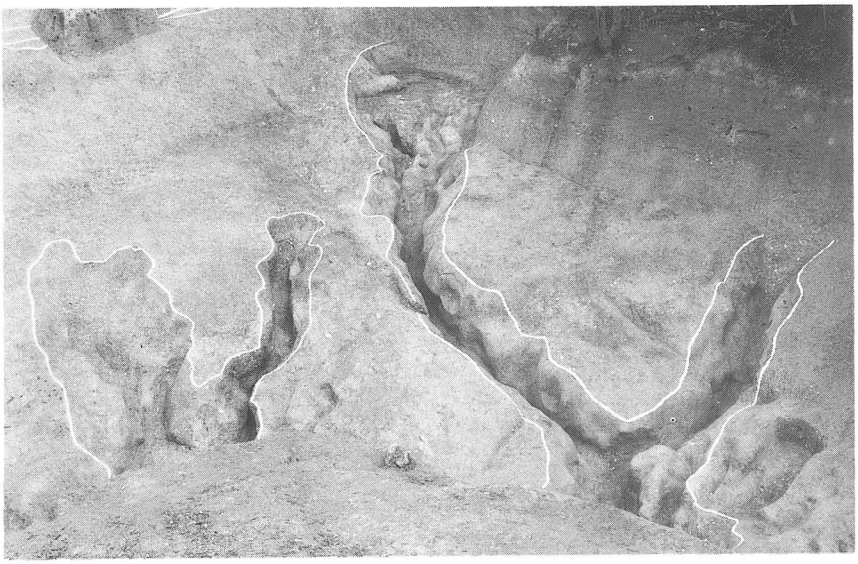


fig. 49 SD01～03

fig. 50
SD01 土器出土状況

ピット

Ｐ１～Ｐ３は、径約0.3ｍ、深さ0.1ｍのピットが1.6ｍ間隔で一列に並ぶが、建物の一部になるかどうかは、今回の調査区内では判断できなかった。Ｐ１、Ｐ３からは弥生土器が出土している。

Ｐ４は、径約0.4ｍ、深さ0.15ｍで、中から花崗岩の立石が出土した。Ｐ４は、ＳＫ02と接して存在するため、ＳＫ02と何らかの関連をもつ可能性がある。

SD01～03

ＳＤ01～03は、谷筋を流れる自然流路と考えられる。ＳＤ01は谷方向に沿う主流路と考えられ、ＳＤ02、03は、ＳＤ01に合流する副流路と考えられる。流路の幅は狭いところで１ｍ、広いところで３ｍ、深さ0.7～0.8ｍを測る。

ＳＤ01～03内からは、遺物が出土しているが、特にＳＤ01、02からは完形に復元できる弥生土器が出土している。

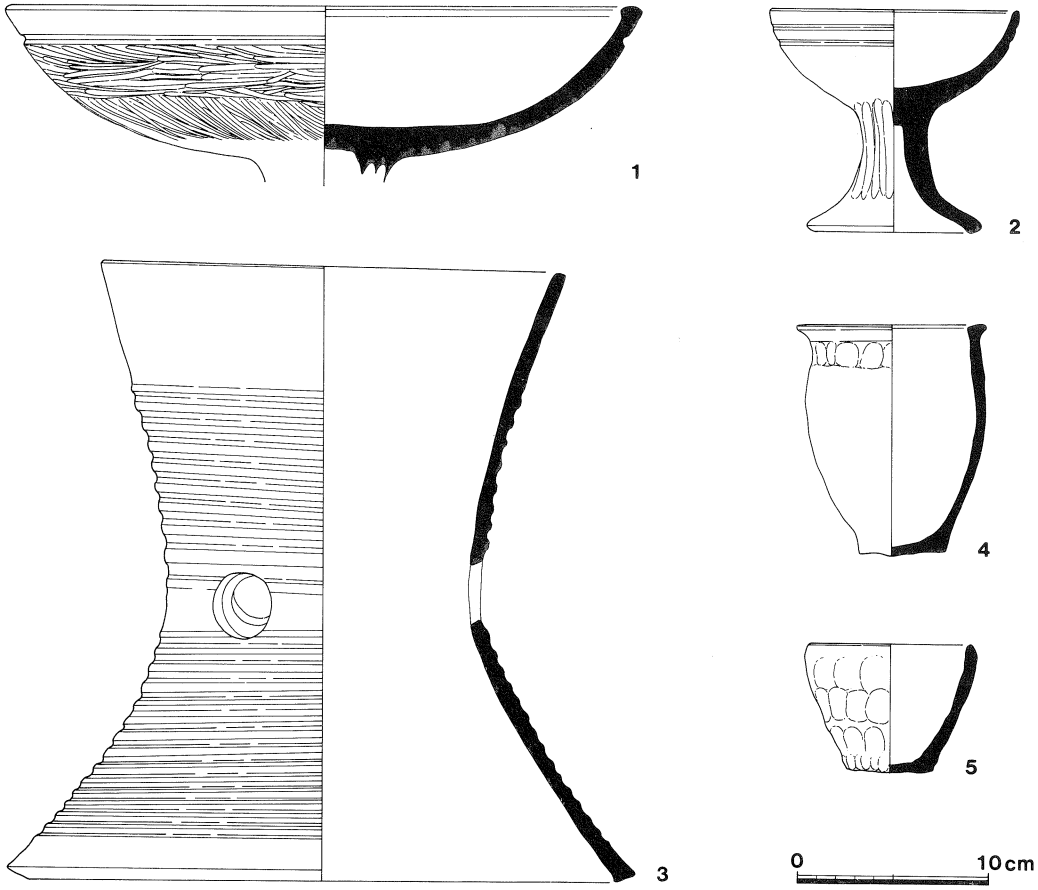


fig. 51 出土弥生土器実測図

3．出土遺物　今回の調査では、ＳＤ01～03周辺とＳＴ01、ＳＫ02周辺を中心として多数の弥生土器が出土している。石器は、サヌカイト製の石鏃、刃器、フレイク、チップが出土しているが、その数は少ない。弥生土器の時期は、弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）に属する。

弥生土器には、広口壺、甕、高坏、鉢、器台等の器種が存在する。この中でも高坏の出土点数は比較的多い、広口壺は、口縁端部に凹線をめぐらすもの、頸部に指頭圧痕文突帯をめぐらすものがみられる。高坏は、木器形高坏をはじめその種類は豊富である。器台には、三方向に円形透しを穿ち、凹線文を多用する大形のものがみられる。

4．まとめ　今回の調査区は、昭和59年度調査のＢ地区とＣ地区の尾根に挟まれた斜面部である。今回、住居址は検出されなかったものの、乳幼児を埋葬したと思われる土器棺や通路などの遺構が検出された。特に通路は、Ｂ地区のＳＢ04から谷の自然流路ＳＤ01、02までのびており、集落と川とを有機的に結びつけるものとして、当時の弥生時代人の生活を彷沸とさせる。

2．神出（かんで）・田井（たい）遺跡

1．はじめに

神戸市西区神出町田井に存在する神戸市立神出小学校において、講堂の建て替え及び校舎の増築が計画された。当地付近は古代末から中世にかけての須恵器の一大生産地である神出古窯址群の範囲内であり、また付近では、近年の圃場整備事業等に伴う埋蔵文化財発掘調査で、窯址や建物跡が発見されているため、遺構の存在が予想された。そのため、校舎等の建築予定地内において試掘調査を行った結果、中世の須恵器等の遺物を含む遺物包含層と、土坑等の遺構が確認された。よって、この地を神出・田井遺跡と名づけ、昭和61年５月12日より発掘調査を実施した。

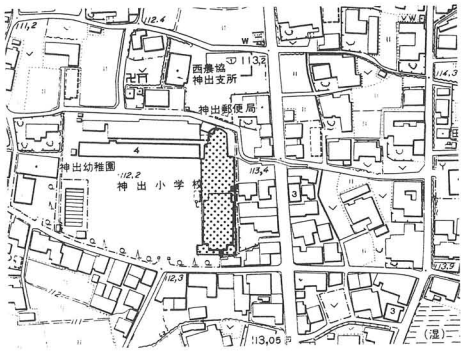


fig.　52　調査地位置図　１：5,000

2．調査の概要

縄文・弥生時代

調査区内においては、縄文・弥生時代の遺構は発見されなかったが、中世の土坑やピットの埋土および遺物包含層から、縄文・弥生時代の石鏃３点、石匙１点、その他サヌカイト片２点、チャート片１点が出土している。今までのところ、神出町近辺の洪積台地の上からは、縄文・弥生時代の遺構は発見されていない。よって、これらの遺物は、明石川の沖積地に位置する集落の人々が狩猟時に残したと考えられる。

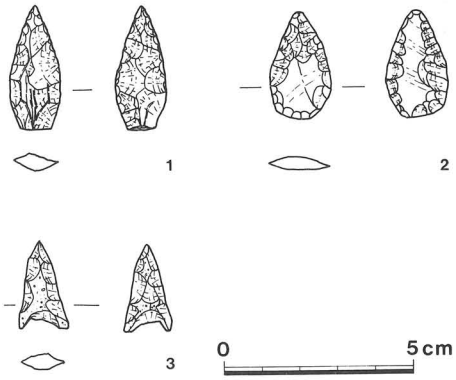


fig.　53　石鏃実測図

中世の遺構

中世の遺構としては、調査区南西部に掘立柱建物１棟とピット群、中央部から北部にかけて、土坑群と溝状遺構が検出された。

掘立柱建物（SB01）

調査区南西部で検出された掘立柱建物（ＳＢ01）は、２間×２間ないしは２間×３間の総柱の建物である。検出された柱穴は、２間×２間だけであるが、東側が旧講堂の基礎の部分で削平を受けているため、もう１間延びる可能性がある。建物の柱間の長さは、200㎝～220㎝。柱穴の掘形の大きさは、直径35㎝～40㎝である。

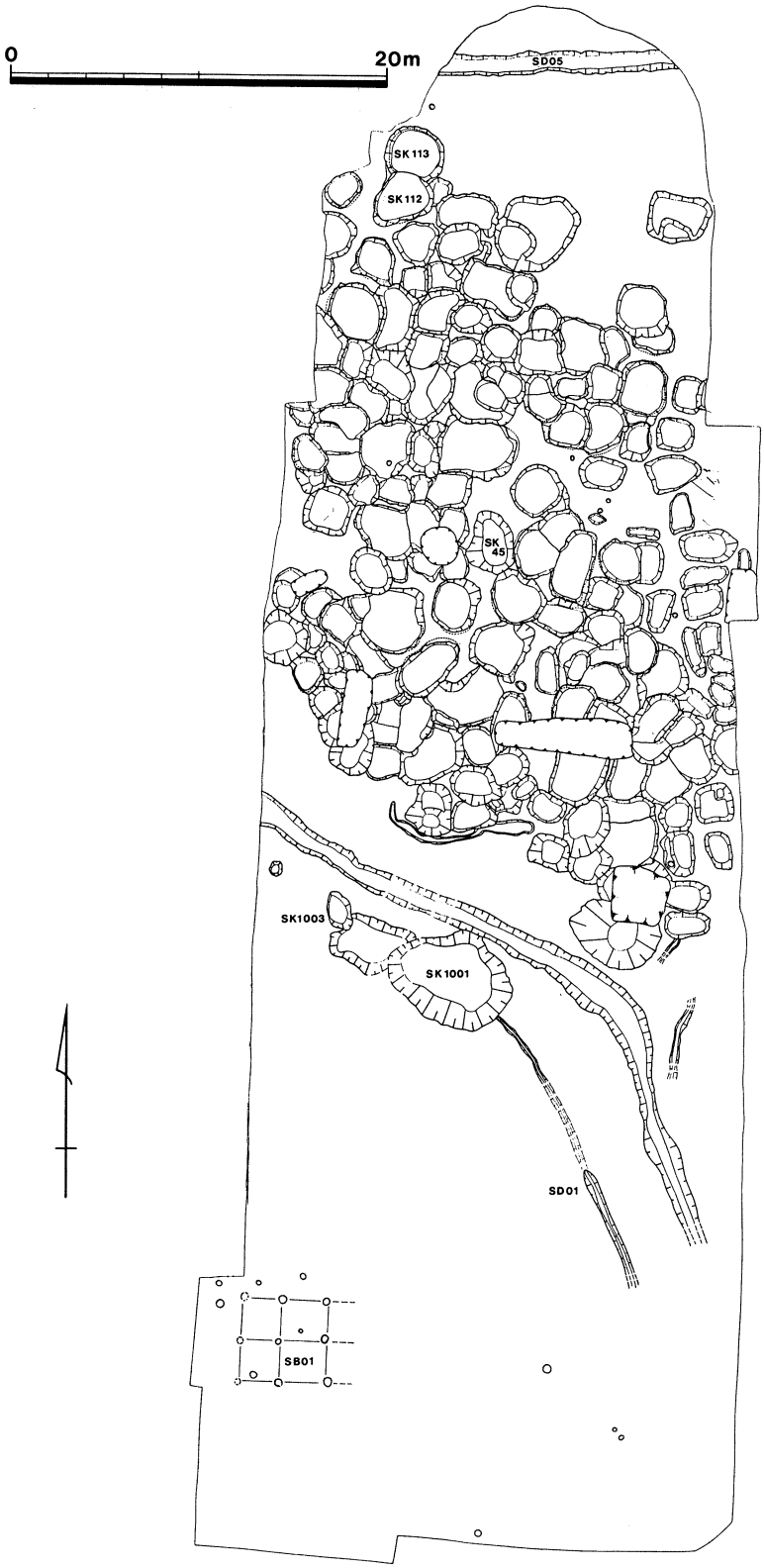


fig. 54
調査地遺構平面図

ピット群　ＳＢ01の周囲には、他にもピットが多数存在し、このピット群は、調査区外の南西にも拡がって存在するようである。このことから、掘立柱建物が、ＳＢ01の他にも数棟あるものと考えられる。

ＳＢ01の柱穴掘形内やピット内から須恵器、土師器の小片が出土しており、これらの遺物からＳＢ01とピット群は、中世初め（12世紀～13世紀初め）の建物と考えられる。

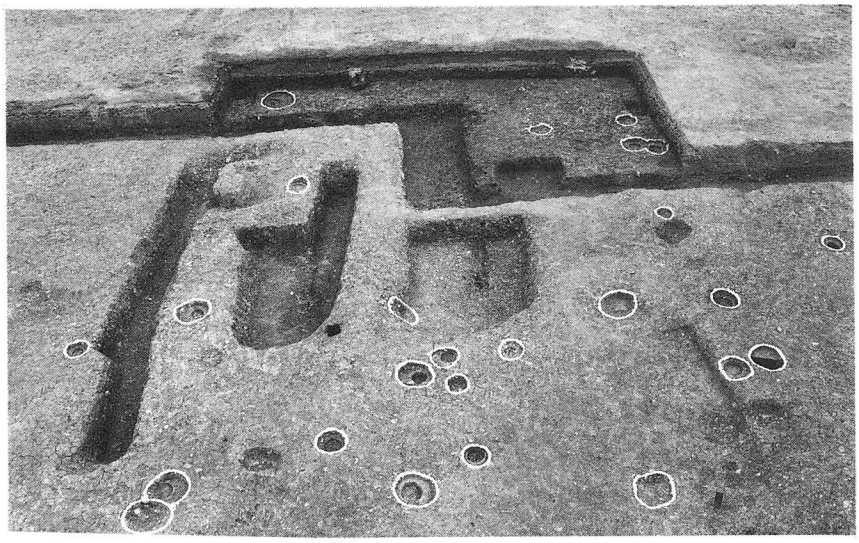


fig. 55 SB01

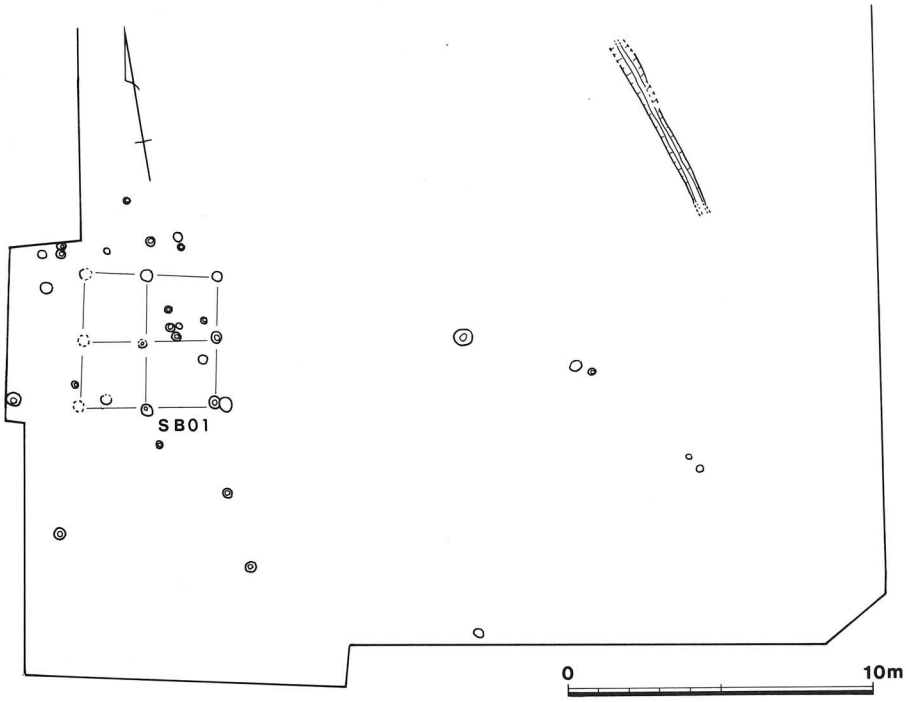


fig. 56
南半遺構平面図

土　坑　群
(粘土採掘坑群)

調査区の中央部から北部にかけて、174基の土坑が検出された。

これらの土坑は、調査区中央の地山が粘土層の区域にのみ存在し、北端部のややシルト質を帯びる所や、南部の礫を含む区域には存在しない。また土坑の深さは、深くても粘土がやや砂質を帯びるレベルまでも達していない。また土坑がかなり密集して掘られ、土坑の埋土は人為的に埋められた土がほとんどである。以上の諸特徴と、この付近が、中世の大窯業地であることとを考え合わせると、この土坑群は、須恵器や瓦製作粘土を採取した跡、すなわち粘土採掘坑であると考えられる。

これらの土坑の形状は、平面形は楕円形のものが最も多く、その他隅円長方形や、不定形のものが存在する。断面形は、底面はほとんどのものが平坦であるが、壁面は垂直に近いものや斜めになったものの他に、壁面の下半をえぐり込んだものも多く存在した。これは、窯業生産に適した粘土を少しでも多く採取しようとしたためと考えられる。土坑の大きさは、小さいもので0.5m×2.0m、大きいもので3m×4m、最も平均的なものは、2m×3m程度の土坑である。深さは、現存する遺構面が削平されていると考えられ、正確にはわからないが、現存する遺構面から80cm前後のものがほとんどである。しかし、粘土層の薄い所では、20～30cm程度のものもある。

fig.　57
土坑群全景

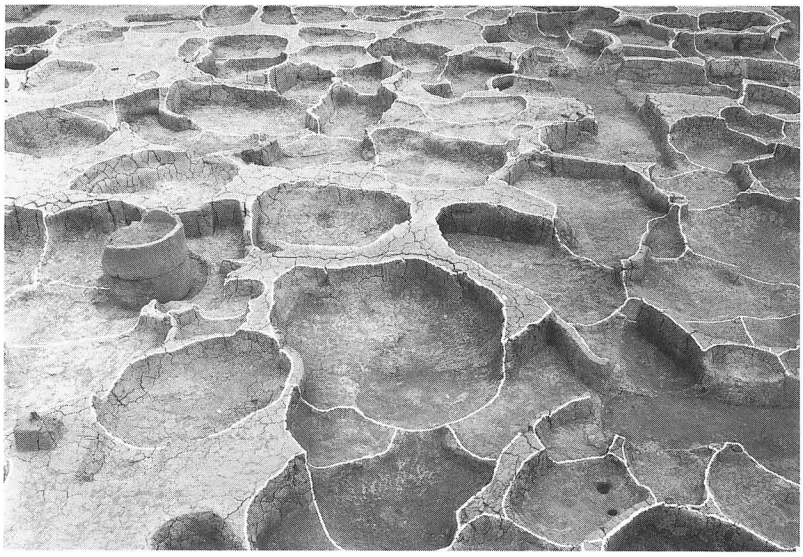


fig.　58　土坑群

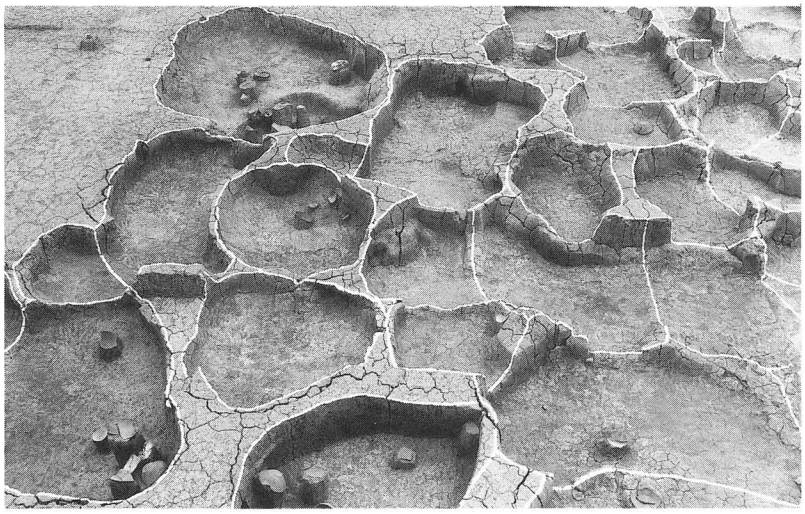


fig.　59　土坑群

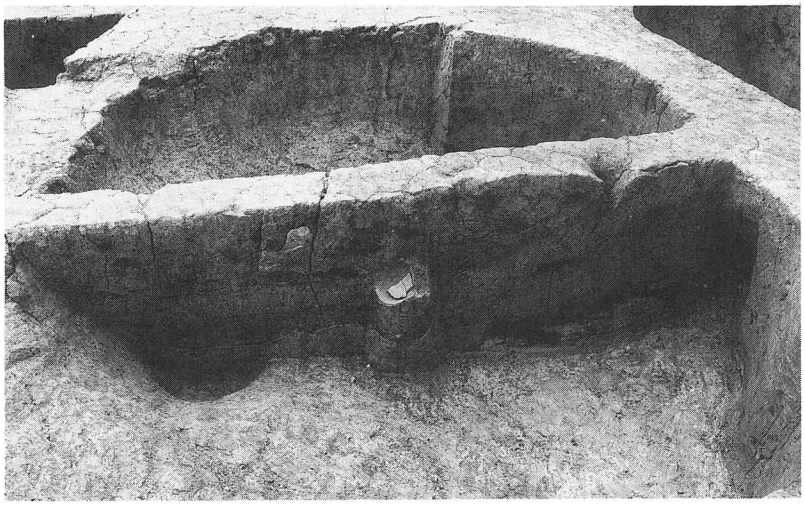


fig.　60　ＳＫ46

遺　物　今回の調査で出土した中世の遺物は、包含層の遺物の他はほとんどがこの粘土採掘坑内より出土したものである。粘土採掘坑より出土した土器は、そのほとんどが須恵器の椀もしくは鉢であった。その他若干須恵器の甕・小皿、瓦、土師器の椀が出土している。

土坑内の土器は、そのほとんどが完品に近いものではあるが、焼けひずんでいたり、一部欠けていたり、胴部や底部にひび割れが生じていたりするものである。すなわち、形はほぼ整っているが、少し不良な点があり、製品として供給できないものを土坑内に埋めたようである。

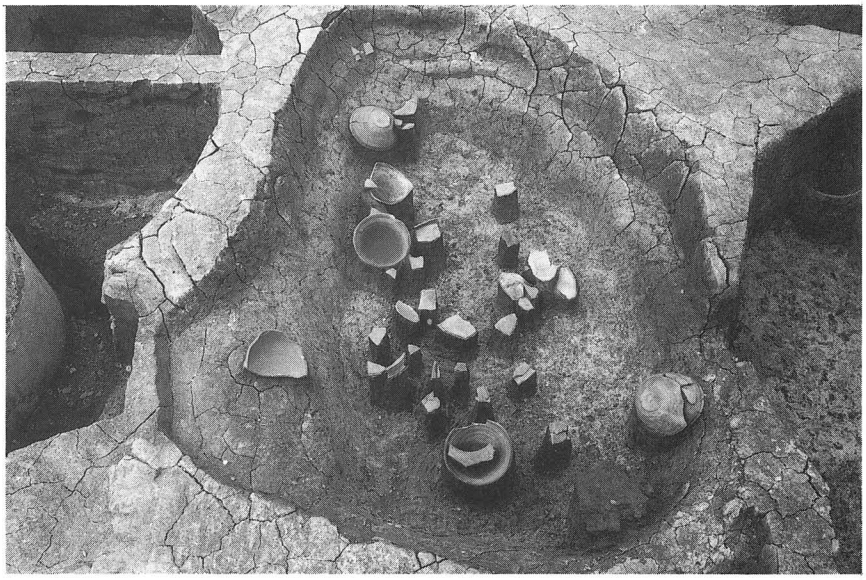


fig.　61　ＳＫ45

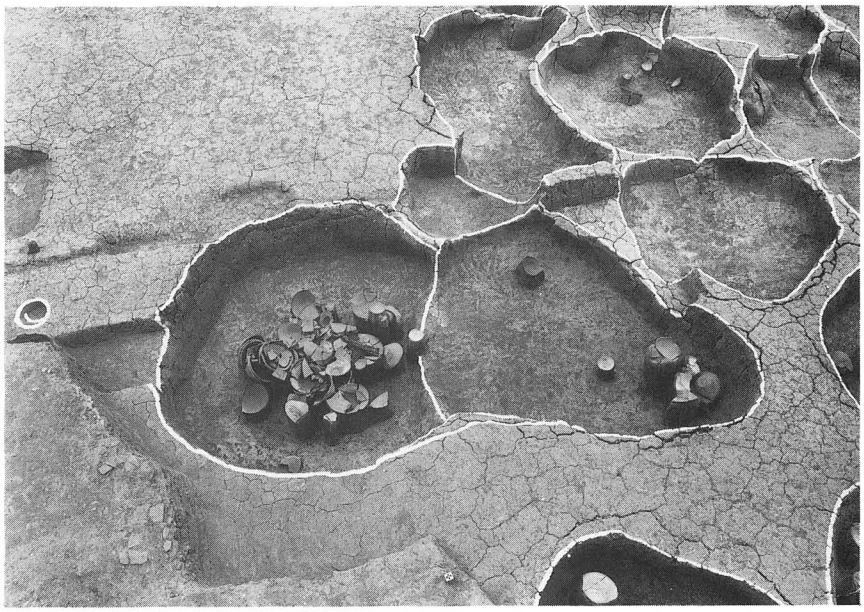


fig.　62
ＳＫ112・113

土坑内に埋められた土器の個数は、①１～４個、②５～10個、③20個以上と、３つのパターンがある。土器の出土するほとんどの土坑が①のパターンである。②のパターンは、土坑群の北半に６基見られ、③のパターンは、北西隅のＳＫ113、１基のみである。③の場合は、明らかに土坑内に、不良品の須恵器を廃棄したものと考えられるが、その他は、ほとんどが①のパターンで、それもたいていの場合、１、２個入っているのみなので、粘土採掘坑を埋める際に、何か意味を込めて須恵器も一緒に埋めたものと考えられる。

ＳＫ112からは、須恵器の他に、木製鋤が出土した。残存長は72.5cm、そのうち、身の部分は、19.5cmである。刃先には、鉄製のＵ字形鋤先を付けていた痕跡がある。柄の部分と身の一部が欠けており、粘土採掘中に使用不能となって、刃先だけを取りはずして、土坑内に投棄したものと考えられる。

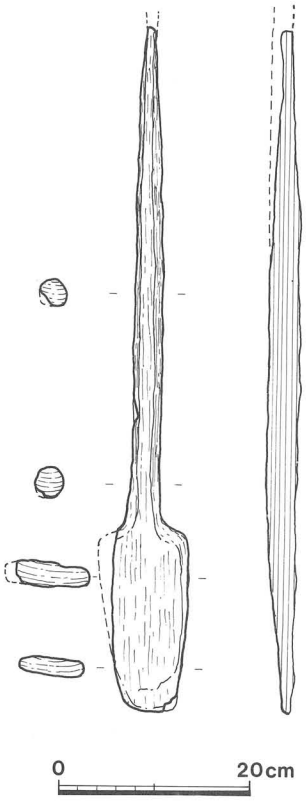


fig.　63　木製鋤（SK 112）

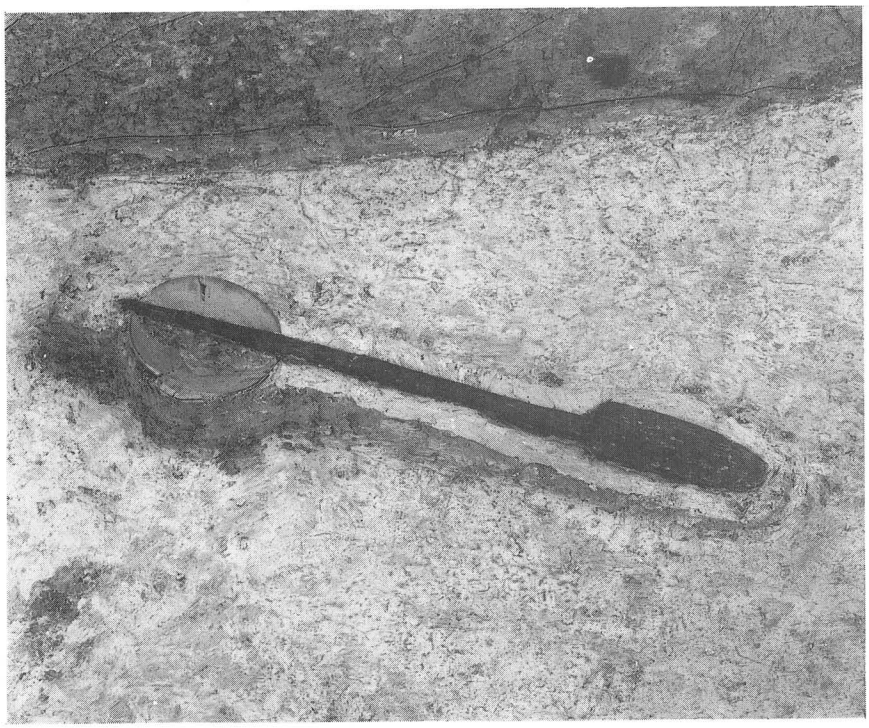


fig.　64
ＳＫ112　鋤出土状況

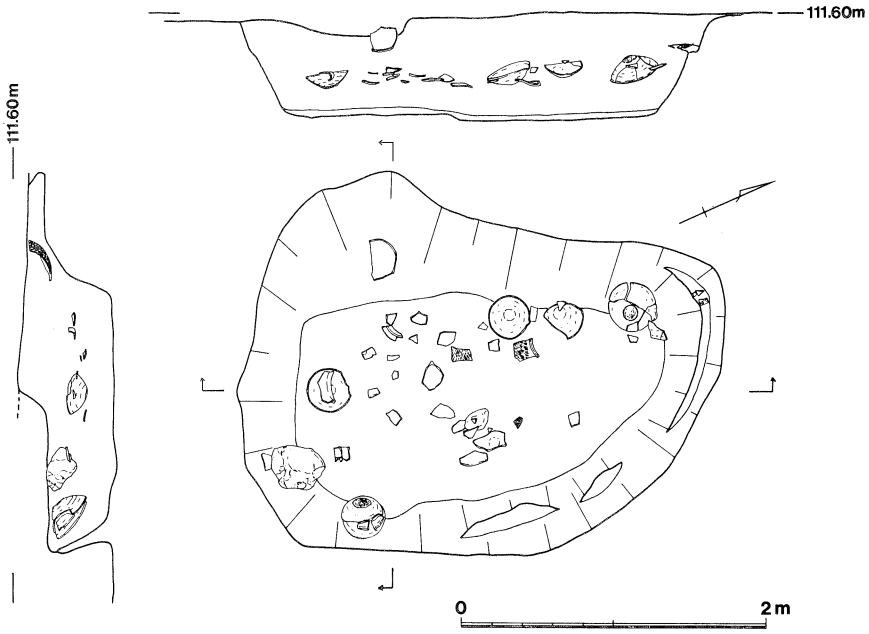


fig.　65　ＳＫ45　平面・断面図

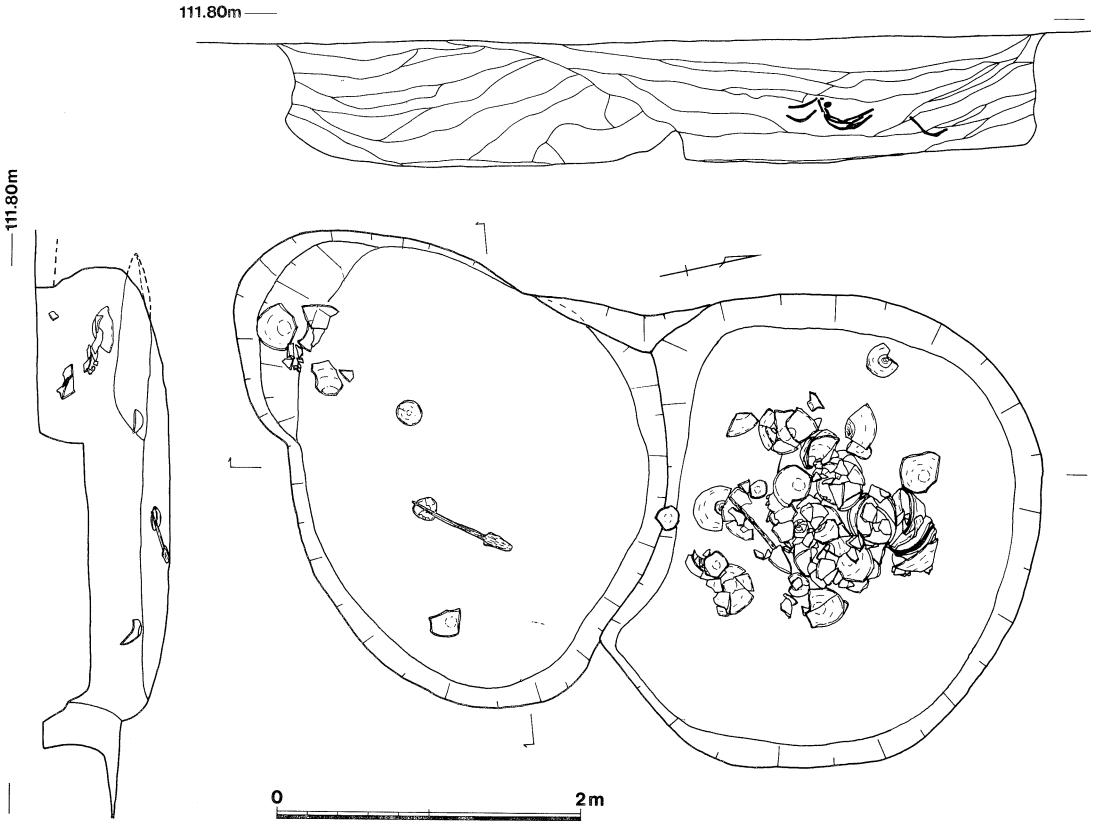


fig.　66　ＳＫ112・113　平面・断面図

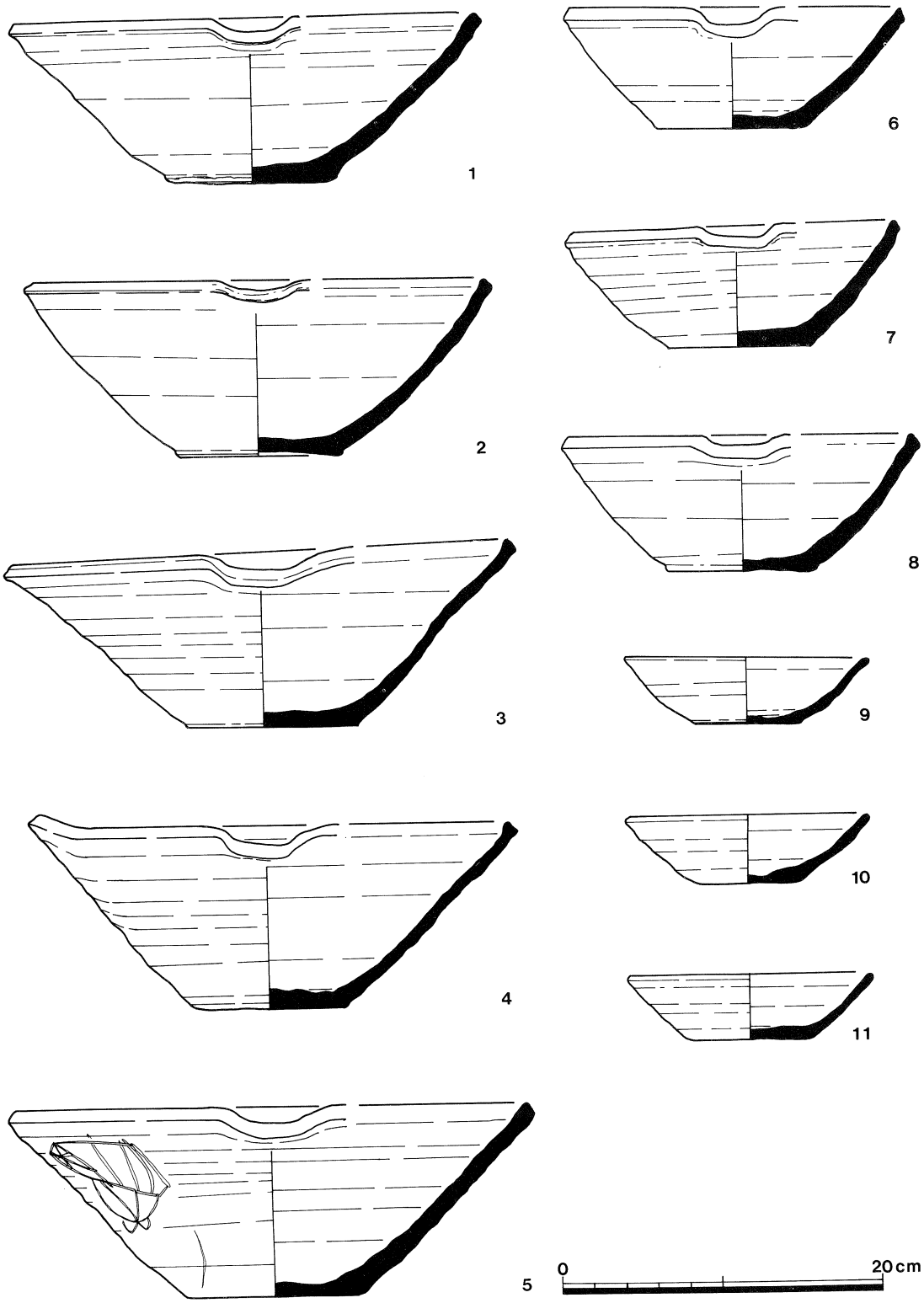


fig.　67　土坑出土須恵器

fig.　68　土坑出土須恵器

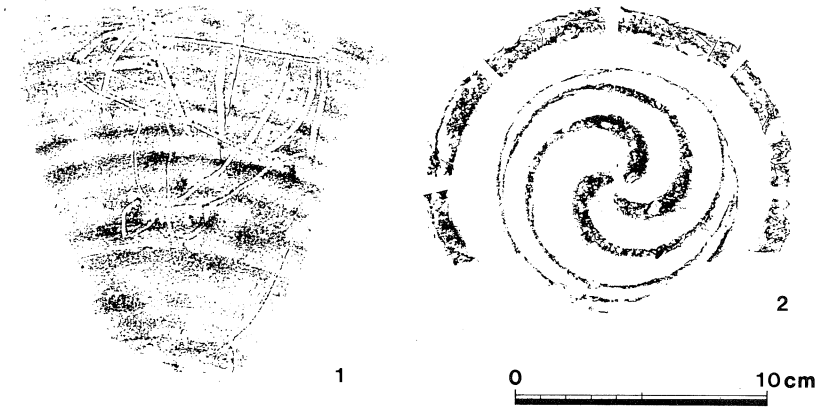


fig.　69
土坑出土須恵器・瓦
拓影
1：ＳＫ113 鉢ヘラ描
2：ＳＫ92

溝状遺構　調査区内より５条の溝状遺構が検出された。

SD01　ＳＤ01は、調査区南半の所を北西から、南東にかけて斜めに通っている溝である。ただし、ＳＤ01の北西端は、近世の土坑によって、南東端は、旧講堂の基礎によって切られており、溝の上半は、小学校造成時に削平を受けている。現存する形状は、幅30～40cm、深さ10cm程である。

SD05　ＳＤ05は、調査区の北端部を東西方向に通る溝である。この溝も上半は小学校造成時に削平を受けているため原形は保っていない。現存する形状は、幅100cm、深さ35cmを計る。

以上２つの溝ＳＤ01とＳＤ05は、土坑群の南端と北端の外側に掘られており、頂度地山の土質が変化する境界付近に造られている。このことよりこの２条の溝は、粘土採掘をする範囲を画する溝と考えられる。

近世の遺構　近世の遺構は、調査区南半に集中して存在した。ただし、全て旧講堂等の造成時に削平されており、深い土坑、溝のみが残っているだけである。

SK 1001　ＳＫ1001は、6.8ｍ×5.2ｍの楕円形の落ち込みである。埋土より、かっては水が溜まっていたと考えられる。水際と考えられる所には、こぶし大の礫や、土師器、備前焼の甕の破片、美濃焼・丹波焼等の陶器片が並んで出土している。

SK 1003　ＳＫ1003は、2.2×1.2ｍ、深さ0.45mの平行四辺形の土坑である。土坑内には、こぶし大から人頭大の石をコ形に並べている。埋土内から遺物は出土せず、石の間から備前焼のすり鉢の破片が１点出土したのみである。形状より近世の土壙墓の可能性が高い。

SD1001　近世の遺物は、上記の遺構の他は溝ＳＤ1001と攪乱内より多く出土している。染付けの碗や丹波焼・備前焼の甕・鉢などの陶磁器類がほとんどであるが、若干、美濃焼・信楽焼も混じっている。その他１点土製人形が出土している。上記の遺構・出土遺物や付近の住民の話からすると、近世後半から近代にかけての民家があったようである。

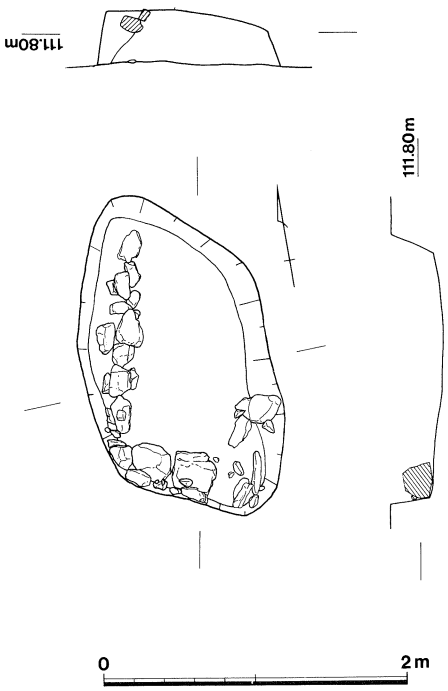


fig.　70　ＳＫ1003平面・断面図

fig.　71
SK1001遺物出土状況

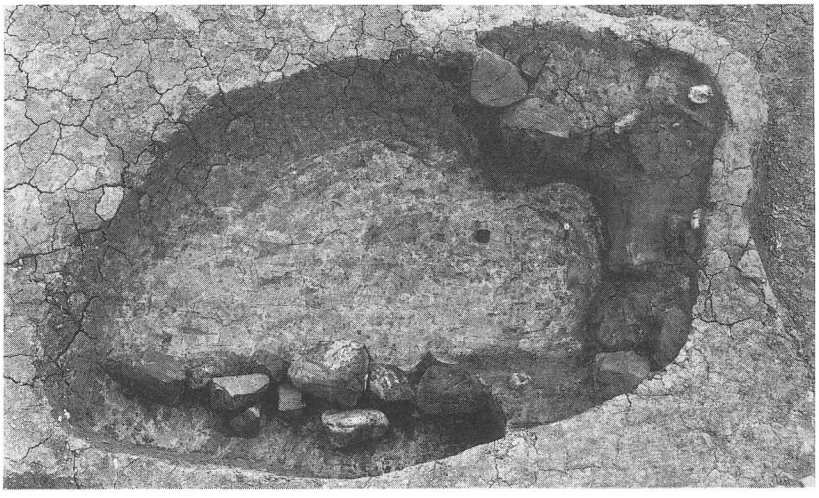


fig.　72　SK 1003

3．まとめ

今回の調査では、中世初頭（12世紀～13世紀）と近世後半（18世紀～19世紀）の遺構が確認された。

特に中世の遺構に関しては、粘土採掘坑と考えられる土坑が群をなして多数発見された。同様の遺構は同じ神出古窯址群内の神出・老ノ口遺跡で検出されているが、今回のように広範囲に検出されたことは初めてであり、原料から製品への生産過程を知るうえで重要で遺跡である。すなわち、採取した粘土を調査区南西部のＳＢ01とその付近の建物の集まる集落内の作業場に運び、加工し、土器を形成し、それを窯に運んで焼き上げるといった、生産過程が読みとれるわけである。

また焼き上がった物も、割れているものの他、焼けひずみ、ひび割れの大きいものは、窯の前の灰原に廃棄されるが、形の整っているものは、一度、集落まで持ち帰り、そこで製品として出荷する前に、チェックされ、焼けひずみ、ひび割れ、欠け等で製品として使用できないものは、粘土採掘坑に埋められたことが、土坑より出土した遺物から知ることができる。

以上のように、今回の調査で、須恵器生産の現地における生産から流通への製品の動きの一部を知ることができた意義は大きい。

3．新内（あらうち）古墳

1．はじめに　神戸市西区神出町地区における土地改良事業は、昭和53年度から実施され、それに伴い分布調査・試掘調査等を実施してきている。その結果、旧石器時代から鎌倉時代に至る遺物が確認され、計画の変更を行ってもなお保存不可能な排水路敷・パイプライン敷についてトレンチによる発掘調査を実施してきた。

2．調査の概要　前年度の試掘調査の結果、古墳時代後期の古墳が１基確認された地区について発掘調査を実施した。

古墳時代後期の古墳の形態としては、古墳が１基単独で営まれることよりも群集して存在することのほうが多いため、前年度実施した２×２ｍの試掘坑による調査では、群集形態をとる古墳を把握するには不十分であった。そのため、まず幅約２ｍの試掘溝（トレンチ）を約20m 間隔で設定し古墳の確認調査を実施した。

前年度確認された古墳は、字名を採用して新内古墳と命名したが、この新内古墳中央部に、排水路及びパイプラインが通り、全体の保存が不可能となったため全面調査を実施した。

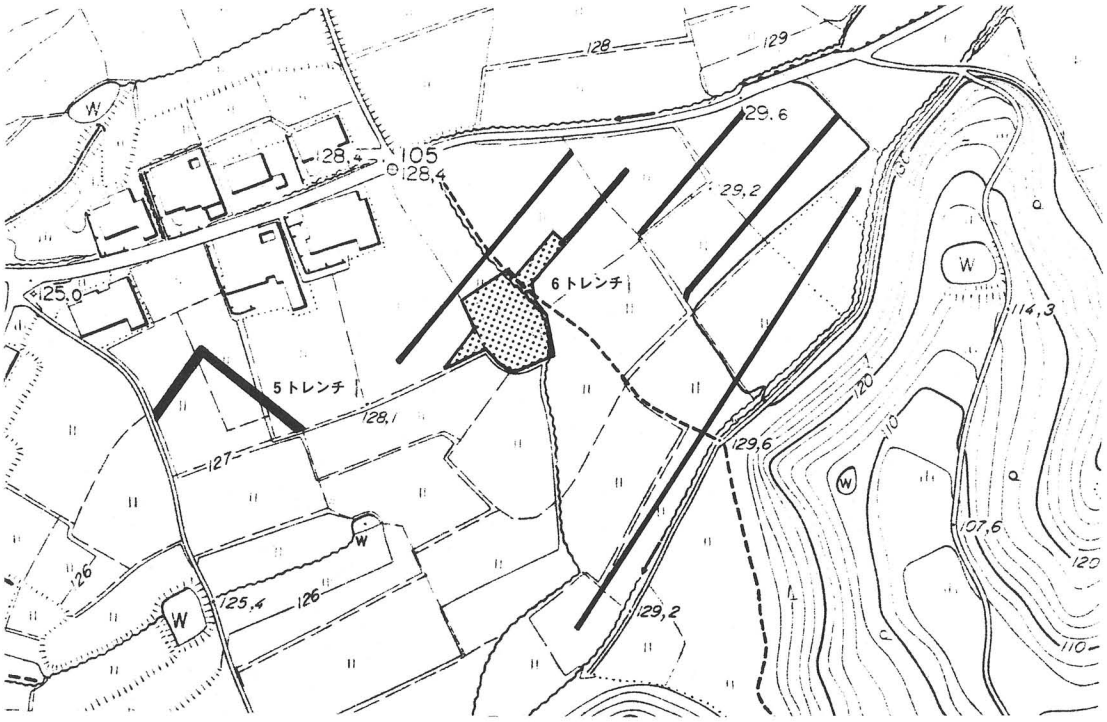


fig.　73　調査地位置図　１：2,500

1～4トレンチ　総延長約372m で古墳の確認調査を実施したが、遺構・遺物は全く確認されなかった。

5トレンチ　耕土を取り除くと、黄色粘土の地山面となり、その地山を掘り込む遺構が確認された。遺構には、溝・土坑・不定形落ち込み等があるが、出土遺物は近世から近代のものを中心にしており中世に遡る須恵器が若干認められたのみである。

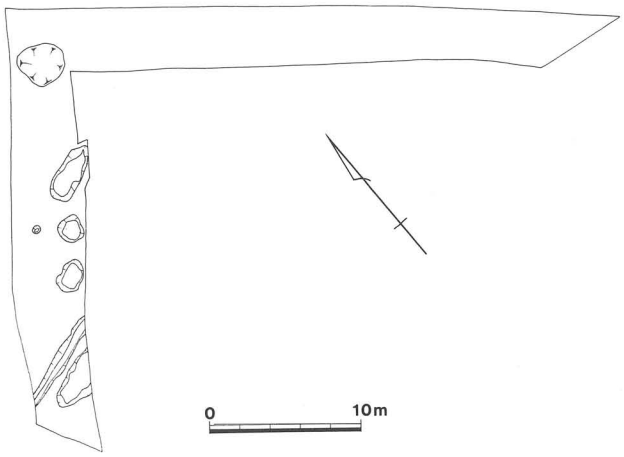


fig.　74
5トレンチ平面図

fig.　75　5トレンチ

6トレンチ　耕土を重機により掘削し、床土以下を人力により掘削し調査を実施した。床土を掘削すると茶黒色粘質土を埋土とする周溝が現れ、古墳の直径約17m（周溝幅約9mを加えると約26m）の円墳であることが判明した。古墳の盛土等はすでにすべて削平されており、埋葬施設等は確認されなかった。しかし、床土より出土した朱の痕跡をとどめた粘土や横穴式石室の掘形がみられないことなどから判断して、木棺を直接埋葬した古墳であると思われる。古墳中央部やや南で確認された土坑は、出土遺物もなくその性格を明らかにすることはできなかった。

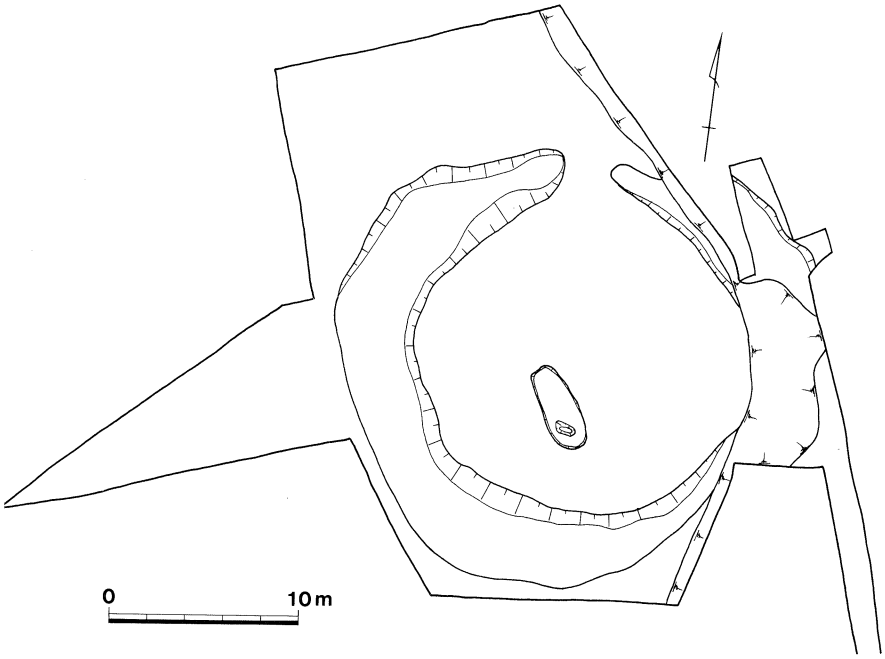


fig.　76
新内古墳平面図

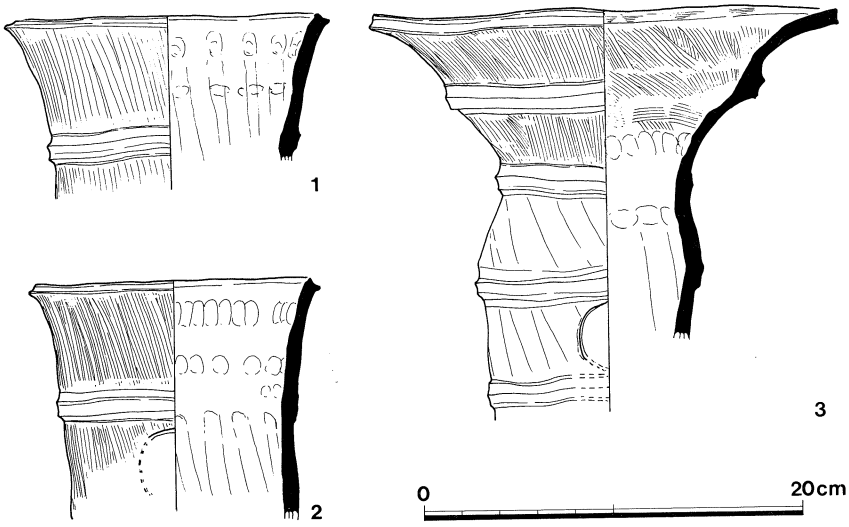


fig.　77　出土埴輪実測図

fig. 78
新内古墳全景(南から)

遺物は、周溝内より多量に出土しているが、須恵器・埴輪が大部分を占めている。須恵器には坏身・有蓋高坏・壺・装飾付壺・器台・甕等、多くの器種が存在していた。埴輪の種類についても、円筒埴輪・朝顔形埴輪・人物埴輪や器種不明なものも存在していた。また、土師器の甕もわずかではあるが出土している。

時期については、上述した須恵器等から古墳時代後期前半に築造され、後期後半まで追葬あるいは祭祀が行われていたと考えられる。

3．まとめ

試掘調査では、新たに古墳は確認されなかったが、新内古墳のような周溝を持つ古墳でないならば、墳丘盛土が削平されてていればその在在を確認することは困難である。この点を踏まえて、新内古墳は現段階では単独で営まれていた可能性が高いものとしてとらえておくことにする。立地は、現状では後世の削平が著しい地区であるが、古墳の西方に対して浅い谷となり、それを挟むようにのびる尾根が分岐する箇所にあたる。

また、豊富な遺物には時期幅があり、長期に及ぶ葬送儀礼が行われていたことを示している。しかし、この古墳の時期の集落遺跡は神出地区では全く不明であり大きな検討課題である。立地に関しても従来知られていた古墳の分布地区から離れており、注目される。

このように新内古墳の調査は、神出地区における古墳時代社会に新たな知見をもたらすことになり、同時に多くの疑問を生むことにもなった。今後の神出地区の歴史を考えて行くうえで大変重要なものとなるであろう。

4．出合（であい）遺跡

1．はじめに

出合遺跡は、明石川下流域の西岸に位置し、標高約15mの沖積地に立地している。明石平野の北西部に位置するこの周辺は、明石川を挟んで多くの遺跡が知られている。出合遺跡の北側、対岸には弥生時代の集落址、墓址、水田址等が発見されている玉津・田中遺跡をはじめ、居住遺跡、居住・小山遺跡が知られ、東方には新方遺跡などがある。また、この付近一帯は、条里と考えられる地割が認められるが、これまでに条里遺構の検出や、その形成時期については明確になっていない。

この遺跡は、住宅都市整備公団の宅地造成工事に伴い発掘調査が行われ、古墳時代から平安時代にかけての多くの遺構が検出されている。今回の明石国包線建設予定地は、すでに出合遺跡として知られている前述の北に隣接しており、遺跡がこの地域まで広がっていると予想されていた。

昭和60年度に道路建設予定地内の試掘調査を実施し、弥生時代及び中世の複合遺跡で、数時期の遺構面の存在が確認された。今回の発掘調査は、路線の北端から一部を除き、延長約150m分を対象に実施した。

fig. 79 調査地位置図 1：5,000

2．調査の概要　発掘調査に際し、調査地区割は道路センター杭（№13～15）を基準とし南北10m、東西を二分する形で設定し、今後の調査延長部分と図上で復元できるようにした。

今回の調査地は、弥生～鎌倉時代の遺構が存在し、層序として異なる遺構面を形成している。検出された遺構面は、第１遺構面（鎌倉時代以降）、第２遺構面（平安～鎌倉時代）、第３遺構面（弥生時代後期・古墳時代初頭）である。なお、今回の調査は第３遺構面までであるが、さらに下層の第４遺構面（弥生時代後期以前）の存在までは確認されている。

第１遺構面　遺構は少なく、土坑１基、溝６条、ピット６ヵ所が検出された。

SD01　溝ＳＤ01は、幅３～６ｍ、深さ0.3～0.4ｍで、近～現代の水路と方向をほぼ同じくしている。ＳＤ01の埋土中より出土する遺物には、須恵器、瓦、土師器、白磁などがあるが、いずれも摩滅が著しく、流路であったことがうかがえる。

SD06　ＳＤ06は、ＳＤ01に直交する形で南北方向に延びる幅30～70cm、深さ約10cmの溝で、ＳＤ01と合流している。この溝底より、多数の獣（牛か）の足跡が検出された。

SD02・03　ＳＤ02とＳＤ03は直交する方向で検出された。いずれも、深さ10cm内外である。

SK01　土坑ＳＫ01は、長さ3.5ｍ、幅1.0ｍで深さ５cmと浅い。

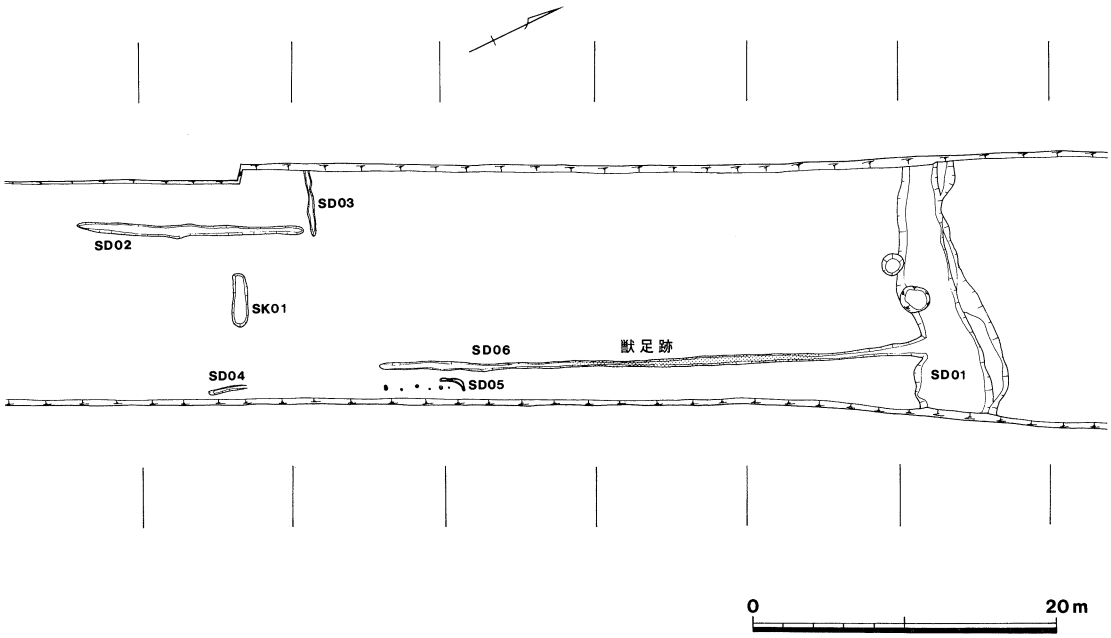


fig.　80　第１遺構面平面図

ピット　ピットは、ほぼ直線にあり、建物の一部となる可能性がある。

なお、明瞭に検出できなかったが、ＳＤ06の西側に沿って畦畔状のわずかな高まりが認められた。

これらの遺構からは、ＳＤ01を除き出土遺物に乏しいが、上層の遺物包含層及びＳＤ01出土遺物からみて、平安時代末から鎌倉時代頃の遺構と考えられる。遺構面の状況、遺構の在り方からみて、水田として利用されていたのではないかと思われる。なお、現在認められる条里の区割方向と溝の方向は、大概一致している。

fig.　81
第１遺構面全景(北から)

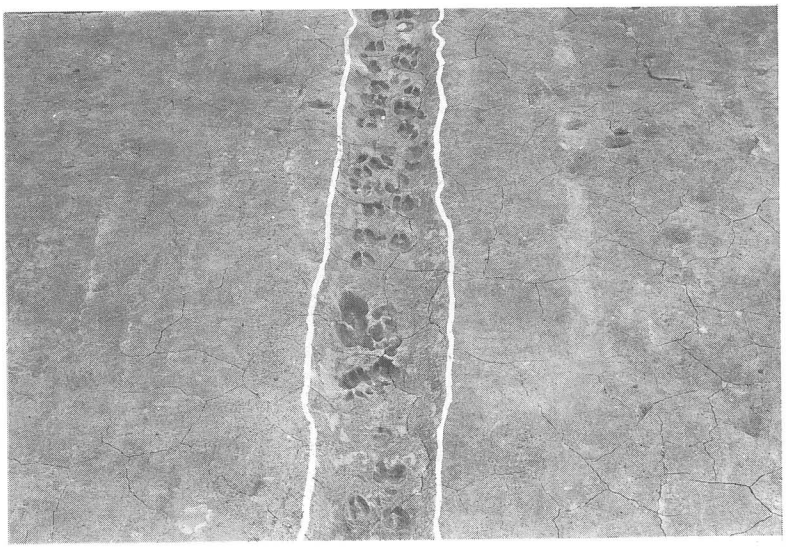


fig.　82 ＳＤ06　獣足跡

第２遺構面　平安時代末から鎌倉時代初頭の遺構面で、掘立柱建物５棟（ＳＢ01～05）、土坑５基（ＳＫ02～06）、溝11条（ＳＤ01・07～16）などがある。

これらの遺構は、12世紀後半に属すると考えられる。第１遺構面のベースである黄褐色粘質土層の直下、暗灰茶褐色粘質土をベースに遺構が形成されている。遺構面は、北へわずかずつ傾斜し高くなっている。遺構は調査地の北半に集中して存在していた。

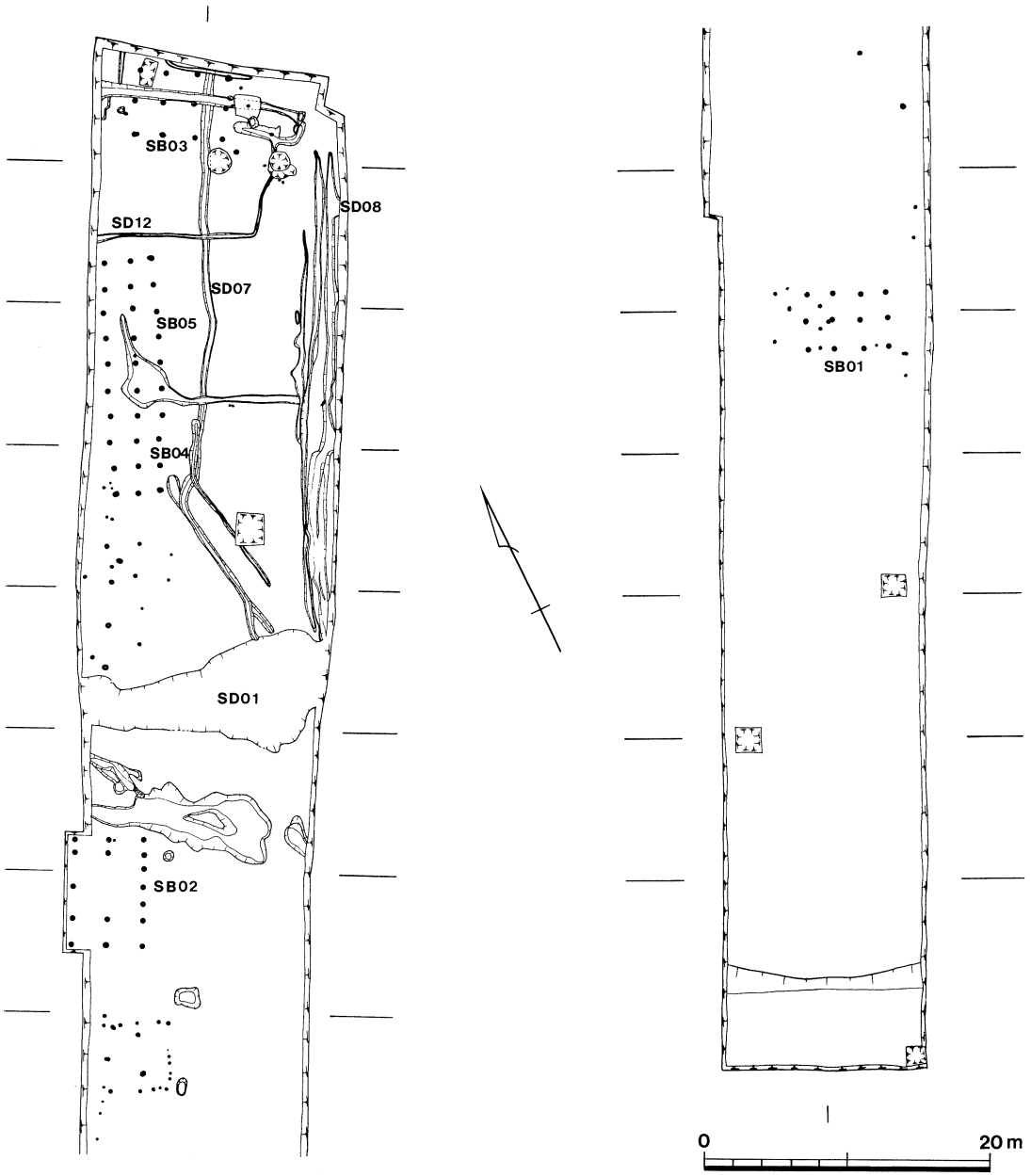
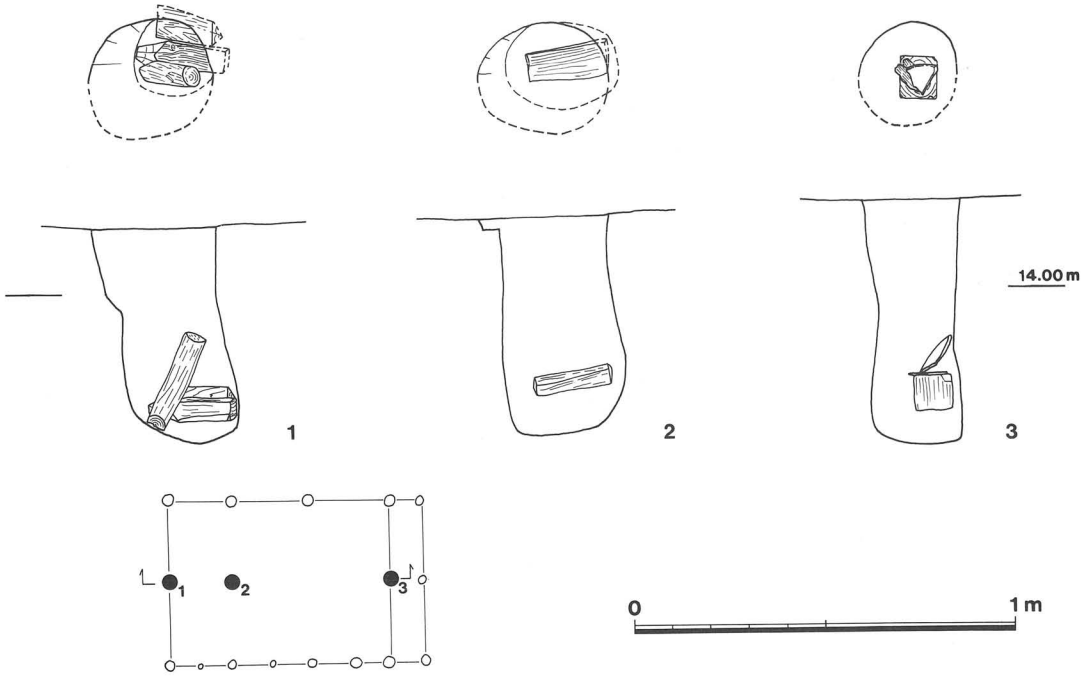


fig.　83　第２遺構面平面図

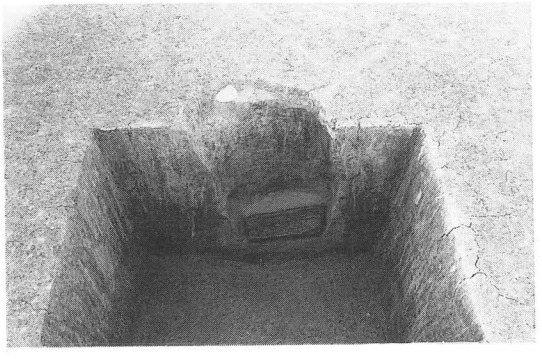
SB01　桁行３間、梁行２間（5.6m×3.9m）の総柱建物で東西棟である。周辺に数か所柱穴があるが、この建物との関連は不明である。

SB02　桁行３間、梁行２間以上、(7.4m×4.3m以上）で北側に１間庇と考えられる張出しを持つ。また、東側桁行には中間に柱を持つ構造で、この中に設けられた柱穴は、比較的浅い。この建物の柱穴からは、礎板として使用した材がいくつか出土しており、これら礎板には３種見られる。通常見られる板材のもののほか、角柱（立方体）のもの、もうひとつは、杭状のものを２本合わせて使用したものがある。確認できた柱穴の配置からみて、おそらく２間×３間の建物と考えてよいであろう。



fig．84　ＳＢ02　柱穴断面図

fig．85　ＳＢ02柱穴礎板出土状況



fig．86　ＳＢ02柱穴礎板出土状況

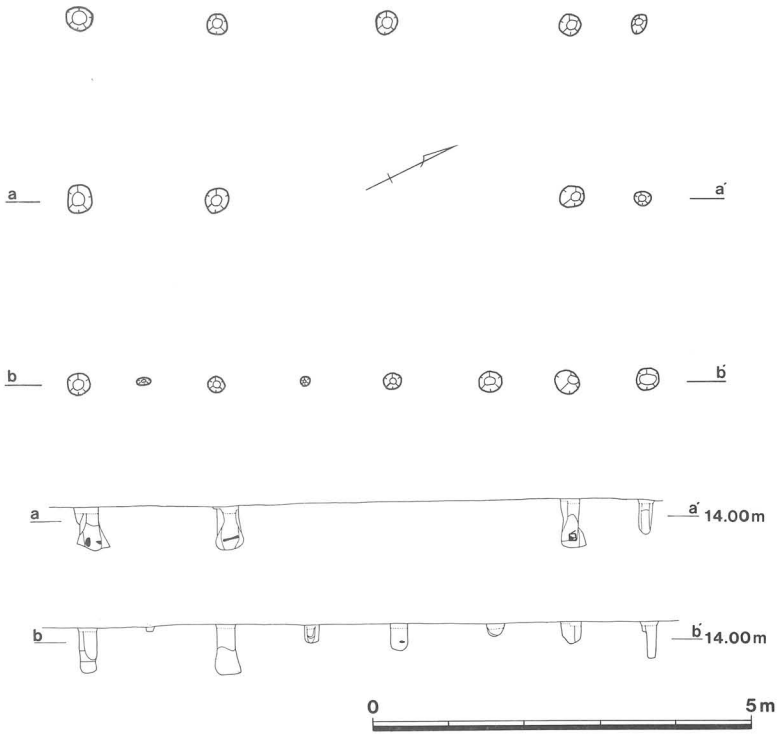


fig. 87
ＳＢ02平面・断面図

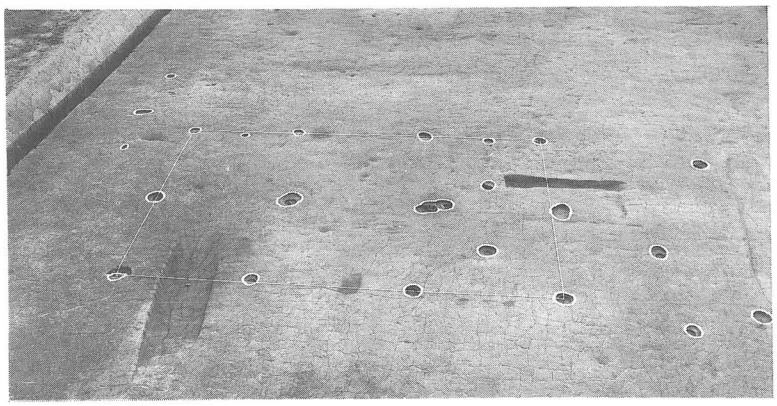


fig. 88 SB01(北から)

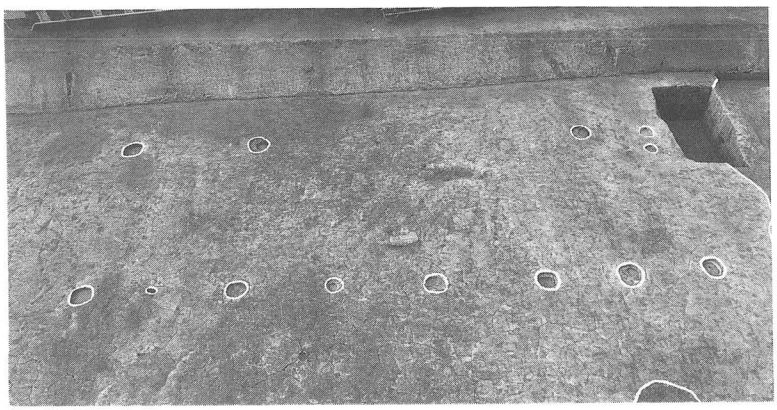


fig. 89 SB02（東から）

SB03　2間×3間が確認されたが、調査地外にひろがる可能性もある。他の建物と方向をやや異にしている。規模は、6.3m×4.5m。

SB04
SB05　ＳＢ04、ＳＢ05は、柱穴の配置の方向性から2棟としたが、明確な区分が難しい。ＳＢ04は2間×2間（3.6×3.6m）、ＳＢ05は桁行6間、梁行2間（11.2m×3.8m）南北棟の総柱建物である。

これらの建物址のうち、ＳＢ01、02、04、05の柱穴埋土状況からは、柱が抜きとられたと考えられる土層堆積が認められた。また、ＳＢ01柱穴のひとつは、柱の抜き取り部分に土師器羽釜片をつめたものがある。ＳＢ02の柱穴から出土した礎板は、比較的保存状態が良好であったが、柱根は検出されていない。

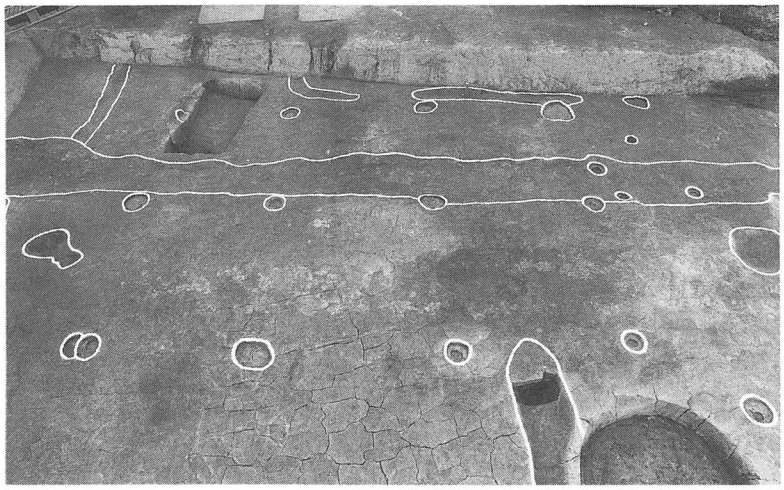


fig.　90　ＳＢ03(南から)

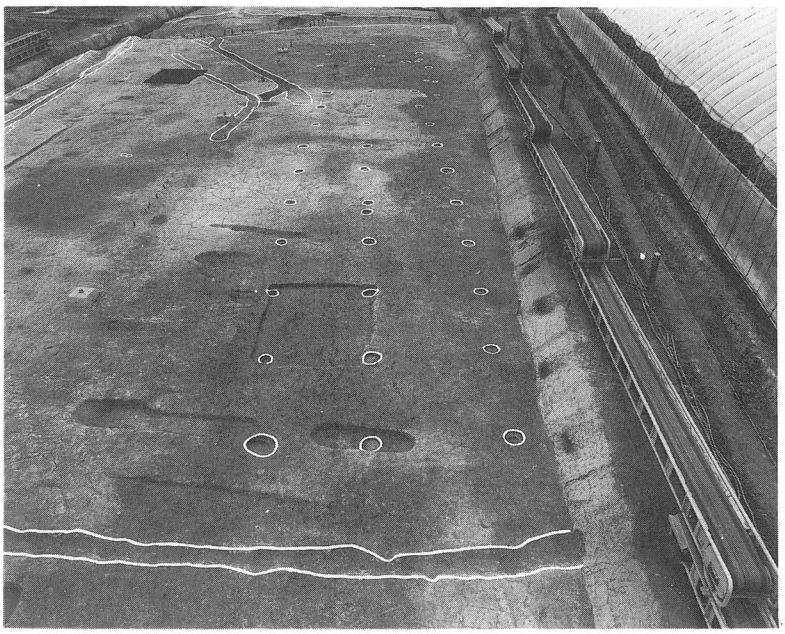


fig.　91　ＳＢ04・05(北から)

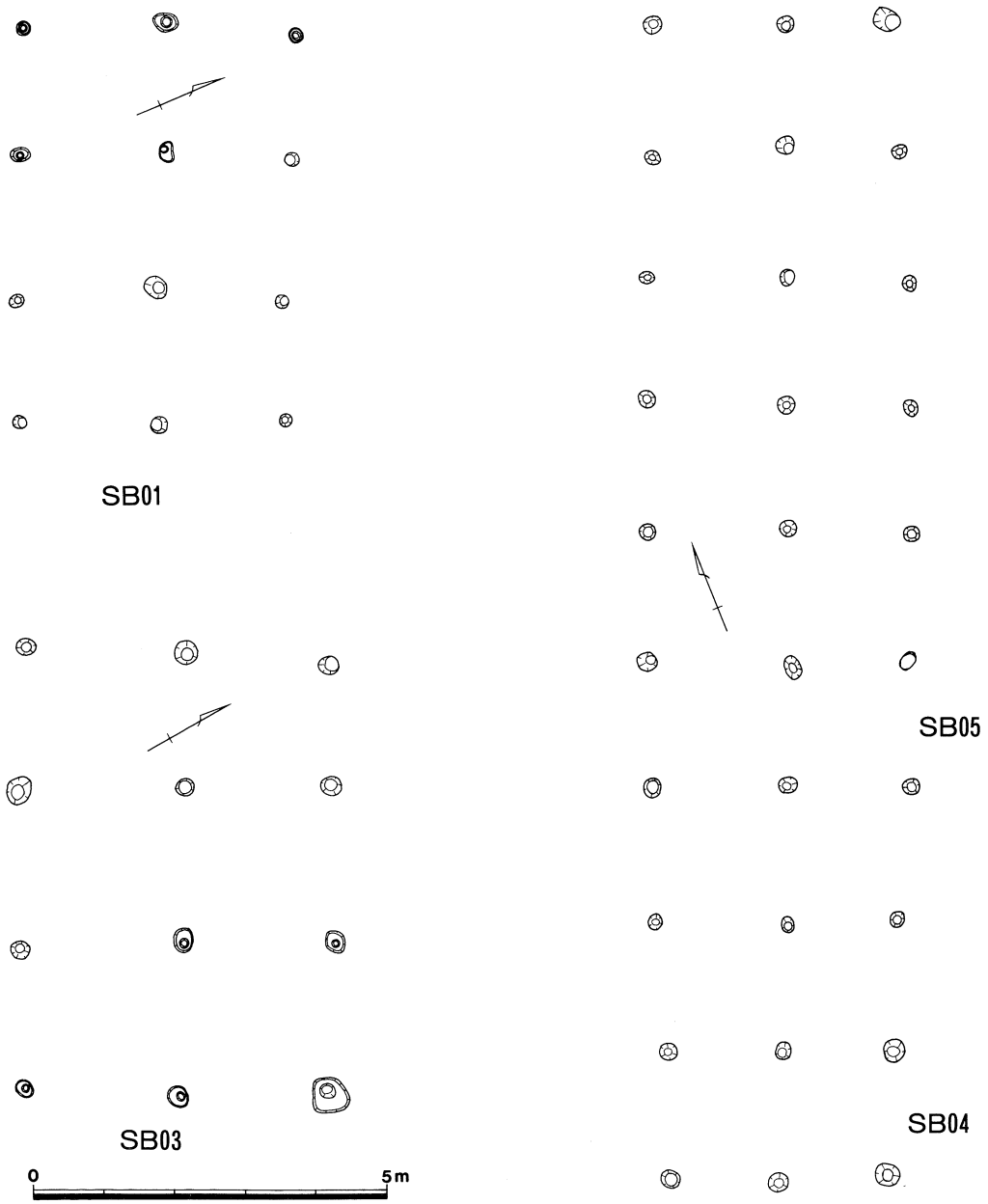


fig. 92 ＳＢ01・03・04・05平面図

溝

第１遺構面で存在したＳＤ01は、当遺構面では南東部分は拡大した形となっており、当遺構面の時期には存在していて、徐々に埋没してゆき、近世頃まで機能していたことがうかがえる。

溝は多く検出されたが、方向は同一若しく直交方向にあり、ＳＤ07、08などはＳＤ01に合流する。ＳＤ08は中間で東に直交方向に分岐する一条が

確認された（調査地外へ延びる）。これらの溝の性格は不明である。溝のあいだで切り合いが認められ、建物址とも新旧が認められるなど、今後検討が必要である。

遺　物　ＳＤ08、ＳＤ12からは廃棄されたような状況で、土器が出土している。これらは、器種からは須恵器椀が圧倒的に多く、他に瓦器椀が少量みられる。12世紀後半に属すると考えられる。

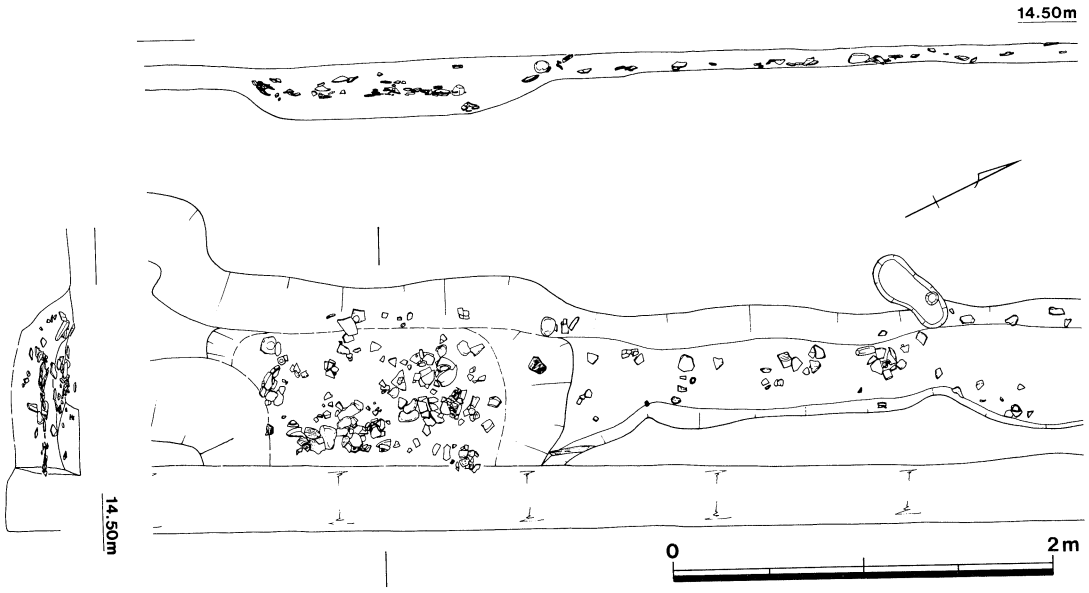


fig.　93　ＳＤ08遺物出土状況平面・断面図

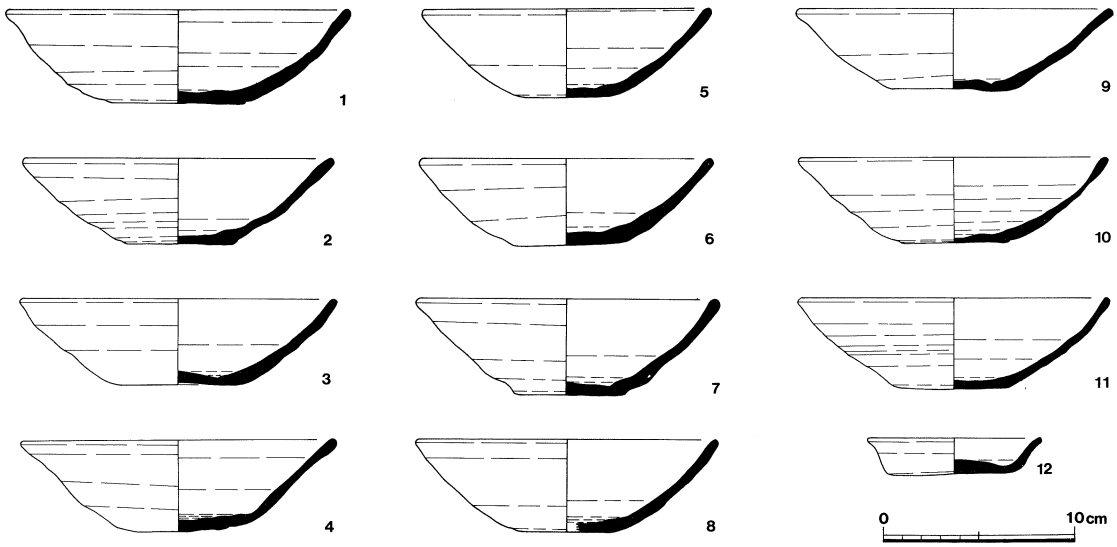


fig.　94　ＳＤ08出土須恵器実測図

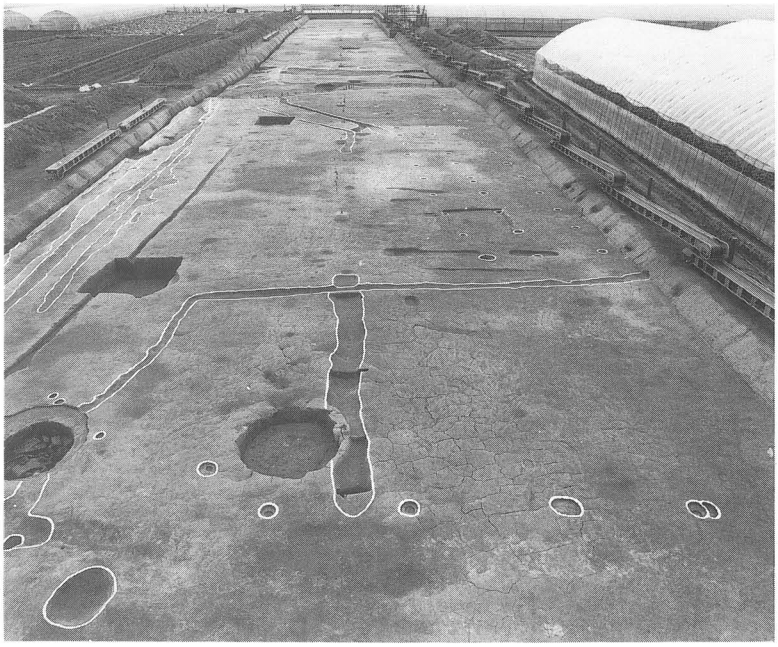


fig.　95
第２遺構面全景(北から)

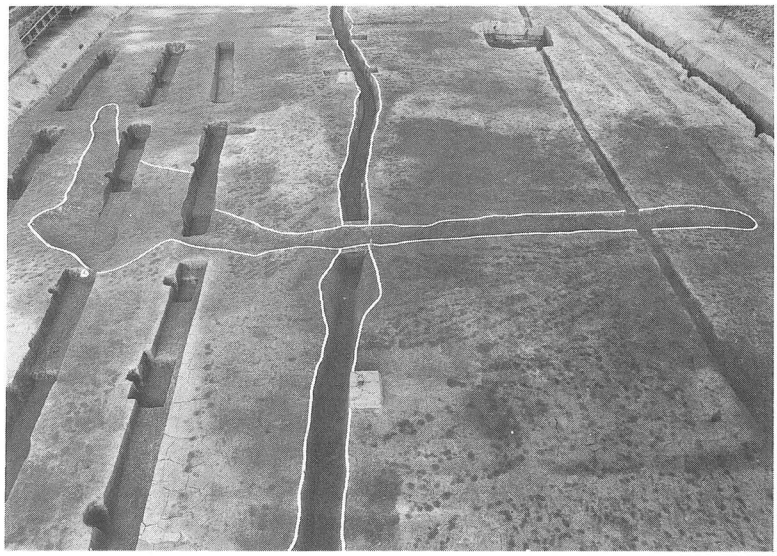


fig.　96
ＳＤ07・16(南から)

fig.　97
ＳＤ08遺物出土状況

fig.　98　第３遺構面遠景(南から)

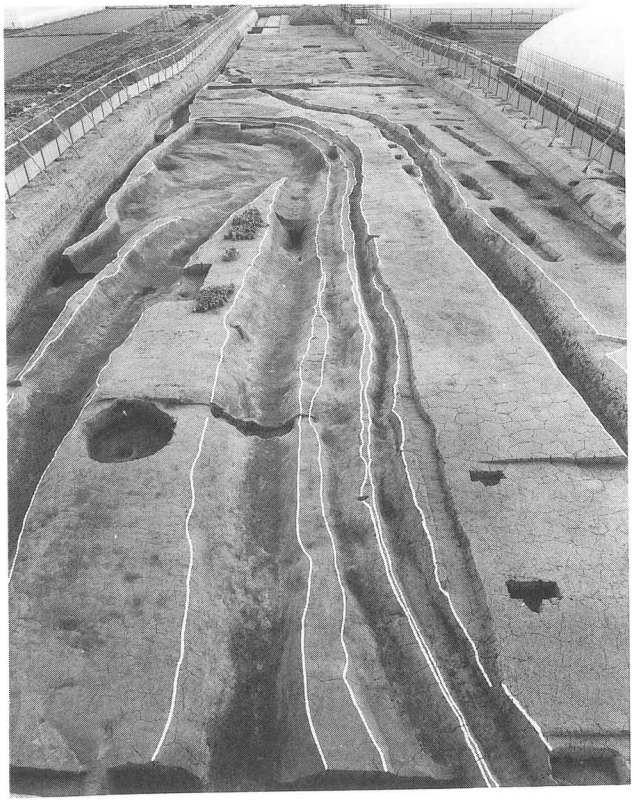


fig.　99　第３遺構面全景(北から)

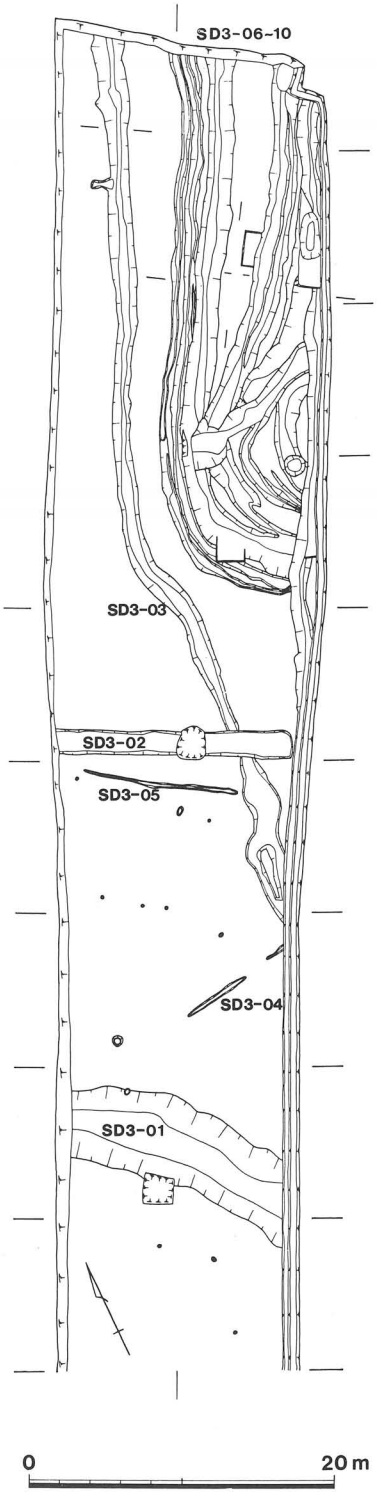


fig.　100　第３遺構面平面図

第３遺構面　第３遺構面では、溝11条、ピット12個が検出された。

SD3-01　調査区中央部に位置する東西方向の溝で、幅６ｍ、深さ20cmである。弥生時代末の土器が出土している。

SD3-02　調査区中央部に位置する幅２ｍ、深さ20cmの東西方向の溝で、調査区東端で途切れている。古墳時代の須恵器・土師器が出土している。

SD3-03　調査区中央部から、北へと流れる幅1.５ｍ、深さ70cmのＶ字状の溝で、ＳＤ３―02に切られている。弥生時代末の土器と種子が出土している。

SD3-04　ＳＤ３―01の北側に位置する幅30cm、深さ10cmの溝である。

SD3-05　ＳＤ３―02の南側平行する東西方向の溝で、幅20cm、深さ10cmである。

SD3-06～11　調査区南部を南から北へと流れる一連の溝で、それぞれの溝の幅と深さは以下のとおりである。

	幅	深さ
ＳＤ３―06	0.6m	40cm
ＳＤ３―07	１ｍ	50cm
ＳＤ３―08	1.6m	80cm
ＳＤ３―09	２ｍ	90cm
ＳＤ３―10	1.4m	80cm
ＳＤ３―11	2.6m	80cm

この内、最も新しい溝はＳＤ３―10で、他の溝を切って流れており、古墳時代初頭の土師器が出土している。

その他の溝は、西からＳＤ３―06、ＳＤ３―07、ＳＤ３―08、ＳＤ３―09、ＳＤ３―11で、調査区東壁から出て、南へと曲がり、ほぼ平行に流れている。

ＳＤ３―08とＳＤ３―09は、北で１本の溝であったものが、カーブの終わったところで、２つに分かれており、間の土堤状の高まりの部分で、土器群が検出された。

土器群は大きく３ブロックに分けられ、北側のものは、東西１ｍ、南北1.５ｍの広がりを持ち、壺２個体、甕４個体以上が、細かく壊れた状態で発見された。中央のものは、下半分を欠いた壺が据えられ、その北側に器台が倒立した状態で検出された。南側のものは、短頸壺１個体、器台３個体、高坏２個体、甕５個体以上が、東西１ｍ、南北2.５ｍの範囲で検出された。これらの土器群の土器は、弥生時代後期から終末期のものと考えられる。

ＳＤ３―06、07、08、09、11から出土した土器も、同時期のものと思われる。なお、ＳＤ３―11からは、サヌカイト、種子、植物遺体が出土している。

ピット　ピットは12個が検出されたが、建物として並ぶものはない。ピット、ＳＤ３―03、ＳＤ３―04の出土遺物は、土師器の小片のみで、時期は不明である。

調査区東壁ぎわで断ち割りを行ったところ、下層の遺構として、調査区北部で１条、南部で２条の溝状遺構が存在すると考えられる。

fig.　101　南土器群　平面・断面図

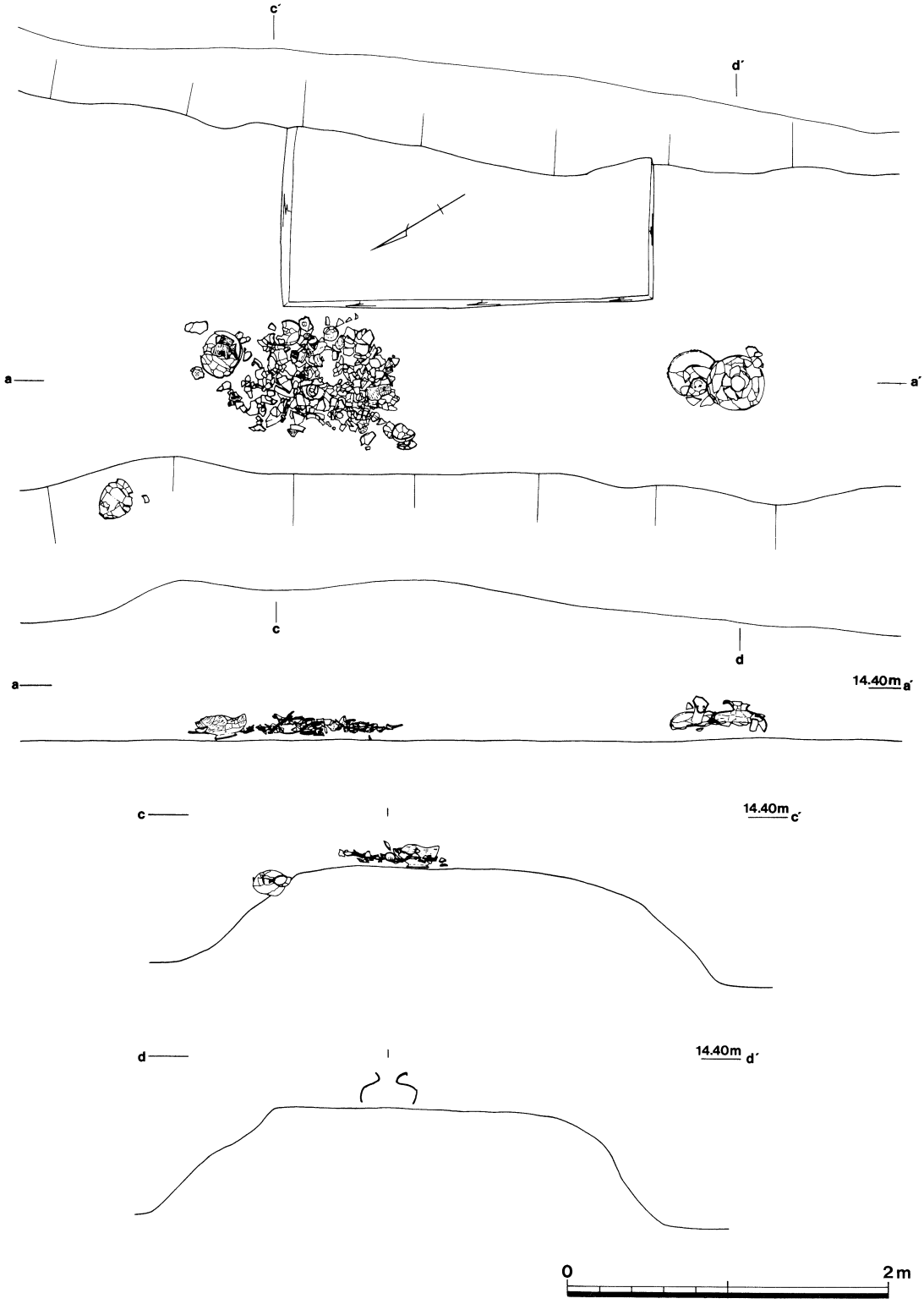


fig. 102 北・中央土器群 平面・断面図